甲府市文化財調査報告 22

ヂクヤ遺跡

―一般廃棄物最終処分場建設に伴う発掘調査報告書―

2003

甲　府　市
甲府市教育委員会

序

甲府市教育委員会では、現在、６名の文化財主事を配置し、国史跡武田氏館跡をはじめとする約400か所の埋蔵文化財包蔵地の保護･保存に、鋭意努めているところでございます。

近年では、年間の調査件数が100件を超えることもあり、文献に記録されることのなかった地域の歴史や文化の解明が急速に進んで参りました。そうした成果の一端は、既にまちづくりへの活用が図られていますが、遺跡の多くが市街地北側の山裾部で発見されているため、甲府盆地の底部に暮らした人々の生活につきましては、なお、不明のままとなっております。

この度刊行の運びとなりました本書は、盆地中央部の低湿地に位置するヂクヤ遺跡の発掘調査報告でございますが、一般廃棄物最終処分場の建設に先立って平成13年度に実施された調査では、古墳時代から中世にかけて断続的に営まれた集落の跡が確認され、魚を獲るために用いた投網の錘（おもり）や大量の炭化米が検出されるなど、人々の生活を支えた生業の一端を明らかにすることができました。

このほかにもヂクヤ遺跡の調査は、水害常襲地帯における集落の歴史的発展過程をたどる上で欠くことのできない数々の情報を提供しておりますので、今後、調査・研究の成果が広く一般市民の地域学習に活用されていくことを願って止みません。

末筆となりましたが、発掘調査から報告書刊行まで御指導・御鞭撻をいただきました関係諸機関・関係者各位に、衷心より御礼申し上げます。

平成15年３月

甲府市教育委員会

教育長　角　田　智　重

例　　言

1．本書は山梨県甲府市蓬沢町1014-1他に所在するヂクヤ遺跡の発掘調査報告書である。
2．本調査は甲府市一般廃棄物最終処分場の建設に伴い、環境部と甲府市教育委員会の協議に基づき、甲府市教育委員会が実施した。
3．本書に関わる調査は、試掘調査を志村憲一（文化財主事）が担当し、本調査は志村・山﨑雅恵（調査員）・伊藤正彦（文化財主事）・望月秀和（嘱託）が担当した。なお、A・B・C区の調査分担は次のとおりである。

A区　　山﨑
B区　　志村・望月
C区　　山﨑・伊藤

4．本書の執筆は、志村・山﨑・望月が分担して行い、文末にそれぞれの文責を記した。
5．本書の編集は、中込　功（文化芸術課長）を責任者として、志村・望月が行った。
6．発掘調査における基準点測量は、昭和測量株式会社に委託した。
7．本書の挿図・図版は内藤真千子・栗田かず子・林久美子・鈴木由香・中川美千子・大塚敦子・志村・山﨑・望月が作成した。
8．本書に関わる出土遺物及び記録図面・計測データ・写真等は甲府市教育委員会で保管している。
9．出土した金属製品・木製品等の保存処理は、(財)帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
10．発掘調査及び報告書作成に際し、次の機関及び諸氏からご教示・ご高配を賜った。ここに記して厚く感謝申し上げたい。

㈶帝京大学山梨文化財研究所・岡野秀典・河西　学
櫛原功一・斉藤秀樹・田中　要・永井宏幸
贄　元洋・野崎　進・畑　大介・林　弘之
平野　修・宮里　学・望月和幸・百瀬正恒
（五十音順、敬称略）

【発掘調査及び整理作業参加者】

荒木昭彦　雨宮英郎　池谷富士子　岡　悦子
小沢四郎　笠井博幸　金井いく代　窪田信一
小池幹子　小林正輝　小宮通子　川口格一
岸本美苗　倉田勝子　坂本しのぶ　佐田　昇
佐田金子　清水秀樹　鈴木正文　武井美知子
塚原澄子　雀田　勝　中村孝一　長澤晴雄
波木井祥和　花曲敬子　樋口　進　平沢則子
古屋袈裟男　本道歌子　本道政清　村田勝利
望月貴美子　望月宏美　森下　豊　渡辺　茂
渡辺百合子　（五十音順、敬称略）

凡　　例

1．本書中の遺構名・遺構番号は、現場において形状・検出状況に応じて付したものを、本書作成の際に調査区全体で遺構別の通し番号に改めたものである。
2．本書中の方位は、磁北を示している。
3．本書中の地図は、甲府市発行1/2,500、国土地理院発行1/50,000「甲府」を使用した。
4．周辺の遺跡（図２）は、甲府市教育委員会1992『甲府市遺跡地図』から作成し、遺跡名・遺跡番号を対応させている。その他の本書作成に引用した文献・資料等については各末に明記した。
5．土層説明及び遺物の色調の土色表示は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』(1997後期版）を使用した。
6．遺構図の縮尺及び方位は各図面上に表示している。
7．遺構断面図・土層図は各図に標高を明記した。
8．本書中の遺構名の略記は以下のとおりである。なお遺構番号の「号」は省略している。

竪穴建物	＝	竪
掘立柱建物	＝	掘
土坑	＝	土
グリッド・一括	＝	G・括
炭化物集中範囲	＝	炭
試掘時出土及び表面採取	＝	試・採

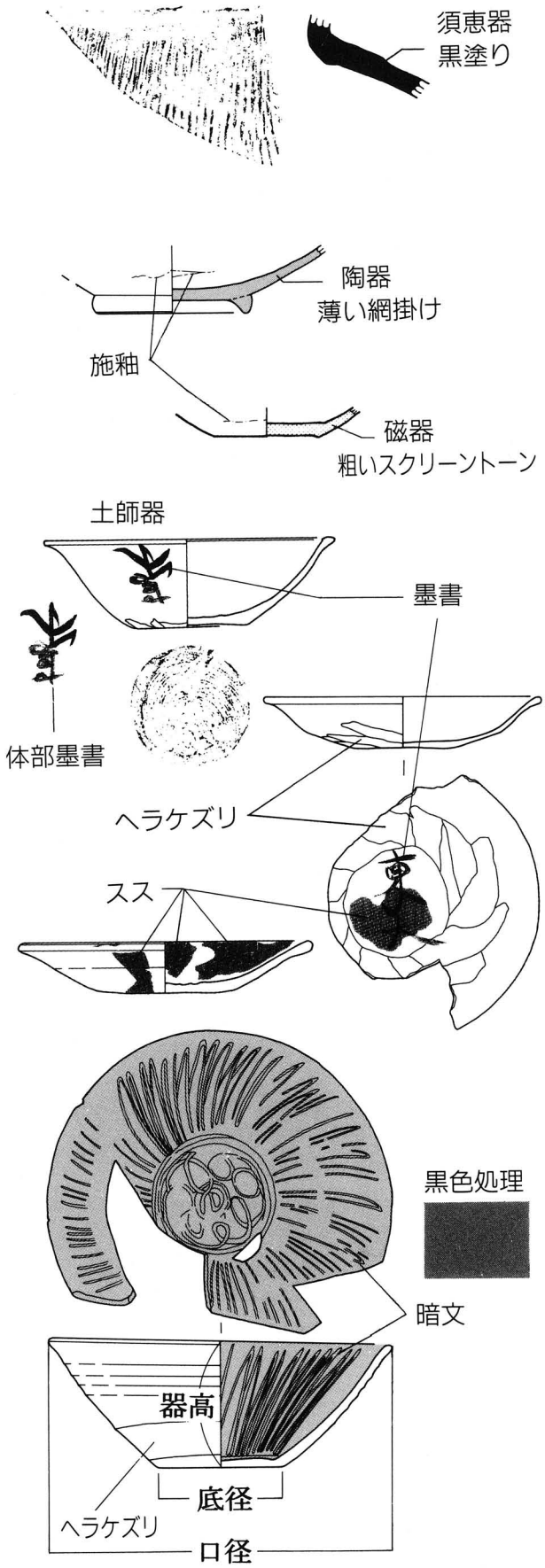
9．遺物図版中の番号は各遺構で付しており、遺構図内のドット番号と対応している。また、遺物番号「1」は、図化した遺物数が１点のみであることを示している。
10．遺物の縮尺は各図版上に表示し、縮尺が１：３以外のものについてはスケールの左に遺構名・番号を明記した。
11．遺構図中のドットマークの用例は、各図面上に明記した。
12．図版中の網掛け及びスクリーントーンの用例、及び遺物実測図の表現は以下のとおりである。

【遺構図】

焼　土

炭化物

【遺物実測図】



目　　次

序
例言
凡例

【本文目次】

第１章　調査に至る経緯
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の概要……1
第２章　遺跡の概観
　第１節　遺跡の立地……1
　第２節　歴史環境……3
第３章　調査方法と基本土層
　第１節　調査方法……3
　第２節　基本土層……3
第４章　発見された遺構と遺物
　第１節　竪穴建物……5
　第２節　掘立柱建物……6
　第３節　溝……7
　第４節　埋甕……10
　第５節　土坑・ピット……10
　第６節　方形周溝墓……15
　第７節　不明遺構……15
　第８節　炭化物集中範囲……15
　第９節　遺構外出土遺物……16
第５章　まとめ
　第１節　調査所見
　　Ａ区……17
　　Ｂ区……17
　　Ｃ区……18
　第２節　調査の成果と今後の課題……19
抄録
奥付

【挿図目次】

図１　ヂクヤ遺跡周辺の遺跡分布
図２　周辺の遺跡
図３　トレンチ配置図……2
図４　グリッド配置図……2
図５　層序柱状図……2
図６　基本土層……3
図７　方形周溝墓位置図……27～28

【図版目次】

〔遺構〕

第１図　Ａ区平面図(1)　１～３号溝、１～６号土坑、Pit１～21……23
第２図　Ａ区平面図(2)　４，５号溝、７～９号土坑、Pit22，23……24
第３図　Ｂ区平面図(1)　６～26号溝……25～26
第４図　Ｂ区平面図(2)　27～34号溝、炭化物集中範囲１～４……27～28
第５図　Ｃ区平面図……29
第６図　１号竪穴建物……30
第７図　２・３号竪穴建物、Pit29,30……31
第８図　４号竪穴建物、５号竪穴建物……32
第９図　６号竪穴建物、７号竪穴建物……33
第10図　７号竪穴建物、35,36号溝、埋甕……34
第11図　１号掘立柱建物……35
第12図　２号掘立柱建物……36
第13図　34号溝、11,14～17号土坑……37
第14図　10,12,18,19号土坑、Pit26～28,33、不明遺構１……38
第15図　20～28号土坑、Pit34,36……39
第16図　不明遺構２……40
第17図　方形周溝墓、29号土坑、Pit37,38,39,40,41,42,43……41～42
第18図　ヂクヤ遺跡全体図……別添

〔遺物〕

図版１　１号竪穴建物……43
図版２　２・３号竪穴建物……44
図版３　４号竪穴建物、５号竪穴建物……45
図版４　６号竪穴建物、７号竪穴建物(1)……46
図版５　７号竪穴建物(2)、掘立柱建物……47
図版６　４，５，７，11,12,15,18,19,28,30,35号溝……48
図版７　36号溝、埋甕……49
図版８　６，10,11,15号土坑……50
図版９　16,21,23～25号土坑、Pit2,8,19,34～36……51
図版10　方形周溝墓(1)……52
図版11　方形周溝墓(2)……53
図版12　不明遺構２……54
図版13　炭化物集中範囲、グリッド・一括(1)……55
図版14　グリッド・一括(2)……56
図版15　グリッド・一括(3)、試掘・遺構外……57

【表目次】

表１　土坑・ピット一覧……22
表２　出土遺物観察表……58～65
表３　土製品観察表……66

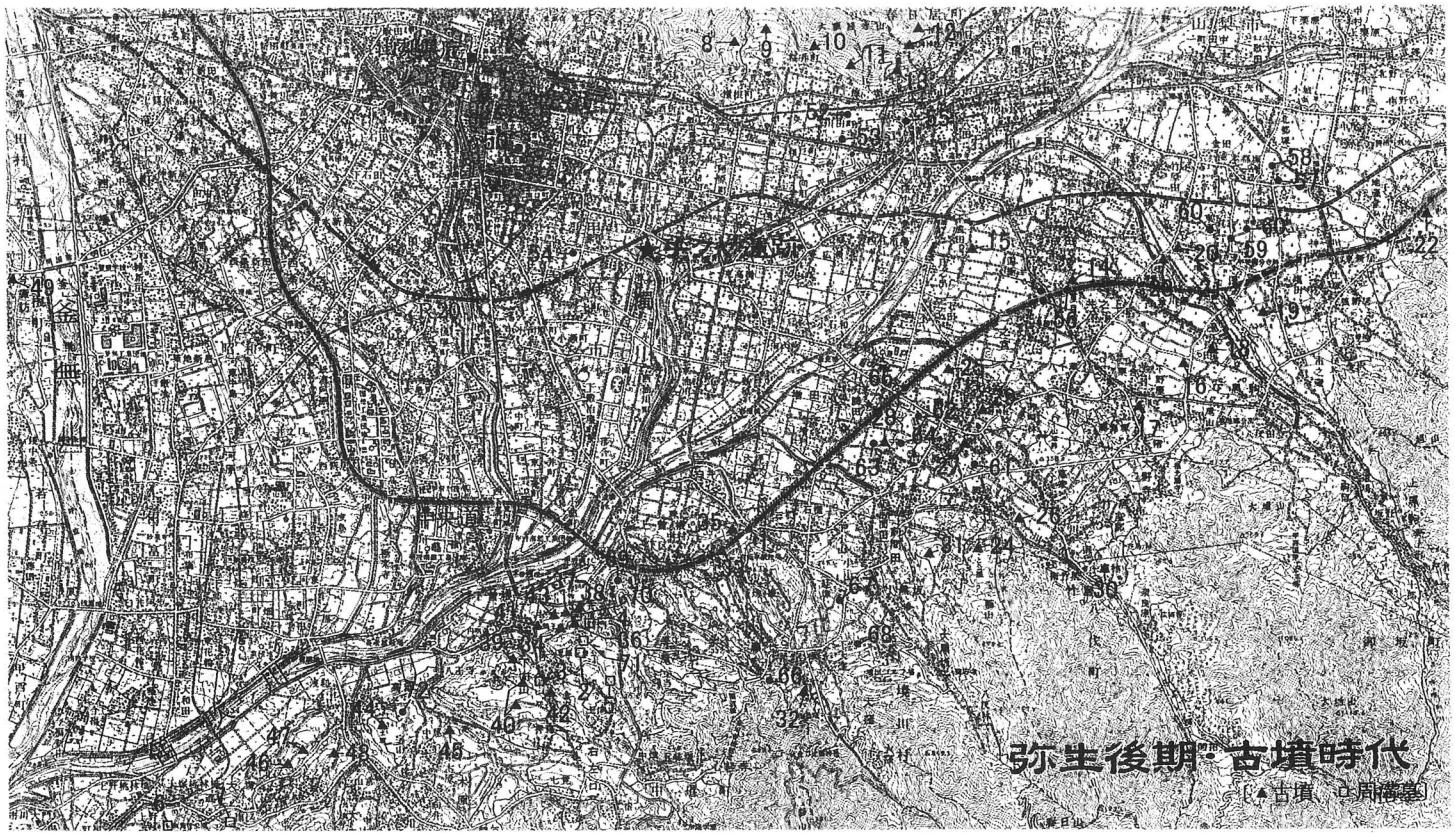
【写真図版】

〔遺構〕

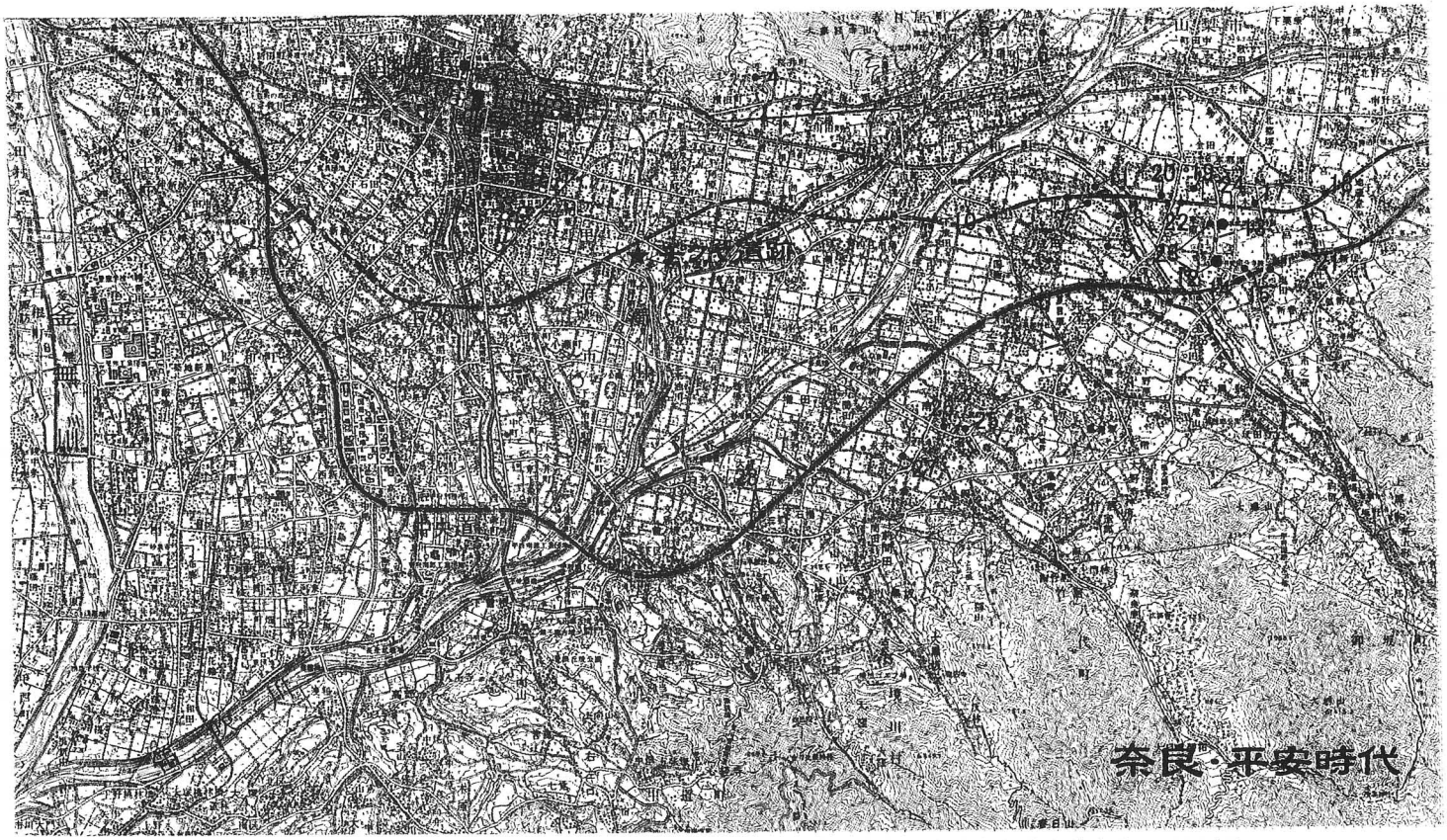
写真１　調査区近景……67
写真２　竪穴建物……68
写真３　掘立柱建物……69
写真４　溝、土坑(1)……70
写真５　土坑(2)、埋甕、木根痕、不明遺構、炭化物集中範囲……71
写真６　方形周溝墓……72

〔遺物〕

写真７　１・２・３号竪穴建物出土遺物……73
写真８　４・５・６・７号竪穴建物出土遺物……74
写真９　１・２号掘立柱建物、溝、埋甕出土遺物……75
写真10　土坑、ピット、不明遺構、炭化物集中範囲出土遺物……76
写真11　方形周溝墓出土遺物……77
写真12　グリッド・一括、試掘・表採遺物……78
写真13　墨書土器一覧……79



1.口開遺跡 2.上の平遺跡 3.米倉山B遺跡 4.東山北遺跡 5.宮ノ上遺跡 6.一条氏館跡遺跡 7.一城林遺跡 8～11.横根・桜井積石塚古墳群 (8.横根支群、9.桜井内山支群、10.桜井支群、11.桜井東支群) 12.春日居古墳群 13.大蔵経寺山第 15 号墳 14.姥塚古墳 15.亀甲塚古墳 16.蝙蝠塚古墳 17.弾誓窟古墳 18.長田古墳群 19.稲荷塚古墳 20.経塚古墳 21.国分古墳群 22.千米寺・石古墳群 23.四ッ塚古墳群 24.岡・銚子塚古墳 25 狐塚古墳 26 蝙蝠塚第1号墳 27.地蔵塚古墳 28.荘塚古墳 29.団栗塚古墳 30.御崎古墳 31.竜塚古墳 32.滝河原2号墳(智光寺遺跡) 33.馬乗山 1・2 号墳(八乙女塚古墳) 34.稲荷塚古墳 35.表門神社古墳 36.大丸山古墳 37.かんかん塚古墳(茶塚古墳) 38.考古学博物館構内古墳 39.小平沢古墳 40.米倉山古墳群 41.銚子塚古墳 42.天神山古墳 43.丸山塚古墳 44.王塚古墳 45.三星院古墳群 46.伊勢塚古墳 47.大塚古墳 48.鳥居原狐塚古墳 49.おつき穴古墳 50.青沼遺跡 51.朝気遺跡 52.川田瓦窯跡 53.桜井畑遺跡 54.二又遺跡 55.二之宮・姥塚遺跡 56.鞍掛遺跡 57.清水遺跡 58.松原遺跡 9.矢倉遺跡 60.馬見塚遺跡 61.五里原遺跡 62.三光神遺跡 63.下長崎遺跡 64.侭ノ下遺跡 65.牛居沢窯跡 66.四石田遺跡 67.手古松遺跡 68.朝日遺跡 69.石清水遺跡 70.東山南遺跡 71.高部宇山平遺跡



1.大坪遺跡 2.上土器遺跡 3.外中代遺跡 4.東畑遺跡 5.国府遺跡 6.寺本廃寺 7.赤井遺跡/御幸道遺跡 8.狐原遺跡 9.茶かん遺跡 10.地耕免遺跡 11.大原遺跡 12 甲斐国分寺跡 13.甲斐国分尼寺跡 14.笠木地蔵遺跡 15.北中原遺跡 16.北堀遺跡 17.車地蔵遺跡 18.田村遺跡 19.筑前原塁遺跡 20.西田町遺跡 21.東新居遺跡 22.南桜遺跡 23.竜ノ木遺跡 24.両ノ木神社遺跡 25.八王子遺跡 26.堀ノ内遺跡 27.瑜伽寺 28.石橋条里遺跡

(『山梨県史資料編1』より作成)

図1　ヂクヤ遺跡周辺の遺跡分布

■ **周辺遺跡発掘調査地点**

1 ヂクヤ遺跡（本調査地点）
2 ヂクヤ遺跡（H.４年度調査地点）
3 朝気遺跡
4 十丁遺跡（H.14年度調査地点）
5 久保田・道々芽木遺跡（道々芽木地区）
6 久保田・道々芽木遺跡（久保田１地区）
7 久保田・道々芽木遺跡（久保田２地区）
8 大坪遺跡（S.50年度調査地点）
9 大坪遺跡（S.57年度調査・旧河床地点）
10 大坪遺跡（S.57年度調査・教習所地点）
11 大坪遺跡（H.6年度調査地点）
12 大坪遺跡（H.12年度調査・西区）
13 大坪遺跡（H.12年度調査・東区）
14 小瀬氏館跡

131	本郷B遺跡	平安
132	本郷C遺跡	古墳～中世
134	内林遺跡	近世
136	中坪遺跡	古墳
137	大橋遺跡	中世
138	村内石山遺跡	近世
139	山崎遺跡	平安～
140	山田古墳	古墳
141	山田東福寺遺跡	中・近世
143	村内遺跡	縄文・古墳～
144	村内西遺跡	近世
145	矢下大畑遺跡	近世
146	村内南A遺跡	近世
147	村内南B遺跡	近世
149	大坪遺跡	古墳～平安
153	船山遺跡	古墳～奈良
192	南口町A遺跡	平安
193	南口町B遺跡	平安
194	里吉天神遺跡	古墳～平安
195	十丁遺跡	古墳
196	二又遺跡	古墳
197	家之前遺跡	平安
198	十丁B遺跡	古墳
199	青葉町遺跡	平安
200	寺前遺跡	古墳
201	寺前B遺跡	古墳
202	字前遺跡	古墳
203	村之内遺跡	古墳～平安
204	北桜遺跡	平安
205	野村遺跡	古墳～平安
206	油田遺跡	平安
207	居村遺跡	近世
208	淵之上遺跡	古墳
209	落合氏館跡	中世
210	北堀遺跡	古墳～平安
211	深田遺跡	古墳・中世
212	五本松遺跡	
213	鎌作遺跡	平安・中世
214	塚越遺跡	平安
215	熊社遺跡	弥生～古墳
217	藤塚	古墳
218	京塚	古墳
219	在原塚	古墳
222	上ノ木遺跡	古墳～平安
223	宮田遺跡	弥生・平安
224	大土井遺跡	平安
225	上町天神遺跡	古墳～平安
226	土尻遺跡	中世
227	小瀬氏館跡	中世
228	明石西河原遺跡	平安

図２　周辺の遺跡

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯

ヂクヤ遺跡の調査は、甲府市環境部による一般廃棄物最終処分場建設工事に伴って実施したものである。試掘対象面積は19,272㎡、期間は平成13年８月17日から同年９月14日の約１か月間であった。

その結果、調査対象地西側一帯において古墳時代初頭から中世に及ぶ遺構・遺物が遺存している状況を把握し、環境部・財務部・教育委員会の協議を踏まえて、遺構に影響の及ぶ範囲を本調査の対象とした。

第２節　調査の概要

ヂクヤ遺跡は、甲府盆地中心部の甲府市西高橋と蓬沢にかけて広がる、古墳時代初頭から中世にかけての遺跡である（図２）。

平成４年、濁川右岸で行われた最終処分場建設に伴う試掘調査では、縄文時代・古墳時代・古代の遺物が検出され、「十」・「物」などの墨書土器も出土している。遺跡は当調査区が位置する濁川左岸にも及んでいる。

試掘調査は、平成13年８月17日から９月14日にかけて行われた。調査対象面積は19,272㎡で、Ｔ－１～18まで18本のトレンチ（幅２ｍ）を設定した。掘削面積は約1,000㎡となる（図３）。

試掘調査区西側地域のＴ－１～10トレンチでは、地表下1.5～２ｍの暗褐色粘質土層から、甲斐型土器片が出土した。また、Ｔ－１トレンチ（本調査時のＡ区）では、古代と推定される遺構と緑釉陶器が、Ｔ－３トレンチ（同Ｂ区）では、天目茶碗・青磁碗（図版15－３）など中世段階の遺物が検出された。Ｔ－４トレンチでは「東大」と書かれた墨書土器が確認され、Ｔ－６トレンチ中央部の攪乱内からは古墳時代初頭のＳ字状口縁台付甕が検出された。Ｃ区にあたるＴ－９トレンチでは、地表下約２ｍから須恵器・金属製品・大量の炭化米などが検出された。

西側で多量の遺物が検出された暗黒褐色粘土層は、Ｔ－８トレンチ中央部から東方の野間川にかけてなだらかに傾斜し、Ｔ－11～18トレンチでは、地表下約2.5ｍに位置している。なお、Ｔ－11～18トレンチでは、遺構・遺物が検出されなかった。

本調査は、平成13年９月27日から同年12月27日まで実施した。遺構面は地表下1.8～２ｍ（標高252ｍ前後）に位置し、古墳時代・９～10世紀代・中世の３面が検出された。調査総面積は2,200㎡である。

古墳時代の遺構は、Ｂ区中央部から一辺約９ｍの方形周溝墓１基が確認された。遺物は周溝周辺からＳ字状口縁台付甕等、古墳時代初頭の遺物が多く出土している。Ａ・Ｃ区においても同時期の遺物が検出された。

古代の遺構・遺物の検出量が最も多く、９～10世紀代に位置づけられる竪穴建物７棟、掘立柱建物２棟、溝14条、その他に土坑20基以上、ピット、埋甕などが検出された。特にＢ区中央からＣ区にかけて遺構が集中し、この一帯では炭化物の堆積が多く見られ、炭化米も検出された。

出土遺物は、甲斐型土器編年Ⅷ期（山下1992。以下同）～古代末１期（森原1996。以下同）の土師器が見られ、「東大」・「子北」などと書かれた墨書土器も検出されている。９世紀後半から10世紀前半にかけての愛知県猿投窯製の緑釉陶器・灰釉陶器、中国邢州窯製の白磁など、遠隔地からの搬入品も出土している。

中世段階と考えられる遺構は、溝・畝状遺構19条と土坑１基である。遺物は12～15世紀代の擂鉢・中国製白磁・瀬戸美濃系陶器・北宋銭でなどで、量的には極めて少ない。11号土坑からは、渥美窯製の壺片と共に、小刀・籠状製品など中世初頭に位置づけられる遺物も出土している。

第２章　遺跡の概観

第１節　遺跡の立地

ヂクヤ遺跡は、甲府市街地南西端に位置する蓬沢・増坪・西高橋３集落に挟まれた、平坦な農地の一面に広がる。遺物散布地の中を濁川が流下するため、地理的には右岸と左岸に分離するが、甲府市教育委員会が昭和60年度に実施した遺跡分布調査で、ともに古墳時代から平安時代に至る遺物が表面採取されたことなどから、一つの遺跡として捉えられている。

遺跡の標高は約255ｍと低く、濁川と笛吹川（現平等川）が西高橋集落の南側で合流していたため、一帯は元禄９年（1696）の改修まで水害常襲地帯であった。度重なる水害によって河床は高くなり、川尻がふさがって笛吹川の水が濁川に逆流して田畑が沼地化した状況も記録されている。慶長６年（1601）の増坪・西高橋両村の検地帳にみえる「ほり田」「ぬまはた」「ぬまの北」といった地名は、その証左である。

遺跡名の「ヂクヤ」は増坪町の小字で、水車小屋の存在を意味するものと推定される。この地名は慶長６年（1601）増坪村検地帳にまで遡ることができる。

なお、甲府市教育委員会発行の『甲府市の遺跡』（昭和61年）及び『甲府市遺跡地図』（平成４年）では「外河原ヂクヤ遺跡」の名称を用いるが、これは増坪町内の二つの小字を並べた遺跡名であるため、『甲府市史史料編第一巻　原始・古代・中世』（平成元年）にあわせ「ヂクヤ遺跡」に統一する。

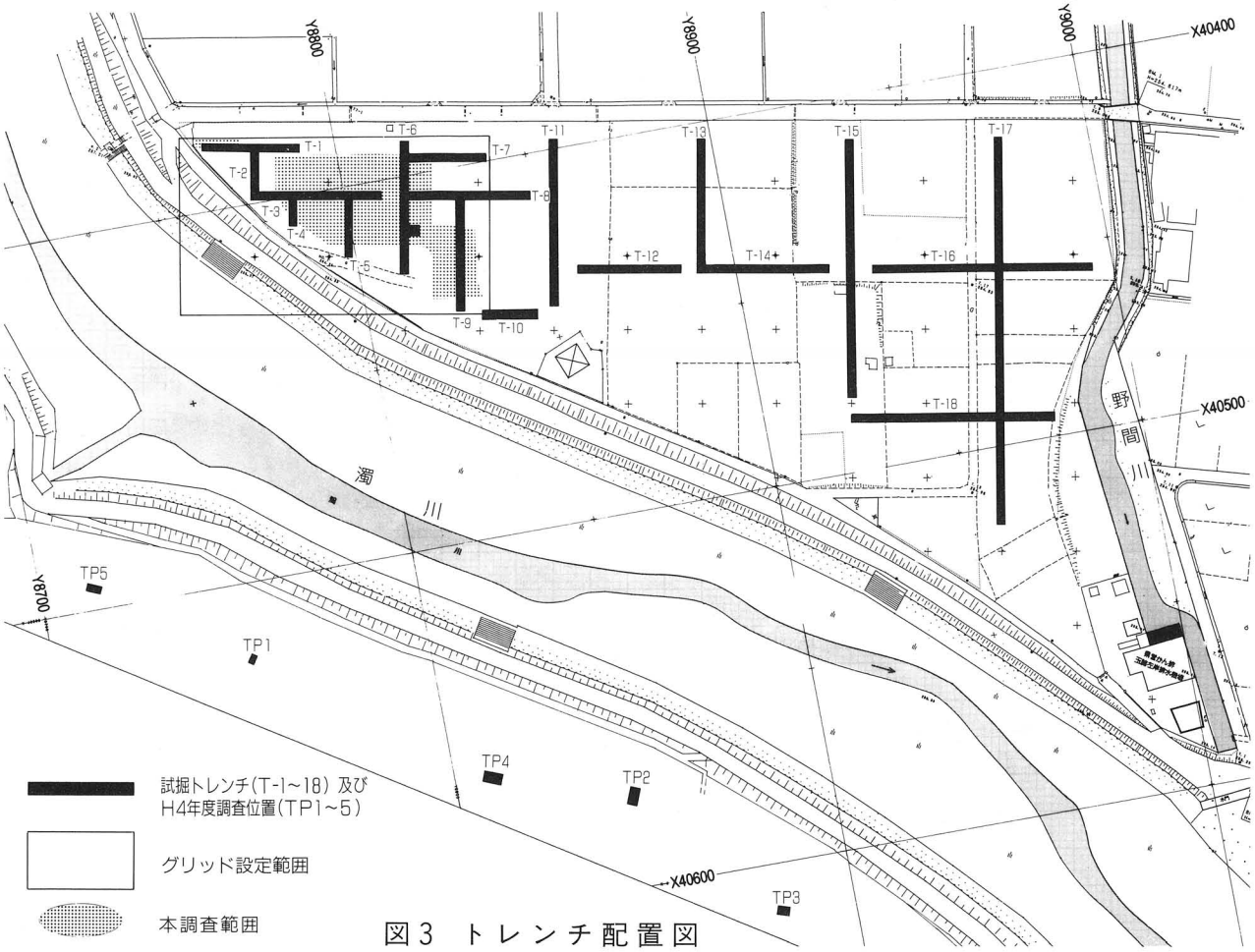


図3 トレンチ配置図

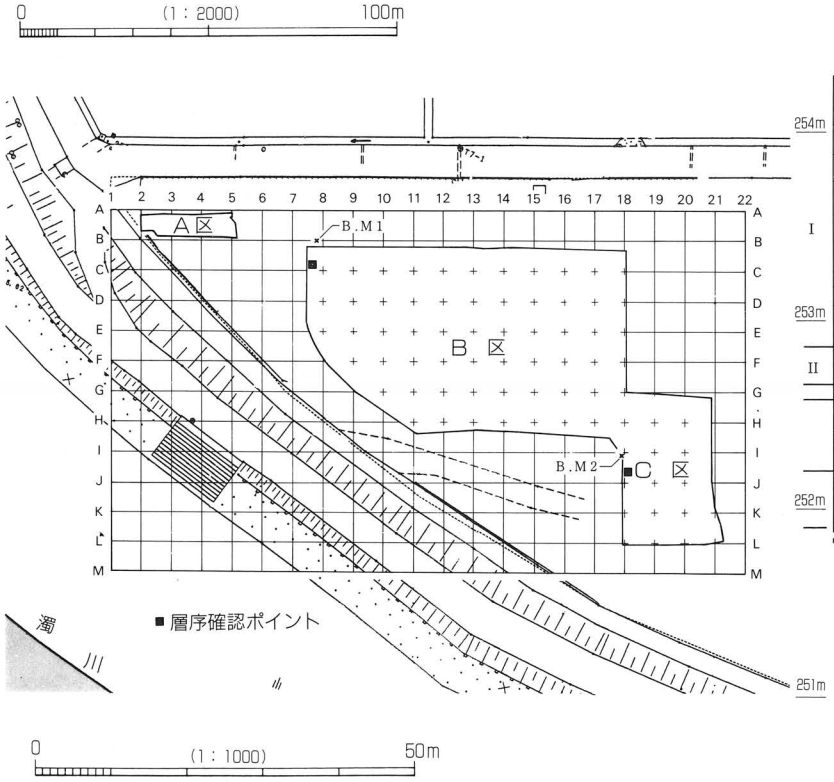


図4 グリッド配置図

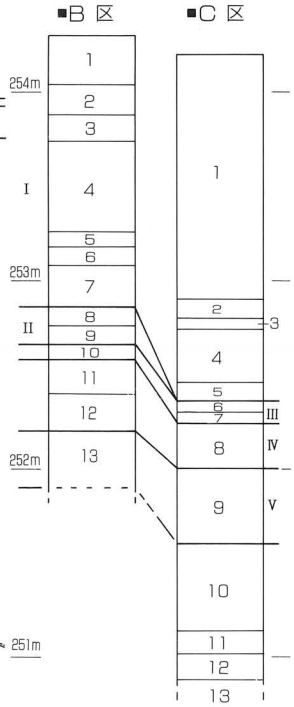


図5 層序柱状図

B区

1. 表　土
2. 褐灰色砂質土　粒子細かく、強く締まる。
3. 灰黄褐色砂質土　粒子細かく、強く締まる。
4. にぶい黄褐色砂質土　粒子細かく、締まりはゆるい。
5. 灰黄褐色砂質土　粒子細かく、若干粘性あり。締まりはゆるい。
6. 灰黄褐色砂質土　粒子は細かく、締まりはゆるい。
7. 褐灰色粘土　6層との間に微粒子の砂分を多く含む。鉄分多く含む。強く締まる。
8. 暗褐色粘質土　礫分微量含む。強く締まる。（中世）
9. 暗褐色粘質土　灰色土を若干含む。締まりゆるい。（中世）
10. 暗灰黄色粘質土　炭化物を微量含む。締まりやや強い。
11. 黒褐色粘質土　古代遺物検出。締まりやや弱い。（古代）
12. 黒褐色粘質土　炭化物を少量含む。締まり強い。（古代）
13. 褐灰色砂質土　粒子細かく、締まりややゆるい。（古墳）

C区

1. 表　土
2. 黒褐色土　砂礫分少量混入。強く締まる。
3. にぶい黄褐色砂質土　鉄分やや多く含む。砂礫分少量混入。強く締まる。
4. 褐灰色砂質土　鉄分若干多く混入。強く締まる。
5. 褐色砂層　ブロック状の灰褐色粘質土少量含む。締まりややゆるい。
6. 黄灰色砂質土　粒子細かく、やや締まる。
7. 褐灰色粘質土　炭化物・焼土粒子微量含む。部分的に砂分混入。やや締まる。
8. 黒褐色粘質土　古代の遺物出土。炭化物焼土粒子多く含む。やや締まる。（古代）
9. 褐灰色砂質土　遺物検出。炭化物少量含む。締まりはややゆるい。（古墳）
10. 黄灰色粘質土　有機質分多く混入。締まりゆるい。
11. 黒褐色土　粒子は細かく、締まりはゆるい。
12. 黒色粘土　砂粒若干多く含む。やや締まりあり。
13. 黒色粘土　締まりややあり。

第２節　歴史環境

甲府市中心市街地に端を発する濁川の流域は、水害が多発したためか、これまでに確認された遺跡は少ない。しかし、ヂクヤ遺跡から約500ｍを隔てた北側には、蓬沢・里吉から朝気・青沼へと東方に続く古墳～平安時代の遺跡群が連続する。青沼は古代甲斐国に置かれた「巨麻郡青沼郷」の遺称といい、朝気周辺がその中心地と推定されている。

中世には、古代青沼郷から一条郷が分離・成立しており、ヂクヤ遺跡の所在する蓬沢・増坪がその郷域に含まれたことが明らかである（貞治２年「一蓮寺寺領目録」）。

近世初頭のヂクヤ遺跡周辺は沼地化していたものと考えられるが、先に触れた元禄９年の河川改修により、濁・笛吹両河川の合流点が約4.5㎞南西に移ると耕地開発が急速に進み、慶長６年に143石だった西高橋村の石高は元禄14年には214石に増加している。

しかし、今回の発掘調査では古墳時代初頭から中世にいたる遺構・遺物が検出され、濁川改修以前の河川堤防上微高地に断続的に集落が営まれた状況をうかがうことができる。投網に使った土錘も出土し、河川や沼地での漁労活動の一端を示す。

ヂクヤ遺跡に関わる研究としては、昭和20年代に山本寿々雄氏が増坪地内で試掘調査を行い、土器や炭化米の検出を報告している（「山梨県西山梨郡増坪遺跡」『日本考古学年報』４　1955年）。ついで、『甲府市史史料編第一巻　原始・古代・中世』（平成元年）は、昭和28年頃の道路工事で出土した個人所蔵資料（古墳時代初頭）を実測して解説した。平成４年には甲府市教育委員会が開発工事に伴う確認調査を実施し、川砂堆積層中から平安時代の墨書土器などを検出している。

第３章　調査方法と基本土層

第１節　調査方法

調査区は東西約88ｍ、南北約48ｍの範囲である。遺構面までの土砂堆積が厚いため、Ａ区で約1.4ｍ、Ｂ区1.4～２ｍ、Ｃ区約２ｍを重機で掘り下げ、現在の土地区画とほぼ平行して、東西方向１～21、南北方向Ａ～Ｌのグリッドを４ｍ間隔で設定した。Ａ区（グリッドＡ－１～４、約50㎡）・Ｂ区（グリッドＢ－７～Ｈ－17、約885㎡）・Ｃ区（Ｈ－18～Ｌ－20、約240㎡）の３地区（計約1,175㎡）に分割し、本調査を実施した（図３）。

遺構の精査及び検出作業は人力で行ったが、地表面から深い上に粘質土壌のため排水が難しく、作業は困難を極めた。掘削した土砂の排出は、ベルトコンベアー及びクローラーダンプを使用した。検出された遺構は平板測量によって作図し、写真記録した。古代の遺構面の調査が終了した後、古墳時代の遺構面まで0.2～0.3ｍを重機で掘削した。調査終了後は、調査区東側に仮置きした排土を、重機等を用いて埋め戻した。

第２節　基本土層

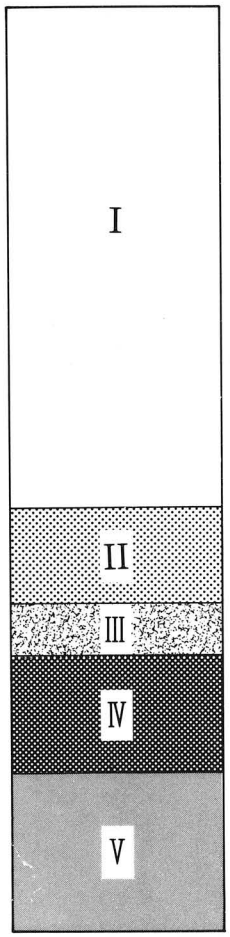


図６　基本土層

Ⅰ層　近世・近代の堆積層。

Ⅱ層　中世層。暗褐色粘質土を基調とする。
〔Ｂ区〕
地表下約1.4ｍの８・９層。厚さ約0.2ｍ。

Ⅲ層　灰黄色粘質土を基調とする。

Ⅳ層　古代層。黒褐色粘質土を基調とする。
〔Ｂ区〕
地表下約1.7ｍの11・12層。厚さ約0.2ｍ。
〔Ｃ区〕
地表下約２ｍの７・８層。厚さ約0.4ｍ。

Ⅴ層　古墳時代層。
褐灰色砂質層。
〔Ｂ区〕
地表下約2.1ｍの13層。厚さ約0.3ｍ。
〔Ｃ区〕
地表下約2.2ｍの９層。厚さ約0.4ｍ。

Ａ区に近接するＢ区西側（Ｂ－７）と、Ｃ区北西側（Ｉ－18）の約50ｍ隔てた２地点において、基本土層の確認を行った。（図４・５）

調査前は平坦面であったが、旧地形は西側のＡ区から東側のＣ区にかけて緩やかに傾斜している。両地区における各時代の対応する土層の比高差は、古墳時代で約0.2ｍ、古代で約0.4ｍ、中世で約0.1ｍとなる。古墳時代から古代にかけては西側の地形にやや高まりが見られるが、中世以降はほぼ平坦となる。

［調査日誌］

8月27日　試掘調査開始。
9月14日　試掘調査終了。
27日　調査準備開始。
28日　調査区位置設定。
10月4日　重機による表土除去作業開始。
9日　B区調査着手。
26日　グリッド杭及びベンチマーク設定完了。
11月4日　B区中世面調査完了。古代面調査開始。
15日　A区調査着手。
21日　ベルトコンベアー導入。
23日　C区調査着手。
24日　西高橋地区子供クラブ28名見学。
30日　A区調査終了。
12月12日　B区古代面遺構全体写真撮影。
15日　玉諸小学校4～6年生220名体験発掘。
17日　古墳時代面方形周溝墓調査開始。
20日　C区遺構完掘写真撮影。調査完了。
24日　古墳時代面調査終了。
27日　埋戻し作業完了。

第４章　発見された遺構と遺物

第１節　竪穴建物

１号竪穴建物（第６図／図版１）

〔位置〕Ｃ－12・13、Ｄ－11・12・13グリッド

〔重複〕31号溝を切る。30号溝との切り合い関係は不明。

〔形状〕プランは不鮮明であるが、南北方向に主軸をとるものと考えられる。長径約5.8ｍ、短径約3.5ｍの不整形を呈する。床面南側は不明確であるが、北側では標高252.1ｍに位置する。遺構東側で炭化物の集中が見られ、東壁南東側でカマドが検出された。

〔カマド〕東壁南東側に位置する。支脚状の石が並んで２基検出された。周辺は約1.4×1.0ｍの範囲に炭化物の堆積が確認されている。

〔遺物〕遺物は全域から検出されているが特にカマド周辺及び南側に集中して多く見られる。土師器坏・皿11点、壺１点、石製品１点、土錘等17点を図化した。１・２は判読不明の墨書土器であり、底部に書かれている。３～11は坏・皿である。４・５は底部ヘラケズリ、他は回転糸切痕であり、甲斐型編年Ⅻ期（山下1992。以下同）～古代末１期に相当する。13は砂岩製の砥石であり、一面が研磨されている。14は羽釜である。15～30の土錘は遺構南側から集中して検出された。長さ3.5～５cm程度で、約４cmのものが多い。径1.5cm、孔径は３mmである。31は径２cmの土玉であり、一部にススの付着が見られる。

２号竪穴建物（第７図／図版２）

〔位置〕Ｅ－13・14、Ｆ－13・14グリッド

〔重複〕30号溝に切られ、２号掘立柱建物・３号竪穴建物を切る。

〔形状〕プランは不鮮明であるが、南北方向に主軸をとるものと推定される。西側が30号溝によって切られているが、方形プランと考えられ、東西約3.3ｍ、南北約４ｍを測る。床面は標高252.1ｍに位置し、遺構確認面より深さ約10cmを測る。

〔カマド〕東壁北東側に位置する。支脚状の石が１基検出されている。周辺からは炭化物と焼土塊が多く検出された。

〔遺物〕カマド周辺及びその西側一帯から検出された。セクションの４層及びその上面において、完形の遺物が多数出土している。しかし遺構の切合い関係が複雑なため、ここでは２号竪穴建物の遺物として明確なものに関して記載する。11は底部に「東大」、15は体部に判読不明、17は体部に逆位で「日奉日」の墨書が記された土師器である。19は内黒暗文の坏である。いずれも甲斐型編年Ⅻ期の遺物が多数見られる。

３号竪穴建物（第７図／図版２）

〔位置〕Ｅ・Ｆ－13・14グリッド

〔重複〕30号溝・２号竪穴建物・２号掘立柱建物に切られる。

〔形状〕Ｎ－10°－Ｅに主軸をとる。東西約3.9ｍ、南北3.1ｍの方形プランを呈する。床面積は約9.8㎡。床面は２号竪穴建物の床面より約30cm下位の標高251.8ｍに位置する。床面から土坑１基とPit29・30が確認された。南壁で確認された周溝は長さ2.5ｍ、幅５～15cmで、内部から径５～７cmのピット７基が確認された。また西側に見られる幅50～60cmの溝状の落込みは、セクションの観察から竪穴廃絶後の掘り込みと考えられる。

〔遺物〕遺構の切り合い関係が複雑なため、ここでは３号竪穴建物の遺物として、明確なものに関して記載する。１は回転ヘラケズリが施された土師器皿で、遺構中央部から検出された。９・10・12～14・17は墨書土器である。９は底部に「東大」、13は底部に「東□（大）」、14は体部に逆位で「日」と書かれる。12は小片のため判読できない。18・19・21・22は暗文が施された黒色土器である。23は暗文のみである。24～26の甕は、内外面に炭化物の付着が見られる。甲斐型編年Ⅸ期に相当する。

（志村憲一）

４号竪穴建物（第８図／図版３）

〔位置〕Ｄ－７グリッド

〔重複〕北側を10号溝に切られる。

〔形状〕10号溝が重複するのに加え、遺構範囲が調査区壁面にかかり、平面形・軸線は明確でない。遺存部分からほぼ方形と推定され、確認した範囲で長軸約3.5ｍ、短軸2.1ｍ、深さ36cmを測る。確認範囲では明確な貼床は確認されなかった。覆土の炭化層がカマド付近から流出している状況や、遺物検出レベルが一定でないことから、遺構廃棄後に自然埋没したものと推定される。

〔カマド〕遺構範囲の南東隅で検出した。袖部分は粘土で構築されており、内側は被熱により硬化している。周辺には炭化物、焼土が多く残る。

遺物とともに礫が検出されたが、支脚や部材であるか明確ではない。

〔遺物〕土師器坏・皿15点、甕２点、灰釉陶器１点、須恵器片２点を図化している。坏・皿・甕は、甲斐型編年Ⅻ期に相当する。16は、猿投窯折戸53号窯式期に比定される灰釉陶器碗である。刷毛塗りにより施釉されているが、内面見込み部は転用硯として使用された痕跡があり、摩耗している。17の須恵器片はカマド前庭部で検出されており、内外面に二次使用による磨耗や擦痕がみられる。

５号竪穴建物（第８図／図版３）

〔位置〕Ｅ－７・８グリッド

〔重複〕27号溝に切られる。

〔形状〕遺存状況が悪く、明確なプランは不明であるが、調査区外に広がると推測される。カマドと竪穴底面の一部と思われる部分を検出した。

〔遺物〕土師器皿を２点、坏２点、小型甕１点、灰釉陶器１点を図化している。１の小型甕はカマドの支脚石に被せた状態で出土し、全体的に黒変している。２～５は甲斐型編年Ⅻ期に相当する。２の出土位置は27号溝との重複部であるが、出土レベルから本遺構検出とした。６の灰釉陶器は猿投窯黒笹90号窯式期に相当する。小片であるが、内面に転用の痕跡がみられる。（望月秀和）

６号竪穴建物（第９図／図版４）

〔位置〕Ｉ・Ｊ－19グリッド

〔形状〕ほぼ方形の平面形を呈し、長軸2.8ｍ、短軸約2.5ｍ、深さ約18cmを測る。一部が攪乱を受けている。床面と考えられるような硬化面は確認していない。南西部分に、縦1.2ｍ、横22cmの焼土範囲を確認している。覆土には炭化米が多く混在していた。

〔遺物〕墨書土器３点、土師器坏７点、土師器皿２点、羽釜２点、置きカマド１点を図化している。１～３は墨書土器で、１は体部に逆位で「□（来）」、２・３は判読が困難である。甲斐型編年Ⅻ期～古代末１期に相当する。遺物は底面より若干浮いた状態で検出している。

７号竪穴建物（第９図／図版４・５）

〔位置〕Ｈ－17、18、Ｉ－18、19グリッド

〔形状〕調査区の壁に一部かかる。平面形はほぼ方形、長軸3.7ｍ、短軸2.5ｍ、深さ20～30cmを測る。床面らしき硬化面は確認していない。南西隅から、縦1.4ｍ、横75cmの焼土範囲を検出した。焼土層は、厚さ約12cmを測る。遺構埋土には炭化米が多く混在していた。

〔遺物〕灰釉陶器１点、土師器坏６点、土師器皿１点、土師器甕４点、羽釜２点、金属製品１点を図化している。７は墨書がみられるが、小片のため判読できない。土師器は甲斐型編年Ⅻ期に相当する。９は釘である。遺構の近辺から金属製品が検出されている（図版14－26）。

（山﨑雅恵）

第２節　掘立柱建物

１号掘立柱建物（第11図／図版５）

〔位置〕Ｂ－10・11、Ｃ－10・11グリッド

〔重複〕13号溝に切られる。

〔形状〕Ｎ－13°－Ｅに主軸をとる、２間×３間の建物である。各柱穴間は、東西で２ｍ、南北で1.6～1.7ｍとなる。柱穴５以外はほぼ円形を呈し、径0.6～１ｍ、深さ30～60cmを測る。

柱穴１・２・４・５・７・９・10の底部からは礎板が検出された。残存状況が良好な柱穴１・２・４・７・９の礎板は、長さ40～50cm、幅10～15cm、厚さ約３～５cmを測る。柱穴１以外の礎板はいずれも一部分炭化した痕跡があり、火災等による廃材を転用したものと考えられる。柱穴5は不整形を呈し、長径1.65ｍ、短径0.8ｍほどである。土層観察では確認できなかったが、礎板と考えられる木材が２箇所から検出されていることから、柱穴が２基あることも考えられる。柱穴７は、礎板下部に、拳大の自然石３個が据えられている。

〔遺物〕土師器片１点と、焼成粘土塊４点を図化している。１は坏の体部に墨書されているが、判読不明。柱穴３からの出土である。２の須恵器甕は、柱穴８から出土した。外面は櫛歯状の叩き目がみられ黒褐色を呈するが、胎土は暗赤褐色である。３～６の焼土塊は被熱のため赤褐色を呈する。部分的にスサと思われる植物繊維の痕跡があり、平坦面や木舞の痕跡も認められることから、壁土と考えられる。

その他の柱穴からは、下記遺物が出土している。

柱穴１－焼土塊・須恵器・土師器小片。柱穴２－焼土塊・須恵器・土師器小片・土器。柱穴３－焼土塊・須恵器・土師器。柱穴５－須恵器・土師器小片。柱穴６－焼土塊・土師器・黒色土器。柱穴７－土師器・皿・須恵器。柱穴８－焼土塊・須恵器・土師器。柱穴９－焼土塊・須恵器・土師器小片・黒色土器。柱穴10－焼土塊・須恵器・土師器・黒色土器。い

ずれも９世紀後半から10世紀前半の遺物である。

２号掘立柱建物（第12図／図版５）

〔位置〕Ｄ・Ｅ－14・15グリッド

〔重複〕２号竪穴建物に切られ、３号竪穴建物を切り、方形周溝墓にかかる。

〔形状〕Ｎ－12°－Ｅに主軸をとる、２間×３間の建物である。各柱穴間は、東西1.5ｍ、南北1.4～1.7ｍとなる。東側の南北柱穴列は不整であり、柱穴３・５と７・10の間は約1.4ｍ、柱穴５・７間は約２ｍを測る。北東側に、東西0.8ｍ、南北0.45ｍ、深さ約20㎝の楕円形の土坑が検出されている。柱穴のプランは円形または不整形を呈し、径0.6～0.9ｍ、深さ25～50㎝を測る。柱穴１・２・３から礎板、柱穴４・５・６・７・９からは、柱根が検出された。東西柱穴１～３の礎板は、ほぼ東西方向に一直線上に並び、長さ25～40㎝、幅10～15㎝、厚さ約３～５㎝を計測する。柱穴１・３・４・６の残存状況は良好で、径13～18㎝の円形の柱根が検出されている。材質は不明。柱穴８～10の覆土からは、大量の炭化物と焼土が検出された。

〔遺物〕１の土師器小片は底部に墨書があるが判読不明である。２は柱穴６、３は柱穴８から出土した坏であり、甲斐型編年Ⅺ期に相当する。４は台付甕脚部であり、柱穴７から検出した。その他の柱穴からは、次の遺物が出土している。柱穴１－焼土塊・土師器小片・古墳時代土器片。柱穴３－焼土塊４点・須恵器小片２点・土師器小片。柱穴４－焼土塊・土師器・甕。柱穴５－焼土塊・土器３点。柱穴６－焼土塊・灰釉陶器・土師器・黒色土器。柱穴７－土師器小片・台付甕・壺。柱穴８－焼土塊・土器・土師器・皿。柱穴９－焼土塊・土師器。柱穴10－焼土塊２点・土師器小片。

（志村憲一）

第３節　溝

〈Ａ区〉

１号溝（第１図）

〔位置〕Ａ－２・３グリッド

〔重複〕Pit15・16・17を切り、Pit19に切られる。３号溝と重複する。

〔形状〕長さ4.6ｍ、幅0.86ｍ、深さ約14㎝を測る。

〔遺物〕土師器小片多数を検出している。

２号溝（第１図）

〔位置〕Ａ－２・３グリッド

〔重複〕Pit20を切り、Pit３・９に切られる。調査区壁面に沿って、３号溝とほぼ直角に交わる。

〔形状〕長さ約６ｍ、幅約0.22ｍ、深さ約17㎝を測る。

〔遺物〕土師器小片を多数検出している。

３号溝（第１図）

〔位置〕Ａ－２グリッド

〔重複〕１号・２号溝跡とほぼ直角に交わる。

〔形状〕長さ2.7ｍ、幅0.43ｍ、深さ約31㎝を測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

４号溝（第２図／図版６）

〔位置〕Ａ－４グリッド

〔形状〕長さ2.7ｍ、幅0.45ｍ、深さ約11㎝を測る。

〔遺物〕土師器皿１点を図化している。他、灰釉陶器１片と土師器小片多数を検出している。

５号溝（第２／図版６）

〔位置〕Ａ－２グリッド

〔重複〕Pit22に切られる。

〔形状〕長さ約３ｍ、幅1.2ｍ、深さ約18㎝を測る。

〔遺物〕土師器甕１点と台付甕の脚部１点を図化している。他、古墳時代に属する土師器片を多数検出している。

（山﨑雅恵）

〈Ｂ区〉

６号溝（第３図／図版６）

〔位置〕Ｂ・Ｃ－７グリッド

〔形状〕Ｎ－12°－Ｅに軸線をもつ。調査区際であり、規模等は不明であるが、現状長さ約4.3ｍ、深さ約10㎝を測る。７・８号溝とほぼ平行する。

〔遺物〕遺物は検出されていない。

７号溝（第３図／図版６）

〔位置〕Ｂ－７・Ｃ－７グリッド

〔重複〕９号溝を切る。

〔形状〕Ｎ－15°－Ｅに軸線をもつ。長さ約2.5ｍ、幅0.15～0.4ｍ、深さ５～10㎝を測る。７・９号溝とほぼ平行する。

〔遺物〕土器小片を検出している。

８号溝（第３図）

〔位置〕Ｂ－７，８・Ｃ－７，８グリッド

〔重複〕９号溝を切る。

〔形状〕Ｎ－16°－Ｅに軸線をもつ。長さ約5.7ｍ、幅0.15～0.5ｍ、深さ３～10㎝を測る。７・８号溝

とほぼ平行する。
〔遺物〕土器小片を検出している。

9号溝（第3図）
〔位置〕C－7～9グリッド
〔重複〕7・8号溝に切られる。11号溝との切り合い関係は不明。
〔形状〕S－76°－Eに軸線をもつ。長さ6.5m、幅約0.25～0.6m、深さ10cmを測る。9号溝と平行し、7・8・11号溝と直交する。
〔遺物〕須恵器片、土師器小片を検出している。

10号溝（第3図）
〔位置〕D－7、D－8グリッド
〔重複〕4号竪穴建物を切る。
〔形状〕S－68°－Eに軸線をもつ。現状長さ約1.7m、幅約0.2～0.4mを測る。
〔遺物〕土師器小片を検出している。

11号溝（第3図／図版6）
〔位置〕B～E－9グリッド
〔重複〕12号溝を切る。9号溝は同時期か。
〔形状〕N－14°－Eに軸線をもつ。上面が削平され、一部が消滅し、長さ約7mと3mに分かれる。幅は0.4～1.5mを測る。9・12号溝と直交し、覆土が類似する。
〔遺物〕1は鉄釉の陶器製擂鉢である。内外面は暗赤褐色を呈する。口縁部は内湾し、5条のすり目が確認された。他に図化していないが、土師器小片を検出している。

12号溝（第3図／図版6）
〔位置〕C－9グリッド
〔重複〕11号溝に切られる。
〔形状〕S－76°－Eに軸線をもつ。西側はL字状に北に向かって曲がる。現状長さ約2.3m、幅約0.3m、深さ15cmを測る。9号溝と平行し、11号溝と直交する。
〔遺物〕1の灰釉陶器は猿投窯製の黒笹90号窯式期の段皿である。図化していないが、須恵器片と土師器小片も出土した。

13号溝（第3図）
〔位置〕E－10・11グリッド
〔重複〕1号掘立柱建物を切る。
〔形状〕S－76°－Eに軸線をもつ。長さ約2.4m、幅約0.2～0.15m、深さ10cmを測る。
〔遺物〕土器小片を検出している。

14号溝（第3図）
〔位置〕E・H－11・12グリッド
〔重複〕15号溝と同時期。
〔形状〕N－15°－Eに軸線をもつ。長さ約12.4m、幅約0.4～0.8m、深さ約15～30cmを測る。15号溝とほぼ直交する。溝底部には径10cm以内のピットが多数検出され、砂の堆積が認められる。
〔遺物〕図化遺物なし。土器小片、灰釉陶器片を検出している。

15号溝（第3図／図版6）
〔位置〕F－10～13、G－12・13グリッド
〔重複〕14号溝と同時期。
〔形状〕S－73°－Eに軸線をもつ。東側で長さ7m、幅約0.3～2m、深さ約5～40cmを測る。西側は長さ約7m、幅約0.25～0.8m、深さ5～10cmを測る。東側では溝底部から径10cm以内のピットが多数検出された。
〔遺物〕1の灰釉陶器は、長頸瓶である。その他、土器小片・須恵器片・瓦質土器片を検出した。

16号溝（第3図）
〔位置〕E－12～14グリッド
〔重複〕18号溝を切る
〔形状〕S－85°－Eに軸線をもつ。長さ約6.3m、幅約0.3m、深さ約5～10cmを測る。
〔遺物〕土師器坏小片・羽釜片を検出している。

17号溝（第3図）
〔位置〕B・C－14グリッド
〔形状〕N－10°－Eに軸線をもつ。長さ約3.6m、幅約0.2m、深さ約5～10cmを測る。
〔遺物〕土器小片を検出している。

18号溝（第3図／図版6）
〔位置〕C～F－14グリッド
〔重複〕16号溝に切られる。
〔形状〕南北方向に軸線をもつ。長さ約9.3mと4m、幅約0.5～1.5m、深さ約10～15cmを測る。
〔遺物〕1の坏は内外面にススの付着が見られ、10世紀前半の所産と推定される。須恵器片・土錘も検出した。

19号溝（第3図／図版6）
〔位置〕C・D－14グリッド
〔形状〕N－10°－Eに軸線をもつ。長さ約2.4m、幅約0.2～0.25m、深さ約5cmを測る。
〔遺物〕土師器坏1点を図化している。甲斐型編年Ⅻ

期に位置づけられる。

20号溝（第3図）

〔位置〕B～H－14グリッド

〔形状〕N－13°－Eに軸線をもつが、F－14グリッドからN－21°－Eに若干軸線を変える。長さ約19mと2.4m、幅約0.3～1m、深さ約10～15cmを測る。

〔遺物〕土製擂鉢・土師器小片・須恵器片・焼土塊を検出している。

21号溝（第3図）

〔位置〕B～G－14グリッド

〔重複〕22号溝との関係は不明。

〔形状〕N－13°－Eに軸線をもつが、F－14グリッドからN－21°－Eに若干軸線を変える。長さ約21m、幅約0.35～0.7m、深さ約5～10cmを測る。

〔遺物〕土製鉢・須恵器・土師器小片・焼土塊を検出している。

22号溝（第3図）

〔位置〕E～G－14グリッド

〔重複〕21号溝とは不明。

〔形状〕N－21°－Eに軸線をもち、21号溝と平行する。北側部分は21号溝と合流する。長さ約6m、幅約0.3～0.4m、深さ約5cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

23号溝（第3図）

〔位置〕F－13グリッド

〔形状〕N－19°－Eに軸線をとる。全長約2.2m、幅約0.3～045m、深さ約5～10cmを測る。

〔遺物〕土器小片を検出している。

24号溝（第3図）

〔位置〕E－15・16グリッド

〔重複〕炭化物集中範囲1を切る。

〔形状〕S－87°－Eに軸線をもつ。西側は攪乱を受けているが、長さ約5m、幅約0.5m、深さ5～10cmを測る。北側の25号溝とは接していないが、ほぼ直交する。規模及び覆土に類似性が見られることから、同時期に存在したものと考えられる。

〔遺物〕土器小片を検出している。

25号溝（第3図）

〔位置〕D－16・E－16グリッド

〔重複〕33号溝・炭化物集中範囲2を切る。

〔形状〕磁北に主軸をとる。長さ3.5m、幅0.3～0.5m、深さ5～10cmを測る。

〔遺物〕須恵器片・土師器小片を検出している。

26号溝（第3図－P）

〔位置〕G－10グリッド

〔形状〕N－9°－Eに軸線をとるものと考えられる。蛇行しているが、長さ1.4m、幅0.4～0.5m、深さ5cmを測る。底部には砂粒の堆積が確認された。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

（志村憲一）

27号溝（第4図／図版6）

〔位置〕E－8、F－8グリッド

〔重複〕5号竪穴建物を切る。

〔形状〕確認範囲で幅40cm、深さ12cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

28号溝（第4図／図版6）

〔位置〕C・G－8・9グリッド

〔形状〕南・北両端は依存状況が悪く、重複関係、遺構範囲は明確でない。長さ約16m、幅約2.4m、深さ約60cmを測る。

〔遺物〕土師器1点・土器片2点・灰釉陶器片点4点を図化している。他に土師器甕片・須恵器片を検出している。

（望月秀和）

29号溝（第4図）

〔位置〕G－11・12、F－12、グリッド

〔形状〕S－32°－Eに軸線をとる。上面が削平され、残存状況は良好とはいえないが、全長約7.6m、幅約0.3～0.6m、深さ約5～13cmを測る。

〔遺物〕須恵器片、土師器を検出している。

30号溝（第4図／図版6）

〔位置〕B～H－13グリッド

〔重複〕2・3号竪穴建物、31号溝を切る。32号溝は不明。

〔形状〕北側はN－10°－Eに軸線をとり、中央部からN－29°－Eと若干西側へ曲がる。長さ約23m、幅1.1～1.4m、深さ25～70cmを測る。溝底部には、砂粒の堆積が確認され、北から南側への流水の痕跡が窺える。

〔遺物〕磁器1点・土師器坏2点・須恵器片1点を図化している。1は中国邢州窯製である。2・3は坏。4の須恵器の胎土は暗赤褐色である。馬歯・緑釉陶器片も検出した。

31号溝（第４図）

〔位置〕Ｂ～Ｄ－13グリッド

〔重複〕１号竪穴建物・30号溝に切られる。

〔形状〕Ｎ－19°－Ｅに軸線をとる。長さ約9.5ｍ、幅0.4～0.6ｍ、深さ10～15cmを測る。

〔遺物〕土師器坏小片を検出しており、底部回転糸切痕が多く見られる。

32号溝（第４図）

〔位置〕Ｆ－13～16グリッド

〔重複〕30号溝不明。炭化物集中範囲１を切る。

〔形状〕Ｎ－75°－Ｗに軸線をとる。攪乱を受けた部分もあり全長は不明であるが、東側から長さ約2.3ｍ、0.8ｍ、0.9ｍ、幅約0.2～0.6ｍ、深さ約20cmを測る。

〔遺物〕緑釉陶器片、焼土塊を検出している。

33号溝（第４図）

〔位置〕Ｄ－16・17グリッド

〔重複〕ピット31は不明。

〔形状〕Ｌ字状の溝である。延長約1.9ｍはＮ－14°－Ｅに軸線をとり、続く4.3ｍは屈曲してＮ－76°－Ｗに軸線を変える。幅約0.3～0.6ｍ、深さ約15～25cmを測る。覆土及び周辺南西側から、炭化物・焼土が多く確認されている。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

34号溝（第４図）

〔位置〕Ｂ・Ｃ－16グリッド

〔形状〕Ｎ－13°－Ｅに軸線をとる。長さ約1.8ｍ、幅0.2～0.4ｍ、深さ約10cmを測る。

〔遺物〕10世紀前半の土師器坏小片を検出している。

（志村憲一）

〈Ｃ区〉

35号溝（第10図／図版６）

〔位置〕Ｊ－18グリッド

〔形状〕遺構のほとんどが攪乱を受けており、詳細は不明。36号溝跡と同一の溝とも考えられる。

〔遺物〕土師器１点を図化している。

36号溝（第10図／図版７）

〔位置〕Ｈ・Ｉ－17・18グリッド

〔形状〕溝跡は、ほぼ90度に曲がるが、遺構のほとんどに攪乱を受けている。

〔重複〕２号建物跡・１号埋甕と重複する。

〔遺物〕須恵器１点・土師器坏４点・置きカマド１点を図化している。

（山﨑雅恵）

第４節　埋甕

埋甕（第10図／図版７）

〔位置〕Ｈ－18グリッド

〔形状〕上部を攪乱によって掘り込まれており、検出した部分は甕の体部から底部、約３分の１ほどである。平面形その他、遺構の詳細は不明である。

埋甕の内部には炭化した米が詰まっており、一部、穂首の形も確認している。埋められていた甕に重なるようにして、甕の口縁部分を何点か検出したが、体部とは接合しなかった。

〔遺物〕須恵器甕１点、土師器坏１点を図化している。

（山﨑雅恵）

第５節　土坑・ピット

〈土坑〉

１号土坑（第１図）

〔位置〕Ａ－２グリッド

〔形状〕径約66cmの円形の土坑である。確認面からの深さ約５cmと、浅い遺構である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

２号土坑（第１図）

〔位置〕Ａ－２グリッド

〔形状〕径約60cmの楕円に近い掘り方の土坑である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

３号土坑（第１図）

〔位置〕Ａ－２グリッド

〔形状〕平面形は楕円形、長軸約53cm、確認部分で短軸約33cm、深さ約15cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

４号土坑（第１図）

〔位置〕Ａ－２グリッド

〔重複〕６号土坑を切る。

〔形状〕平面形は楕円形、長軸約58cm、短軸44cm、確認面からの深さ約18cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

５号土坑（第１図）

〔位置〕Ａ－４グリッド

〔形状〕平面形は長方形、確認部分で長軸が91cm、短軸が78cm、確認面からの深さ14cmを測る。埋土は砂質の粘土層であり、ほぼ一気に埋積した遺構と考えられる。

〔遺物〕遺物は検出していない。

6号土坑（第1図）

〔位置〕A－2グリッド

〔重複〕Pit 7・12・21・4号土坑に切られる。

〔形状〕平面形はほぼ円形、長径約52cm、深さ約19cmを測る。

〔遺物〕土師器壺1片・土師器高坏1点を図化している。

7号土坑（第2図）

〔位置〕A－3グリッド

〔形状〕平面形は方形を呈する。長軸2m、短軸1m、深さ約13cmを測る。

〔遺物〕須恵器片1点他土師器片を検出している。

8号土坑（第2図）

〔位置〕A－2グリッド

〔形状〕直径約83cmの円形の土坑と考えられる。確認面からの深さ約10cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

9号土坑（第2図）

〔位置〕A－2グリッド

〔形状〕平面形は不正形であり、長軸約1m、短軸72cm、深さ約10cmを測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

（山﨑雅恵）

10号土坑（第14図／図版8）

〔位置〕F－13グリッド

〔形状〕径約0.7m、深さ約7cmを測る。

〔遺物〕土錘1点を図化している。須恵器小片も検出している。

（志村憲一）

11号土坑（第13図／図版8）

〔位置〕B・C－16・17グリッド

〔重複〕14号土坑、15号土坑を切る。

〔形状〕長径2.27m、短径1.87mの楕円形で、深さ83cmを測る。最下層の砂層部では、上層の粘質土がブロック状に混在し、地山層と同じ砂粒がマーブル状に混入していることから、人為的掘削と水の対流の痕跡と判断し、井戸跡と推定した。また、上層では遺構範囲内から石や礫が出土し、墓坑の可能性も検討したが、下層で植物遺体の堆積が2層確認されたため、井戸廃棄後の自然埋没の過程で投げ込まれたものと推定される。

〔遺物〕土師器坏1点・陶器片1点・小刀1点・籠状製品1点を図化している。1は古代末1期に相当し、ヘラ調整はなく、回転糸切痕が残る。2は陶器片で、渥美窯所産と推定される。外面は施釉され、内面は輪積み痕や粗い調整痕がみられる。

〔小刀と籠状製品〕小刀は、形状から平安時代末期の大和伝と考えられる。木製の柄部分が遺存した状態で検出され、全長31.1cm、刀身の長さ29.3cm、刃幅2.3cm、重さ88.07gを測る。柄の端部に刻みがあり、紐または布などで巻いていたものと推定される。柄材の片側は目釘孔が2箇所あり、二つの部材を合わせた下面が削りにより平坦に調整されていることから、目釘の打ち直し又は補修等が施されたと考えられる。同層から検出された籠状製品は、遺構セクション上で確認された遺物であり、半截した際に一部を欠損している。遺存部分の網目の構成は、全部が一定ではないものの、二本越え、一本潜り、一本送りが基調となっているようである。

12号土坑（第14図）

〔位置〕B－9グリッド

〔形状〕一部が調査区壁面にかかり、壁際の排水溝で土坑の一部を壊している。平面形はほぼ円形で、長径2.25m、深さ47.5cmを測る。上面は28号溝との重複が推定されるが、周辺から古銭・白磁片（図版13－8・9）が出土するなど後世の攪乱を受けたことが確実である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

（望月秀和）

13号土坑（第4図／図版8）

〔位置〕B・C－10グリッド

〔形状〕楕円形を呈し、長径0.75m、短径0.6m、深さ14cmを測る。

〔遺物〕土師器坏片を検出している。

14号土坑（第13図）

〔位置〕B・C－16グリッド

〔重複〕11号土坑に切られる。

〔形状〕不整方形を呈し、長さ約2m、幅1.1m、深さ約15cmを測る。

〔遺物〕土器小片を検出している。

15号土坑（第13図／図版8）

〔位置〕C－16グリッド

〔重複〕11号土坑に切られる。

〔形状〕不整形を呈し、西側は11号土坑により攪乱を受ける。南北・東西約1.4m、最深20cmを測る。

上面に炭化物の堆積が確認され、多くの土師器坏・皿片を検出した。また遺構北東側で杭を２本検出した。先端には削り加工の痕跡があり、幅約７㎝、厚さ約２㎝、長さ55㎝を測る。材質は不明である。

〔遺物〕土師器坏２点・皿２点を図化した。１は土師器皿で底部と体部下半にヘラケズリを施し、体部に逆位で「子北」と墨書されている。３・４は内外面に炭化物の付着がある。いずれも10世紀前半に位置づけられる。

（志村憲一）

16号土坑（第13図／図版９）

〔位置〕Ｂ・Ｃ－16・17グリッド

〔形状〕平面形は不整円形で、長径87㎝、短径72㎝、深さ10㎝を測る。遺存状況が悪く、プランの把握が困難であったため、土器検出面の炭化層の広がりから遺構範囲を推定した。

〔遺物〕土師器坏１点・皿２点・鉢２点を図化している。すべて炭化層上のほぼ同レベルから検出されており、１と２、５と６はそれぞれが内面を合わせた状態で出土し、３と４は両間に据えられた状態で検出された。

１と５は土師器皿で、外面は回転糸切痕がわずかに残る。粗いヘラケズリが施されており、１は底面の平坦を欠いている。また内面に焼成後につれられた約２㎝の削痕がみられる。

２と６は土師鉢で、底部から胴部下半にかけて粗いヘラケズリが施されている。２は口縁部にスス、さらに内面で火を焚いた痕跡がみられる。３は土師器坏で古代末１期に相当する。成形は粗雑でヘラ調整痕はなく、底部は回転糸切により穿孔しており、器体は全体的に黒変している。４は小型壺で、約半分を欠損しており、体部下半にヘラケズリ、底端部に刻みがみられる。

遺物取り上げの際、土器覆土及び遺物検出面の炭化層を任意に採取し、フローテーションを実施した。その結果、遺物検出面の炭化層から炭化米が検出された。土器の配置や供伴関係、または土器を合わせる行為、炭化米の検出から、祭祀等の可能性が窺われ、遺構の性格が推測されるが、ここでは状況の報告に留めておきたい。なお、１と５については皿としたが、実測図は検出状況に合わせて図化・図示している。

（望月秀和）

17号土坑（第13図）

〔位置〕Ｃ－17グリッド

〔形状〕方形を呈し、長さ約0.9ｍ、幅0.4ｍ、深さ13㎝を測る。

〔遺物〕土器小片を検出している。

18号土坑（第14図）

〔位置〕Ｆ－14グリッド

〔形状〕Ｎ－10°－Ｗに軸線をとる。東側は攪乱を受けているが、長さ1.3ｍ、深さ10㎝を測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

（志村憲一）

19号土坑（第14図）

〔位置〕Ｈ－18・19グリッド

〔重複〕不明遺構１を切る。

〔形状〕攪乱が半分以上に及び、平面形など詳細は不明である。埋土には焼土と思われる、褐色の土粒が多く混じっていた。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

20号土坑（第15図）

〔位置〕Ｉ－20グリッド

〔形状〕19号土坑と同じく半分以上に攪乱を受けており、平面形など詳細は不明である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

21号土坑（第15図／図版９）

〔位置〕Ｊ－18グリッド

〔形状〕平面形はほぼ楕円形で、直径約1.16ｍ、深さ約21㎝を測る。埋土に若干の炭化米を含む。

〔遺物〕土師器坏を２点図化している。口縁部は玉縁化している。その他、須恵器片、土師器小片を検出した。

22号土坑（第15図）

〔位置〕Ｊ－19グリッド

〔形状〕遺存状態が非常に悪い。平面は楕円形を呈し、長軸約70㎝、短軸55㎝、深さ約７㎝を測る。覆土は、炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

23号土坑（第15図）

〔位置〕Ｋ－19グリッド

〔形状〕平面形はほぼ円形で、直径約1.3ｍ、確認面からの深さは約９㎝と浅い。覆土は、炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕土師器坏１点を図化している。

24号土坑（第15図／図版９）

〔位置〕K－19グリッド

〔形状〕平面は円形を呈し、直径約98cm、確認面からの深さ約12cmを測る。覆土は、炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕壺１点を図化している。小片であるが、折り返し口縁で、古墳時代に比定される。

25号土坑（第15図／図版９）

〔位置〕K－19グリッド

〔形状〕直径約32cmの円形の土坑である。深さ約６cmを測る。覆土は炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕土師器坏１点、羽釜１点を図化している。坏、羽釜ともに甲斐型編年Ⅻ期に相当する。

26号土坑（第15図）

〔位置〕K－19グリッド

〔形状〕平面形はほぼ円形で、直径約32cm、確認面からの深さ約６cmを測る。覆土は炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

27号土坑（第15図）

〔位置〕K－19グリッド

〔形状〕平面形はほぼ円形で、直径約76cm、確認面からの深さ約12cmを測る。覆土は炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

28号土坑（第15図）

〔位置〕K－19グリッド

〔形状〕平面形はほぼ円形、直径約96cm、確認面からの深さ約13cmを測る。埋土は、炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

（山﨑雅恵）

29号土坑（第17図／図版11）

〔位置〕F－13グリッド

〔形状〕方形周溝墓南西隅に位置する。東西径0.9m、南北1.15m、深さ25cmを測る。周溝の覆土と遺物に類似性が見られることから、周溝墓に関連する遺構である。

〔遺物〕20は碗である。S字甕片等、方形周溝墓と同時期の遺物を検出している。

（志村憲一）

〈ピット〉

Pit 1（第１図）

〔位置〕A－２グリッド

〔形状〕平面形は一部調査区外となるため、不明。径は約22cm、深さ約９cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit 2（第１図／図版９）

〔位置〕A－２グリッド

〔形状〕平面形は円形で、径約32cm、確認面からの深さ約22cmを測る。

〔遺物〕土師器坏口縁部を１点、須恵器片１点を図化している。

Pit 3（第１図）

〔位置〕A－３グリッド

〔重複〕２号溝を切る。

〔形状〕平面形は円形、径約98cm、確認面からの深さ４cmを測る。Pit４・５とともに柱穴列を構成する。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit 4（第１図）

〔位置〕A－３グリッド

〔形状〕平面形は円形で、径約90cm、深さ約８cmを測る。Pit３・５とともに柱穴列を構成する。

〔遺物〕高坏頸部の他、土師器小片を検出している。

Pit 5（第１図）

〔位置〕A－３グリッド

〔形状〕平面形は円形で、径約84cm、深さ約７cmを測る。Pit３・４とともに柱穴列を構成する。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit 6（第１図）

〔位置〕A－２グリッド

〔形状〕平面形は円形で、径約28cm、深さ約36cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit 7（第１図）

〔位置〕A－２グリッド

〔重複〕６号土坑を切る。

〔形状〕平面形は不整円形で、長径約36cm、短径約26cm、深さ約22cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit 8（第１図／図版９）

〔位置〕A－２グリッド

〔形状〕平面形は円形で、径約28cm、深さ約29cmを測る。
〔遺物〕灰釉陶器片１点を図化している。手付瓶の底部である。外面は釉薬が垂れ、底面近くに一条の筋が入る。猿投窯黒笹90号窯式期～折戸53号窯式期に相当する。

Pit９（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔重複〕２号溝を切る。
〔形状〕平面形は円形で、径約22cm、深さ約12cmを測る。
〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit10（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔形状〕平面形は長円形で、長径約31cm、短径22cm、深さ36cmを測る。
〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit11（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔形状〕平面形は円形、径約27cm、深さ約24cmを測る。
〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit12（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔重複〕６号土坑を切る。
〔形状〕平面形は円形で、径約23cm、深さ約18cmを測る。
〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit13（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔形状〕平面形は不整円形で、径約15cm、深さ約15cmを測る。
〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit14（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔形状〕平面形は不整円形で、径約26cm、深さ約33cmを測る。
〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit15（第１図／図版８）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔重複〕１号溝に切られる。
〔形状〕平面形は長円形で、長径約27cm、短径約20cm、深さ約35cmを測る。
〔遺物〕須恵器小片、土師器小片を検出している。

Pit16（第１図）
〔位置〕Ａ－２
〔重複〕１号溝に切られる。
〔形状〕平面形は不明。長径28cm、短径15cm、深さ約６cmを測る。
〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit17（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔重複〕１号溝に切られる。
〔形状〕平面形は不整円形で、径約20cm、深さ７cmと浅いピットである。
〔遺物〕遺物は検出していない

Pit18（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔形状〕平面形は略円形で、径約26cm、深さ17cmを測る。
〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit19（第１図／図版９）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔重複〕１号溝を切る。
〔形状〕平面形は楕円形で、長径約20cm、短径約15cm、深さ18cmを測る。
〔遺物〕土師器皿を１点図化している。

Pit20（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔重複〕２号溝に切られる。
〔形状〕平面形は楕円形で、長径46cm、短径36cm、深さ35cmを測る。
〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit21（第１図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔重複〕６号土坑を切る。
〔形状〕平面形は円形で、径約32cm、深さ約30cmを測る。
〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit22（第２図）
〔位置〕Ａ－２グリッド
〔重複〕５号溝を切る。
〔形状〕平面形は円形で、径約32cm、深さ27cmを測る。
〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit23（第２図）

〔位置〕Ａ－２グリッド

〔形状〕平面形は不整円形で、径約32cm、深さ約33cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

（山﨑雅恵）

Pit24～32　表１参照。

Pit33（第14図）

〔位置〕Ｂ－12グリッド

〔形状〕１号竪穴建物北側に位置し、円形を呈する。長径0.5ｍ、短径0.45ｍ、深さ10cmを測る。

〔遺物〕土師器、緑釉陶器小片を検出している。

（志村憲一）

Pit34～47　表１参照。

第６節　方形周溝墓

方形周溝墓（第17図、図版10・11）

〔位置〕Ｃ－14、Ｄ－12・13、Ｅ・Ｆ－12～15グリッド

〔重複〕30号溝・２号掘立柱建物・２号竪穴建物・３号竪穴建物に切られる。

〔形状〕Ｎ－21°－Ｅに主軸をとる。上面及び主体部は古代の遺構により削平を受けていた。規模は東西12ｍ、南北9.2ｍ、平面形は方形を呈する。周溝は北辺の長さ約11ｍ、最大幅約１ｍ、深さ10cm、西辺の長さ７ｍ、最大幅1.8ｍ、深さ15cm、南辺の長さ7.5ｍ、最大幅1.5ｍ、深さ30cmを測る。東辺は攪乱を受けているが、長さ９ｍ、最大幅2.8ｍ、深さ25cmを測る。南西隅と南東隅で一部途切れるが、遺存状況からはブリッジなどの遺構に伴う施設であるか判断できなかった。北東隅には突出部があり、南北約３ｍ、東西2.1ｍ、深さ25cmを測る。この突出部は、北壁で方形周溝墓と同質の覆土の溝跡が確認され、さらに北側Ｂ－13グリッドの出土遺物と接合関係にあることから、北側に存在した周溝墓の溝とも考えられる。

〔遺物〕　壺10点、Ｓ字甕４点、小壺１点、高杯１点、ミニチュア土器１点を図化している。遺物は主に突出部（土器集中１、遺物１～11・15）と南溝東隅（土器集中２、遺物12・13・20）から検出された。検出した遺物は、すべて古墳時代初頭に比定される。

（志村憲一）

第７節　不明遺構

不明遺構１（第14図）

〔位置〕Ｇ－18・19、Ｈ－18グリッド

〔重複〕19号土坑に切られる。

〔形状〕遺構床面に、底面が緩やかなＵ字型となり、長さ約1.5ｍ、幅32cm、確認面からの深さ約２～４cmを測る、南北方向に軸をもった３本の短い溝を検出した。東西方向にほぼ80cmの間隔で平行に並んでいる。また、遺構の西側部分で、南北方向に軸をもつ同様の溝が１本、東西方向の溝と重複していた。

　確認できた遺構範囲は、東西約４ｍ、南北約１ｍの長方形であるが、東側にもう少し広がっていた可能性が高い。

〔遺物〕遺物は、平安期の土師器小片のみ。他、遺構覆土から大量の炭化米を検出している。

不明遺構２（第16図／図版12）

〔位置〕Ｋ－20グリッド

〔形状〕遺構上部は削られており、厚さ約６cmの炭化層が東西約４ｍ、南北約３ｍの範囲に広がっていた。検出時には住居床面と考えていたが、遺存状態が悪く、部分的な調査に留まっているため、不明遺構として記述する。

　不明遺構と遺構範囲を重なるようにして、東西４ｍ、南北２ｍ間隔で４本の杭を検出しているが、不明遺構との関連を判断できていない。

〔遺物〕灰釉陶器２点、須恵器１点、土師器坏９点、土師器皿２点、土師器甕４点、羽釜２点を図化している。８～９の土師器片の墨書は、小片のため判読できない。14の灰釉陶器は欠損部と施釉部分にかかり墨書の判読は困難である。また内面に二次使用の痕跡がみられる。遺物は遺構東側のトレンチからまとまって検出された。

（山﨑雅恵）

第８節　炭化物集中範囲

炭化物集中範囲１（第４図／図版13）

〔位置〕Ｅ・Ｆ－15～17グリッド

〔重複〕32号溝に切られる。

〔形状〕東西約６ｍ、南北約７ｍの範囲に炭化物・焼土の広がりが見られる。部分的に緩慢はあるが厚さ0.1～0.2ｍほどの堆積が見られる。ピット・土坑等の遺構は確認されていない。

〔遺物〕灰釉陶器碗１点・土師器皿１点・壺片１点・土師器羽釜１点・高坏１点を図化している。１は灰釉陶器碗で、底部高台内に判読不明の

墨書が記されている。折戸53号窯式期、10世紀前半に位置づけられる。2は土師器羽釜である。3は灰釉陶器壺の頸部で折戸53号窯式期、4は灰釉陶器皿で黒笹90号窯式期に比定される。5は古墳時代高坏脚部である。他に須恵器・土師器坏・炭化米を検出している。

炭化物集中範囲2（第4図／図版13）

〔位置〕D－15・16グリッド

〔重複〕2号掘立柱建物柱穴3にかかる。

〔形状〕東西約6m、南北約2mの範囲に炭化物・焼土の広がりが見られる。部分的に緩慢はあるが厚さ約10cmの堆積が見られ、2号掘立柱建物近辺では特に炭化物と灰の集中が確認された。

〔遺物〕土師器坏を図化している。

炭化物集中範囲3（第4図）

〔位置〕B－12グリッド

〔形状〕不整形であり、東西0.55m、南北0.35mの範囲に、厚さ2～4cmの炭化物が集中する。1号竪穴建物及びピット33に近接し、同時期の関連遺構と考えられる。

〔遺物〕遺物は検出していない。

炭化物集中範囲4（第4図）

〔位置〕F・G－15グリッド

〔形状〕円形を呈し、径約0.4mを測る。炭化物の中に炭化米の混入が多い。

〔遺物〕遺物は検出していない。

第9節　遺構外出土遺物

遺構外からは古墳時代初頭、古代9世紀後半～10世紀代、中世の遺物が検出された。ここでは極めて残存状況が良好な遺物について図化を行い、主な遺物について図版番号順に記述する。

〔図版13・14・15〕

A区の遺物は1～6である。1の緑釉陶器は、猿投窯製である。5は陶器製擂鉢であり、A－3グリッドから出土した。同質の擂鉢が11号溝から出土している。（図版6）

B区の遺物は7～22である。7は古墳時代の器台である。8の古銭は、北宋銭の「元祐通宝」である。9は中国製白磁皿であり、15世紀代に位置づけられる。12の天目茶碗は、中国貴州窯製である。10墨書土器は、体部に逆位に書かれており、判読不明。4号竪穴建物周辺から検出された。15の緑釉陶器は、黒笹90号窯式期の猿投窯製であり、見込み部に四弁花の陰刻文様が施されている。2・3号竪穴建物の南側から出土した。18の土錘は、長さ5.7cm、径2.3cm、孔径0.4cm、重さ29.3gを計測する。19・22の灰釉陶器は、黒笹90号窯式期の碗と段皿であり、9世紀後半に位置づけられる。21の底部にある墨書は油大とも読めるが、断定は難しい。9世紀後半に位置づけられる。20の丸瓦は赤褐色を呈し、厚さ21mmを測る。

C区の遺物は23～52（除46）である。23の須恵器は、35号溝周辺で検出された。26の金属製品は鉄製である。釣り針状で断面は四角形を呈し、上面は扁平に加工されている。6号竪穴建物南側から近接して検出された。27の甕は、内外面に炭化物の付着が見られる。28・29の坏は、坏体部に墨書があるが判読不明である。7号竪穴建物周辺から出土した。33須恵器は櫛描波状文がみられ、外面は黒褐色、胎土は暗赤褐色を呈する。34～36は不明遺構2の東側から検出した。34の坏は、回転糸切痕が見られる。35は墨書土器であるが、判読不明である。36の坏は口縁部にススの付着が見られる。37～45は、C区攪乱部周辺から検出された古墳時代の遺物である。37・38はS字甕である。37の壺は、上面に縦方向、下面は横方向の丁寧な磨きが見られる。42は高坏である。43の台付甕脚部は、ススの付着が見られる。45は碗である。46は坏底部に「□（東）」、47は坏体部に「□□（大東）」と記された墨書土器である。49の小型壺は、上部は横斜め方向、下部は横方向に、ヘラ磨きが見られる。50の緑釉陶器碗は、見込み部に陰刻文様が施され、猿投窯製の黒笹90号窯式期に相当する。51は断面が四角形の鉄製品である。52は厚さ19mmの平瓦であり、赤褐色を呈する。

試掘時出土及び表面採取の遺物は6点を掲載した。1は試掘トレンチT－4で検出した墨書土器であり、底部に「東大」と記されている。2は試掘トレンチT－1西側拡張部で検出した須恵器小壺であり、猿投窯の所産で8世紀後半に位置づけられる。3・4は試掘トレンチT－3の中央部から検出した。3の天目茶碗は瀬戸美濃系の所産で、古瀬戸後期様式Ⅳ期に比定される。4青磁碗は口縁下部に雷文帯があり、14世紀代の中国龍泉窯製と考えられる。5は試掘トレンチT－1西側拡張部で検出した土製の甕と考えられるが、時期等は不明である。6は調査区外北側で表面採取した安山岩製の五輪塔火輪である。

（志村憲一）

第５章　まとめ

第１節　調査所見

Ａ区

Ａ区は極めて限られた範囲内の調査であったが、溝５条・土坑９基・ピット23基を検出している。

Ａ区は、時期差に関しては明確ではないものの、全体の遺構の切り合いなどから、２段階に分けて考えることができる。

１段階目は、４号溝、５号溝の他、遺構は、ほとんど確認できない。遺物は古墳時代のＳ字甕などが主体であり、平面の形状から考えると、周溝墓の溝の一部とも考えられる。

２段階目は、１号溝・３号溝と周辺のピット群が存在し、Pit３・４・５を境として、西側に遺構のほとんどが集中する。これに対して、Ａ－３グリッド以東は、遺構がほとんど検出されていない。Pit３～５が何らかの境となっているのだろうか。この段階は、出土した遺物から考えると、９世紀中頃から10世紀に収まる、平安期の遺構群であろうと思われる。

全体を見てみると、断面図からもＡ－３グリッドあたりを境として、調査区東側はいずれの段階でも遺構がほとんど検出されていない。遺構が分布しない範囲はＢ区まで広がると思われるが、遺構希薄地帯がどのような機能をもって広がっていたかは不明である。

（山﨑雅恵）

Ｂ区

Ｂ区は約885㎡と最も広範囲の調査を行った。地形は南と南東側へ緩やかに傾斜している。検出された遺構は、竪穴建物５棟・掘立柱建物２棟・溝28条・土坑９基・ピット８基・炭化物集中範囲４箇所・方形周溝墓１基である。古墳時代前期、古代、中世の３時期に大別できる。古代に関しては、さらに細分化され数期の変遷が窺える。

古墳時代面からは方形周溝墓が１基確認されている。遺構上面は古代の遺構により削平され、周溝のみが検出された。出土遺物はＳ字甕など古墳時代初頭の遺物が多くを占める。遺物が大量に検出された北東側の突出部については、調査区北壁で周溝と同質の覆土が検出され、さらにＢ－13グリッド周辺から古墳時代の遺物が検出されていることから、北側に隣接が推定される別の周溝墓の周溝と考えられる。また29号土坑からも周溝墓と同時期の遺物が検出され、周溝墓に関連する遺構と考えられる。

古代は、９世紀後半から10世紀後半にかけての遺構が見られ居住地域であった。主に28号溝西側の４・５号竪穴建物、北側の１号掘立柱建物と１号竪穴建物、30号溝東側の２号掘立柱建物と２・３号竪穴建物、北東側の土坑集中部の主に４箇所に集中して見られ、南側からの遺構・遺物の検出は少ない傾向にある。

１号竪穴建物の南側からは、漁労生活が行われていたことを窺わせる土錘が集中して検出された。甲斐型編年Ⅻ～古代末Ⅰ期の遺物が出土していることから、10世紀後半の住居と考えられる。

２号掘立柱建物周辺では、９世紀後半から10世紀前半にかけての遺構の複雑な切り合い関係がみられた。３号竪穴建物、２号掘立柱建物、２号竪穴建物、30号溝の順番に４期の変遷が見られた。

４・５号竪穴建物は、甲斐型編年Ⅻ期の遺物が検出されているが、４号竪穴建物では折戸53号窯式期、５号竪穴建物では黒笹90号窯式期の遺物が出土している。このことから、10世紀前半と９世紀後半の時期差があることも考えられる。

１・２号掘立柱建物に関しては、規模は異なるが東西２間、南北３間である。特に１号掘立柱建物の柱穴からは、須恵器の甕片が多数検出されていることから、倉庫跡と考えられる。また両遺構の柱穴底部で検出された礎板は、厚さ３～５㎝程の板材であり、一部では柱材が遺存しており、礎板上に据えられた状況が確認された。礎板は、砂質土など不安定な地盤に建物を構築するための建築工法と考えられる。

Ｂ区南東側では炭化米を含む、炭化物集中範囲が３箇所見られる。特に炭化物集中範囲２は、２号掘立柱建物に掛かることから、掘立柱建物の焼失に伴うものと推察される。

溝は、27～34号溝の８条が確認された。28・29・30・31号溝の４条は、南下する流水の痕跡が窺える。28号溝は、灰釉陶器が検出していることから９世紀後半以降に機能していたものと推察される。29・31号溝に関しては、延長線上にあることから同一の遺構の可能性が考えられる。30号溝は、遺構の切り合い関係から、10世紀後半以降に位置づけられる。この溝からは馬歯が１点検出された。

土坑は、10・13・14・15・16・17・18号土坑の７基が古代に位置づけられる。15号土坑は部分的に炭化物の集中が見られ、甲斐型編年Ⅻ期の遺物が多数検出された。16号土坑では、10世紀後半の古代祭祀等を窺わせる鉢・蓋等が出土した。12号土坑に関しては、擂鉢状を呈していることから、井戸の可能性も考えられる。また時期については、周辺から古銭・白磁等が出土していることから、中世段階まで下がる可能性も考えられる。

ピットは、Pit25～33と、古墳時代面からPit37～43の都合16基が確認されており、Pit33からは緑釉陶器が検出されている。

中世段階の遺構は、古代の遺構と比べて極めて少な

く、溝・畝状遺構・土坑１基が確認されているが、遺構の遺存状況は良好とはいえず、溝の機能及び時期の特定は困難な部分が多い。しかし水路・畝の遺構が検出されていることから、中世になると畑・水田等の耕作地になったものと考えられる。

調査区上層で確認された、南北方向の６・７・８・11・14・17・19・20・21・22号溝は、N－12°－E～N－16°－Eとほぼ同軸線上にある。また東西方向の９・12・13・15号溝は、上記南北方向の溝と直交し、S－73°－EあるいはS－76°－Eの軸線を持つ。この東西・南北方向の溝はほぼ同一面に位置することから、同時期に存在した可能性が高い。時期の特定については、溝からの遺物の検出が極めて少ないため困難ではある。しかし11・15・20・21号溝からは、陶器製の擂鉢・土製擂鉢・瓦質土器が検出されていることから、中世段階の遺構である。さらに上記11号溝に直交する９・12号溝と、14号溝に直交する15号溝に関しては、覆土に類似性が見られることから同時期の遺構と考えられる。14・15号溝は、溝底部に砂粒の堆積が確認された。さらに調査段階において数箇所において、杭の痕跡が窺えたことから、水路として機能していたものと考えられる。６・７・８号溝はほぼ同規模であり、等間隔に並びほぼ同軸線状にあることから、畑の畝と推察される。

11号土坑は擂鉢状の井戸であり、平安期末と推定される小刀と渥美窯製の陶器片が出土している。検出された籠状製品については、今後の調査研究により器種等が解明されるものと考えられる。出土遺物から中世初頭の12世紀代まで遡る遺構と考えられる。

（志村憲一）

C区

C区からは、竪穴建物２棟・溝２条・埋甕１基・土坑11基・ピット３基・不明遺構２基を検出している。

C区は調査区の地形が顕著にアップダウンしており、南東角が全体に比べ極端に高い。J－19グリッド周辺は若干低くなるが、北東方向に向かって再び緩やかに高くなっている。南東傾斜面から、木根痕を検出している。主な遺構は地形的に高くなる、この南東角、北東側から検出している。

調査区北東側のほぼ全ての遺構覆土には多量の炭化米が含まれていた。炭化米の集中区は、調査区北東の一画で、不明遺構１の周辺である。不明遺構１は、検出時、表層部分が削られてほとんど覆土がない状態であったが、ここからは、まとまった炭化米と浅いU字型の掘り込みを確認している。あるいは倉庫のような建物の基礎跡とも考えられる。

北東側からは、この他に６号竪穴建物、７号竪穴建物、35号溝、36号溝、埋甕などの遺構を検出しているが、各遺構の切り合い関係は明確なものではない。

この他、特記することとして、H－19、I－19グリッドにまたがる攪乱の南側、６号竪穴建物の90cm余り下から、まとまった古墳時代前期の遺物（図版14－37～45）を検出している。攪乱西側の断面観察では、36号溝下面から約40cm余りの地点で、溝状の落ち込みを確認しているが、北側及び東側ではこれを確認できなかったことから、溝は西側の落ち込み確認地点から、大きく南側に曲がっていると考えられる。６号竪穴建物下から出土した遺物はこの溝に属すると考えられ、ここに方形周溝墓のような大型の遺構が存在していた可能性が高いと思われる。

調査区南東角からは土坑群、他不明遺構２を検出している。

土坑群は、埋土に非常に多くの炭化物を含んでおり、一様に含水率が高かった。不明遺構２の断面観察用のトレンチから判断するに、不明遺構２とほぼ同時期の遺構と考えられる。

不明遺構２は、表面部分が削られており、遺存状態は悪かったが、検出時には、ほぼ水平に堆積した厚さ約２cm前後の炭化層が露出していた。これを住居床面と考えることもできよう。

不明遺構２に重なるようにして、杭を４本検出しているが、これを不明遺構２に伴う上屋構造の柱と考えるには、間隔が狭いこと、不明遺構２の大きさに比して側柱しかないことが不自然なこと、遺構に伴う明確な遺物を検出できなかったことから、時期、機能、その他不明遺構２との関連について、判断できなかった。

全体的にみて、C区で検出された遺構は、時期的には、ほぼ９世紀中頃から10世紀中頃の範囲内に収まるものが中心であり、平安期に主に居住域として利用されていたと考えられる。

平安期の遺構の下にはB区に続き、方形周溝墓が存在していた可能性が高い。

（山﨑雅恵）

第２節　調査の成果と今後の課題

伝説によると、太古甲府盆地は湖であり、富士川の禹瀬を開削してから盆地中央部に人の集住が行われるようになったとされる。現在もこの伝説がまことしやかに語られ、今まで盆地底部の遺跡は極めて少なく、発掘調査も数例しかない状況であったため、盆地底部の古代の様相については謎であった。

しかし、今回の調査で古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が検出されたことは、盆地底部における遺跡空白地域を考える上において重要な発見であった。ここでは、各時代ごとに若干の考察を行いまとめとしたい。

(1)古墳時代

甲府盆地の古墳時代の遺跡は、盆地縁辺部に多く、盆地底部には遺跡は少ない。ヂクヤ遺跡周辺には、藤塚、京塚、在原塚などの古墳や、朝気遺跡、二又遺跡、淵之上遺跡などの集落や散布地が知られているのみであった。しかし、本遺跡において、古墳時代初頭の方形周溝墓が検出され、盆地底部に初めて同墓制が確認された。

検出された周溝墓は、東西11×南北９ｍの中規模の周溝墓であり、さらに北側には、周溝を接して１基存在した痕跡が確認されている。またＡ区５号溝及びその周辺、Ｃ区の攪乱内からも古墳時代初頭の遺物が検出されている。これらのことから、調査区周辺一帯は古墳時代初頭における墓域であったと考えられる。

(2)古代

古代は９世紀後半から10世紀代に集落が営まれていた。遺構はＡ区西側、Ｂ区西側及び北側、さらにＢ区中央部からＣ区にかけて集中していた。平成４年度に対岸で行われた試掘調査地点においても墨書土器などの遺物が検出されていることから、広範囲に集落は営まれていたものと考えられる。Ｂ区の中央部からＣ区にかけては、炭化物及び焼土の堆積が見られた。特にＣ区では遺構の多くから炭化物が確認されている。この一帯は、火災に遭ったものと考えられる。さらに上面にやや粒子が粗い黄褐色の砂が、20cm以上の厚さで堆積しているのが確認された。当調査区は集落として、９世紀後半に出現し、10世紀前半から中頃にかけて最盛期をむかえたものと考えられる。そして10世紀後半に火災、さらに洪水と自然災害により集落としての存続が不可能となり、消滅したのではないだろうか。

①古代の遺構

検出された主な遺構は、竪穴建物７棟、掘立柱建物２棟、溝、土坑、不明遺構２基である。竪穴建物の多くは東壁の中央部又は南側にカマドを持つ。

主な遺構は、甲斐型土器編年Ⅷ～古代末１期の出土遺物が検出されている。これらの遺物から遺構の時期をとらえると３時期の変遷が窺われる。

９世紀後半
　３号竪穴建物
10世紀前半
　２号竪穴建物、４号竪穴建物、５号竪穴建物、６号竪穴建物、７号竪穴建物、２号掘立柱建物、15号土坑
10世紀後半
　１号竪穴建物、30号溝、16号土坑

②出土遺物

出土遺物は、土師器坏・皿・甕・置きカマド・羽釜・墨書土器・土錘・瓦・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・中国荊州窯製白磁碗・砥石・金属製品・炭化米・馬歯などが出土した。

１号竪穴建物で集中して検出された土錘は、県内で出土した平安期の土錘とほぼ同一の形態である。10世紀後半以降、付近の河川で投網などの漁労生活が営まれていたことを窺わせる遺物である。

墨書土器は32点検出された。土師器・灰釉陶器の底部と体部に記され、体部に書かれたものは逆位が多い。墨書は、「日奉日」・「東大」・「子北」・「日」・「□□（油大)」などの文字、「×」等の記号的な墨書、則天文字と考えられる「九」などが検出されている。特に建物跡における出土が多く見られる。１号竪穴建物からは２点、２・３号竪穴建物９点、６号竪穴建物３点、７号竪穴建物１点、１号掘立柱建物１点、２号掘立柱建物１点である。またＣ区不明遺構２からも４点検出されている。２号竪穴建物カマド近辺では、「日奉日」と記されたの墨書土器が出土した。文字は吉祥句と考えられ、祭祀的な意味で使用された可能性も考えられる。またこの２・３号竪穴建物からは、「東大」２点、「東□」などの墨書が検出されている。県内では一宮町の大原遺跡などからの検出例が確認されている。油大とも判読できる墨書土器については、濁川下流に位置する油川という地名との関連も考えらえるが、現段階においては想像の域を出ない。

灰釉陶器は碗・段皿・手付瓶・長頸瓶、緑釉陶器は碗・陰刻文様の碗などが検出された。また図化は行ってはいないが、調査区外からは緑釉陶器の素体が１点出土している。時期については、黒笹90号窯様式から折戸53号窯様式の製品である。９世紀後半から10世紀前半にあたり、集落の存続時期と符合する。三河・遠江窯系の製品は見あたらず、いずれも猿投窯など尾張北東部の製品である。東山道経由で搬入されたことも考えられるが、現段階においては不明である。また１

点のみであるがPit33から近江系と考えられる緑釉陶器碗も出土した。

瓦は遺構外から2点検出された。いずれも赤褐色を呈する丸瓦と平瓦の小片である。濁川上流には国分寺に瓦を供給した川田瓦窯跡が位置することから、上流から流されてきたものと考えられる。また、瓦を使用した施設が存在していた可能性も否定できない。

炭化米は、B区東側からC区にかけて多く検出された。特にC区の埋甕遺構やその周辺一帯から集中して見られた。この近辺に倉庫などの遺構が存在することを窺わせ、9・10世紀には集落周辺において稲作が行われていた可能性が高い。

(3)中世

中世は、12世紀から16世紀代にかけての遺構・遺物が確認された。遺構としては渥美窯製の陶器片と小刀が検出された11号土坑以外は、水路・畝など農業生産の痕跡を示す遺構である。遺物は極めて少ないがB区北側にまとまっている。北宋銭、14～15世紀代の中国製天目茶碗・青磁碗・白磁皿など、遠隔地との流通を示す遺物が出土している。また調査区南側には河川改修により数度移動はしているが、15世紀代前半の安山岩製の六地蔵石幢が祀られていた。さらに以前調査区北側の水路浚渫の際に、五輪塔などの部材が多く発見されている。以上のことから調査区北側一帯に中世遺構の広がりがあるものと考えられる。貿易陶磁器等舶載品の出土遺物から、富裕層の屋敷や城館、または交易の場が存在していた可能性も考えられる。

中世この地域一帯は、一蓮寺の所領であったことが一蓮寺文書から確認される。今回の調査ではこの所領を裏付けることはできなかったが、出土遺物などから16世紀代まで栄えていたことが確認されている。この濁川流域には、落合氏館跡、小瀬氏館跡の城館跡、土尻遺跡などが知られている。また笛吹川と濁川の合流地点には高室氏館跡、上流には武田信虎が築いた川田館跡が位置し、中世の遺跡が見られる。甲斐国における舟運は、江戸時代初頭に幕府の命により京都の豪商角倉了以が富士川の開削を行ってから始まったとされているが、中世段階から濁川など内陸河川も交通路として機能していたことが十分考えられる。またヂクヤ遺跡北側には、甲斐から駿河へ通じる古道の若彦路が位置していたことから、調査区周辺は若彦路の陸上交通と河川交通の接点として、栄えていたことも考えられる。

(4)近世以降

近世から現代にかけては、1.5m以上の土砂の厚い堆積が確認されている。元禄7年（1694）には、代官桜井孫兵衛により、堤防を築き濁川の流れを笛吹川に合流させるという大規模な治水事業が行われた。さらに昭和40年代にも河川流路の改修が行われている。近年の台風でも調査区北側が冠水するなど、太古から現在に至るまで水害に悩まされた地域である。

おわりに

ヂクヤ遺跡は、甲府盆地底部の歴史景観を解明する上で重要な遺跡であると言えよう。しかし厳しい条件の中での調査であったため、遺跡の全体像を捉えることが困難であった。特に遺構が集中して炭化物の堆積が多くみられたC区については、狭隘な調査区であり、遺構の性格等を捉えることに支障をきたした。また大量に検出された炭化米等の植物遺体については、平安期の生産活動及び食生活の実態を知る上で重要である。

今回の調査で現地表下2mと深い位置から確認されたことから、盆地部の遺跡空白地帯において遺跡が発見される可能性は十分あるため、開発事業の際は注意が必要であると考えられる。

文末となったが、夏の残暑にはじまり、秋の長雨さらには厳しい寒さの中発掘調査に従事していただいた方々と、整理作業に協力をいただいた方々に、感謝を申し上げたい。

参考・引用文献一覧

一宮町遺跡調査会他　1990　『大原遺跡発掘概報』
甲府市市史編さん委員会　1989　『甲府市史史料編第１巻　原始・古代・中世』
甲府市市史編さん委員会　1991　『甲府市史通史編第１巻　原始・古代・中世』
甲府市市史編さん委員会　1992　『甲府市史通史編第２巻　近世』
甲府市市史編さん委員会　1993　『甲府の石造物』
甲府市教育委員会　1992　『甲府市遺跡地図』
山梨県考古学協会　1992　『甲斐型土器―その編年と年代－』　第１回研究集会資料
韮崎市教育委員会他　1992　『宮の前遺跡』
森原明廣　1994　「山梨県地域古代末期の土器様相―「甲斐型土器」の消滅とその後―」『丘陵』第14号　甲斐丘陵考古学研究会
平凡社　1995　『山梨県の地名』日本歴史地名大系19
山梨県埋蔵文化財センター　1996　『狐原遺跡』
西田町遺跡発掘調査団　1997　『西田町遺跡調査報告書』
山梨県　1998　『山梨県史資料編１　原始・古代１考古（遺跡）』
山梨県　1999　『山梨県史資料編２　原始・古代２考古（遺構・遺物）』
齋藤孝正　2000　『越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器』　至文堂
山梨県　2001　『山梨県史資料編３　原始・古代３考古（文献・文字資料遺）』
仙台市富沢遺跡保存館他　2001　『編む・組む―技の考古学―』地底の森ミュ-ジアム　平成13年度特別企画展
大坪遺跡発掘調査会他　2002　『大坪遺跡―平成12年度調査地点の報告―』
山梨県埋蔵文化財センター　2002　『久保田・道々芽木遺跡』

土坑一覧

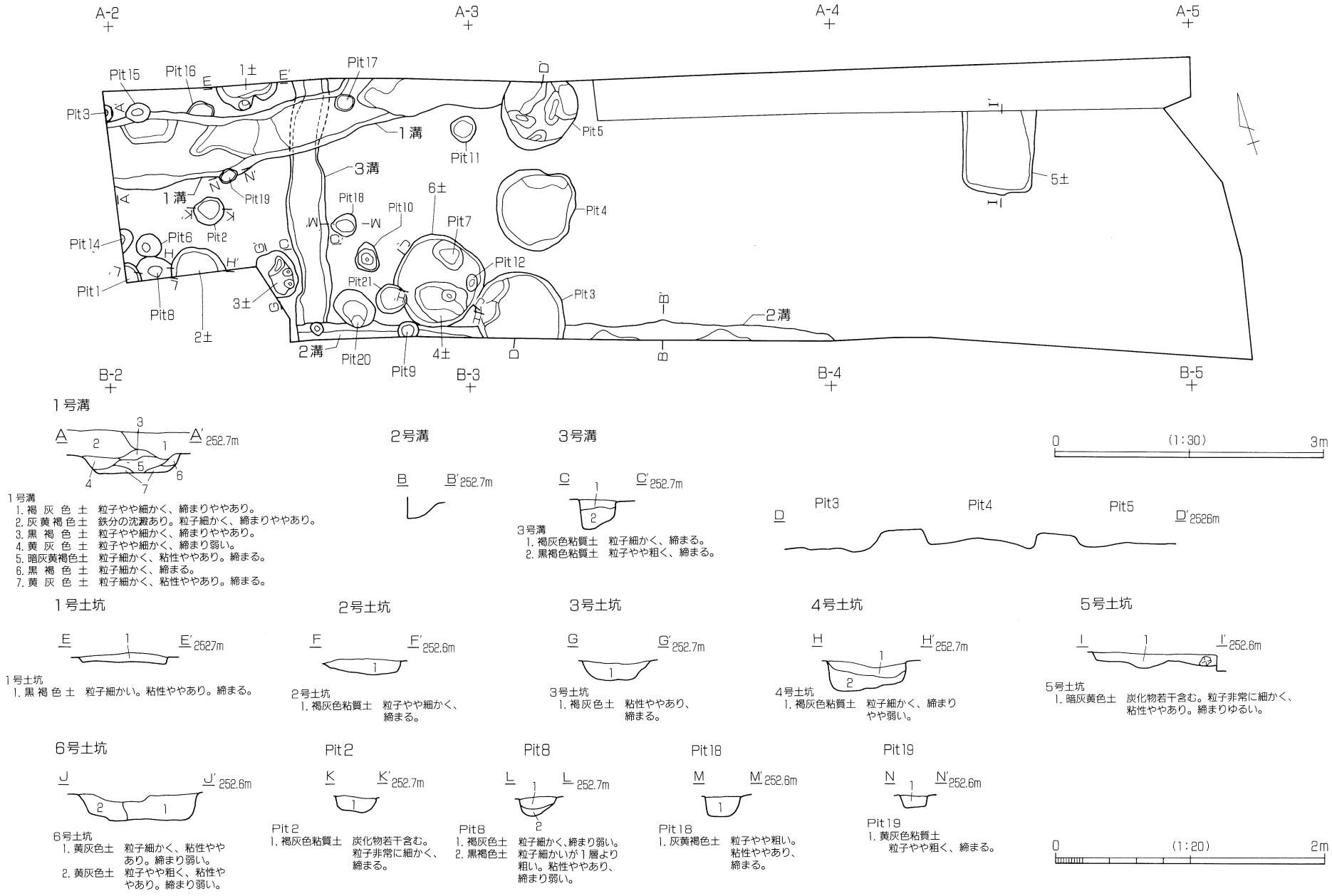
遺構名	平面形態	長径	短径	深さ	備　　考
1号土坑	円形	66.0	(32.0)	4.7	
2号土坑	略円形	60.0	(30.0)	8.4	
3号土坑	楕円形	53.0	(36.0)	15.0	
4号土坑	楕円形	58.0	44.0	17.5	6号土坑を切る
5号土坑	長方形	(91.0)	(78.0)	14.2	
6号土坑	円形	52.0	－	19.0	Pit7,12,21、4号土坑に切られる
7号土坑	方形	192.0	(104.0)	12.8	
8号土坑	円形か	83.0	(38.0)	98.0	
9号土坑	不整形	101.0	72.0	10.1	
10号土坑	不整円形	70.0	68.0	9.3	
11号土坑	楕円形	227.0	187.0	83.0	
12号土坑	略円形	225.0	(140.0)	47.5	
13号土坑	楕円形	75.0	60.0	14.0	
14号土坑	不整方形	200.0	110.0	15.0	
15号土坑	不整形	140.0	140.0	20.0	
16号土坑	略円形	87.0	72.0	10.0	
17号土坑	方形	90.0	40.0	13.0	
18号土坑	－	130.0	(10.0)	－	
19号土坑	－	236.0	186.0	6.0	不明遺構2を切る
20号土坑	－	110.0	－	14.0	
21号土坑	楕円形	116.0	－	21.0	
22号土坑	楕円形	58.0	－	7.0	
23号土坑	円形	131.0	－	9.0	
24号土坑	円形	98.0	－	12.0	
25号土坑	円形	52.0	－	8.0	
26号土坑	円形	32.0	－	6.0	
27号土坑	円形	76.0	－	12.0	
28号土坑	円形	96.0	－	13.0	
29号土坑	不整円形	115.0	90.0	25.0	

(単位：cm)

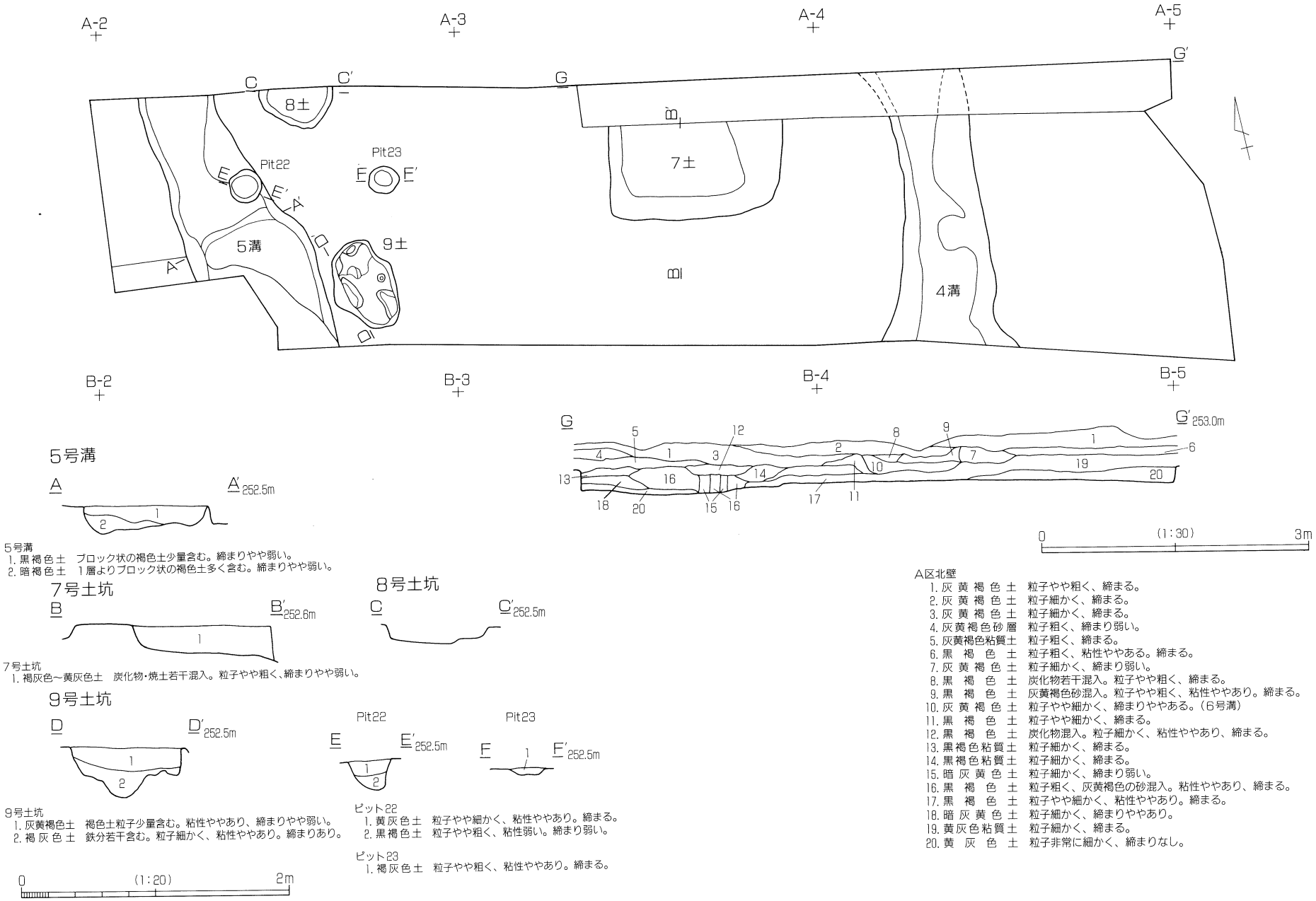
ピット一覧

遺構名	平面形態	長径	短径	深さ	備　　考
Pit 1	不明	(22.0)	(22.0)	92.0	
Pit 2	円形	32.0	－	22.2	
Pit 3	円形	98.0	－	8.4	2号溝を切る
Pit 4	円形	90.0	－	8.4	
Pit 5	円形	84.0	－	67.0	
Pit 6	円形	28.0	－	36.0	
Pit 7	不整円形	31.0	22.0	36.1	6号土坑を切る
Pit 8	円形	28.0	－	29.4	
Pit 9	円形	22.0	－	11.5	2号溝を切る
Pit10	長円形	31.0	22.0	36.1	
Pit11	円形	27.0	－	24.2	
Pit12	円形	23.0	－	18.3	6号土坑を切る
Pit13	略円形	(15.0)	－	15.2	
Pit14	略円形	(26.0)	－	33.1	
Pit15	長円形	27.0	21.0	34.5	1号溝を切られる
Pit16	不明	(28.0)	(15.0)	6.3	1号溝を切られる
Pit17	略円形	21.0	－	6.8	1号溝を切られる
Pit18	略円形	26.0	－	16.9	
Pit19	楕円形	21.0	15.0	17.5	1号溝を切る
Pit20	楕円形	46.0	36.0	34.4	2号溝を切られる
Pit21	円形	32.0	－	30.5	6号土坑を切る
Pit22	円形	36.0	－	26.8	5号溝を切る
Pit23	略円形	32.0	－	32.3	
Pit24	円形	27.0	－	－	
Pit25	円形	42.0	－	7.0	
Pit26	円形	43.0	－	－	
Pit27	円形	32.0	31.0	－	
Pit28	楕円形	52.0	45.0	－	
Pit29	円形	20.0	－	9.4	3号竪穴内
Pit30	楕円形	40.0	32.0	13.1	3号竪穴内
Pit31	楕円形	55.0	46.0	28.0	
Pit32	円形	31.0	－	8.9	
Pit33	円形	50.0	45.0	10.0	
Pit34	円形	44.0	－	15.0	
Pit35	円形	51.0	－	10.0	
Pit36	円形	21.0	－	13.0	
Pit37	略円形	52.0	38.0	14.7	方形周溝墓を切る
Pit38	不整形	50.0	27.0	29.7	
Pit39	円形	22.0	－	12.3	
Pit40	円形	24.0	－	19.4	方形周溝墓を切る
Pit41	略円形	61.0	43.0	17.0	
Pit42	不整形	52.0	39.0	15.9	
Pit43	略円形	34.0	28.0	34.1	方形周溝墓を切る

(単位：cm)



第1図　A区平面図(1) 1～3号溝、1～6号土坑、Pit 1～21



5号溝
1. 黒褐色土　ブロック状の褐色土少量含む。締まりやや弱い。
2. 暗褐色土　1層よりブロック状の褐色土多く含む。締まりやや弱い。

7号土坑
1. 褐灰色～黄灰色土　炭化物・焼土若干混入。粒子やや粗く、締まりやや弱い。

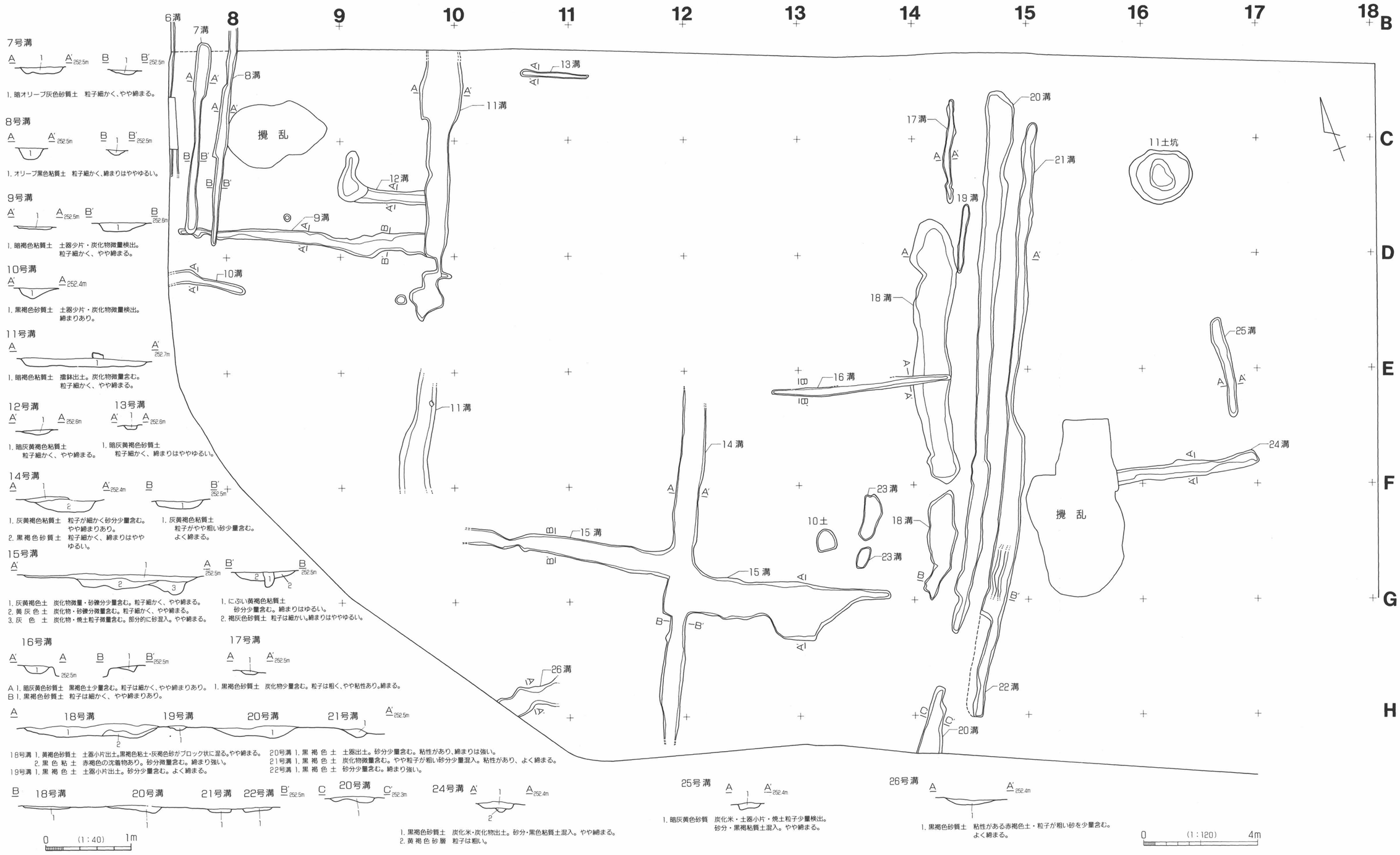
9号土坑
1. 灰黄褐色土　褐色土粒子少量含む。粘性ややあり、締まりやや弱い。
2. 褐灰色土　鉄分若干含む。粒子細かく、粘性ややあり。締まりあり。

ピット22
1. 黄灰色土　粒子やや細かく、粘性ややあり。締まる。
2. 黒褐色土　粒子やや粗く、粘性弱い。締まり弱い。

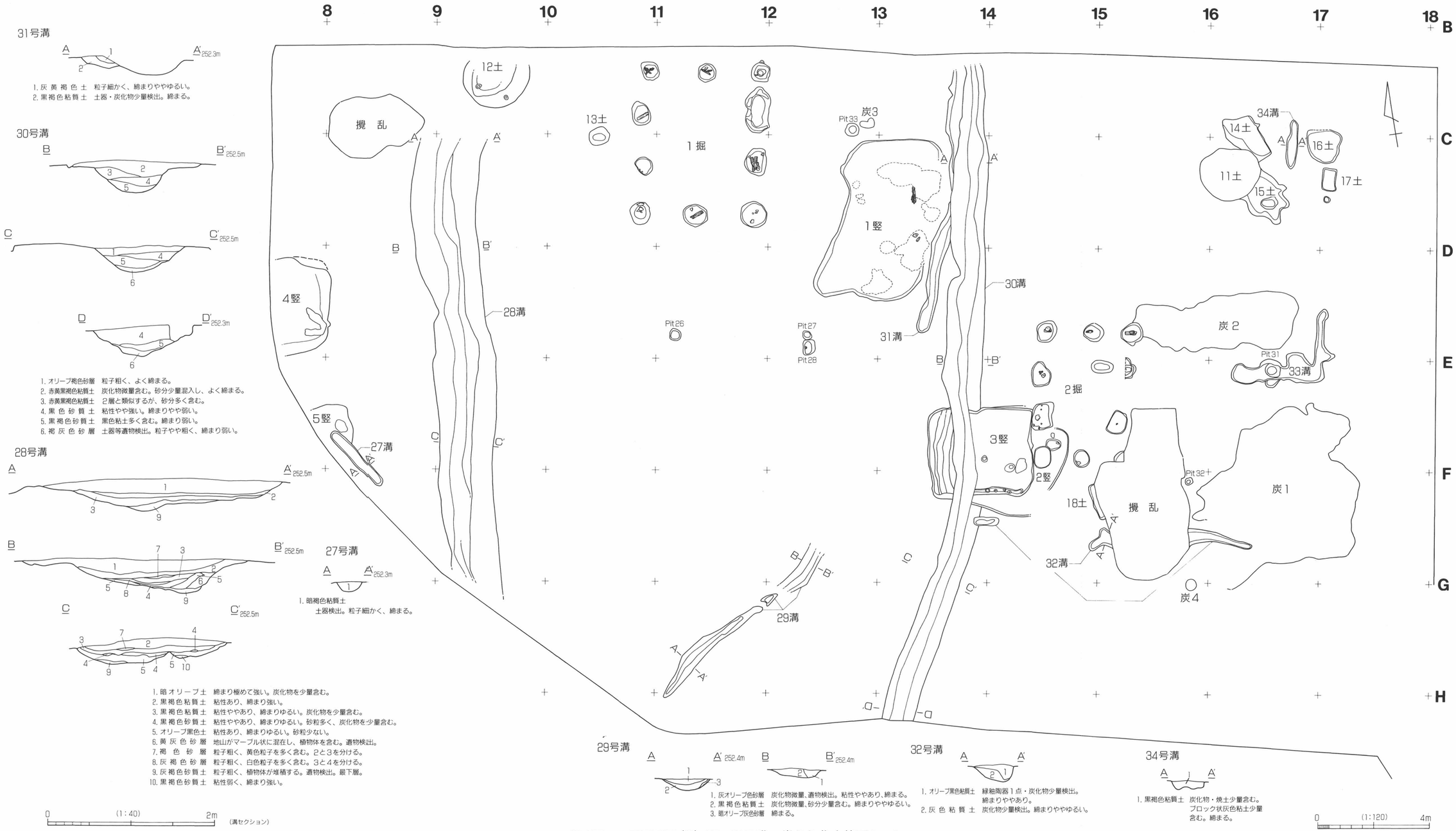
ピット23
1. 褐灰色土　粒子やや粗く、粘性ややあり。締まる。

A区北壁
1. 灰黄褐色土　粒子やや粗く、締まる。
2. 灰黄褐色土　粒子細かく、締まる。
3. 灰黄褐色土　粒子細かく、締まる。
4. 灰黄褐色砂層　粒子粗く、締まり弱い。
5. 灰黄褐色粘質土　粒子粗く、締まる。
6. 黒褐色土　粒子粗く、粘性ややある。締まる。
7. 灰黄褐色土　粒子細かく、締まり弱い。
8. 黒褐色土　炭化物若干混入。粒子やや粗く、締まる。
9. 黒褐色土　灰黄褐色砂混入。粒子やや粗く、粘性ややあり。締まる。
10. 灰黄褐色土　粒子やや細かく、締まりややある。(6号溝)
11. 黒褐色土　粒子やや細かく、締まる。
12. 黒褐色土　炭化物混入。粒子細かく、粘性ややあり、締まる。
13. 黒褐色粘質土　粒子細かく、締まる。
14. 黒褐色粘質土　粒子細かく、締まる。
15. 暗灰黄色土　粒子細かく、締まり弱い。
16. 黒褐色土　粒子粗く、灰黄褐色の砂混入。粘性ややあり、締まる。
17. 黒褐色土　粒子やや細かく、粘性ややあり。締まる。
18. 暗灰黄色土　粒子細かく、締まりややあり。
19. 黄灰色粘質土　粒子細かく、締まる。
20. 黄灰色土　粒子非常に細かく、締まりなし。

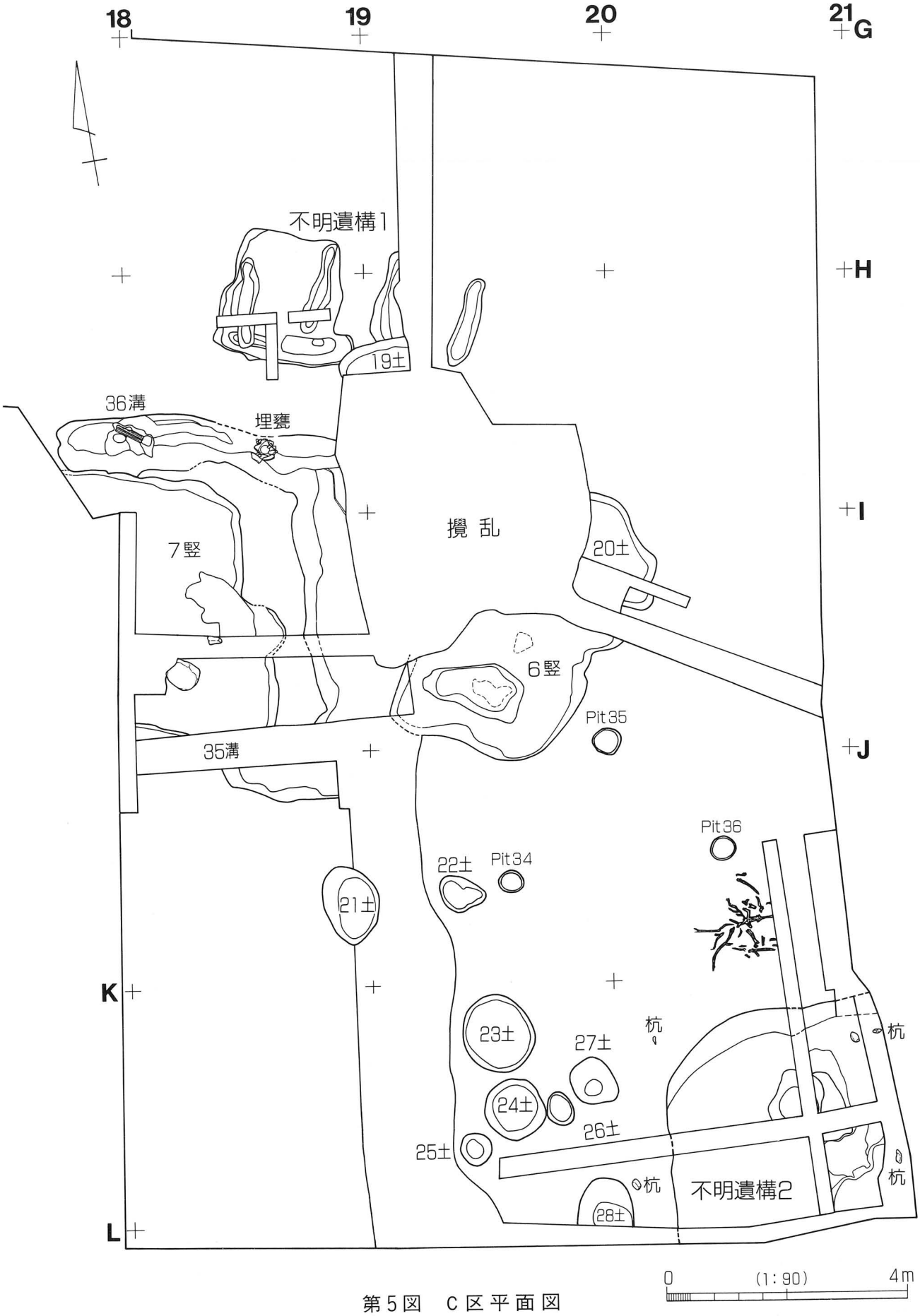
第2図　A区平面図(2) 4, 5号溝、7～9号土坑、Pit 22, 23



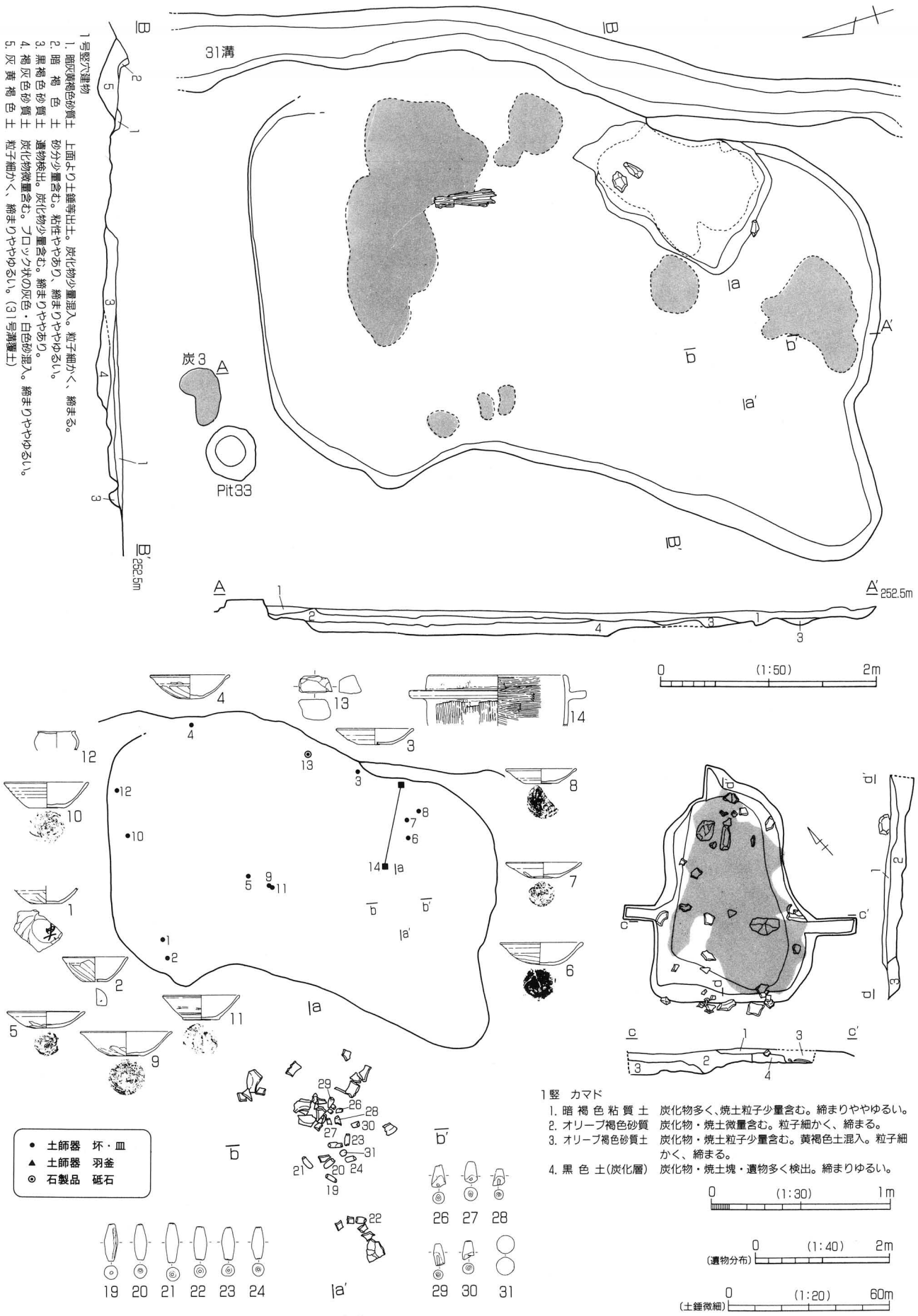
第3図　B区平面図(1) 16～26号溝



第4図　B区平面図(2) 27～34号溝、炭化物集中範囲1～4

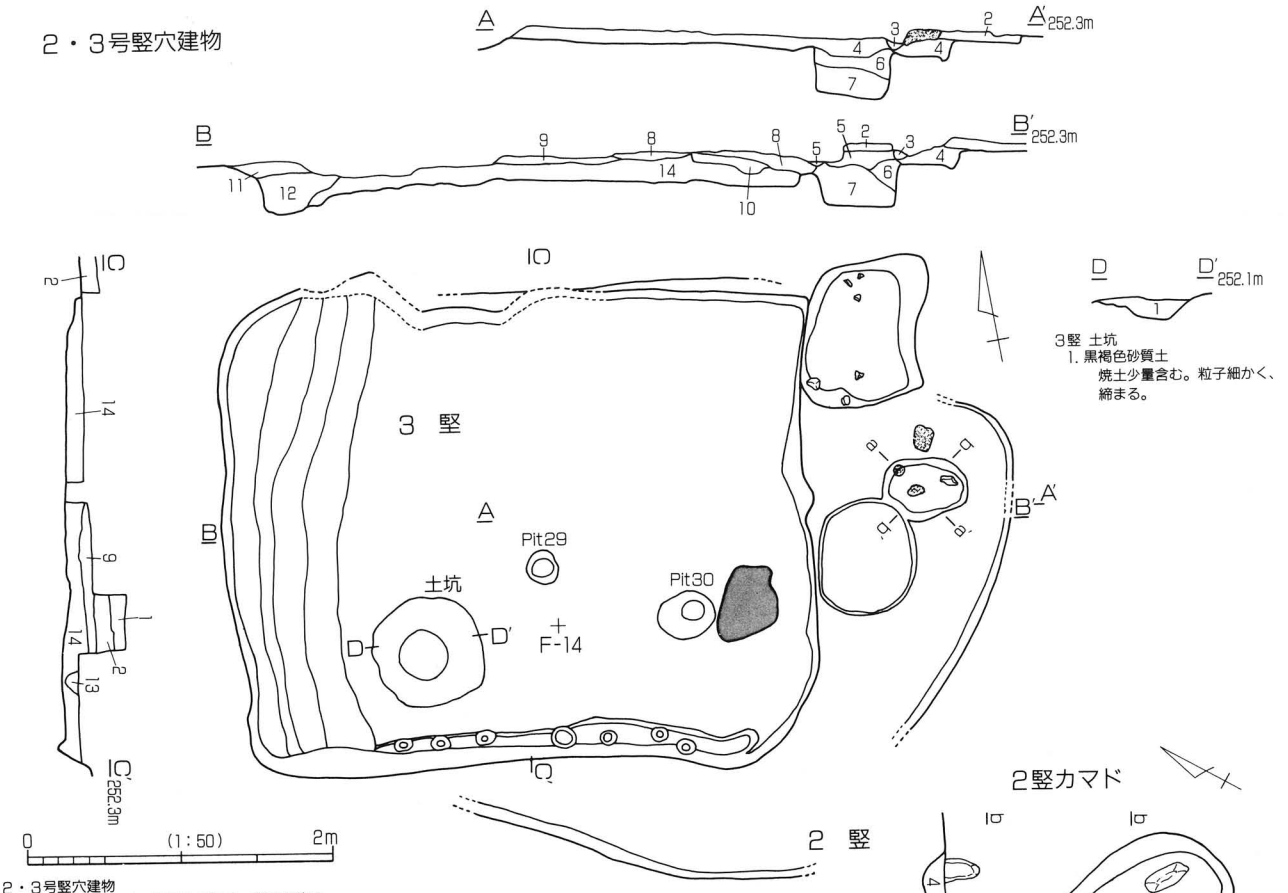

18
19
20
21
G
H
I
J
K
L
不明遺構1
19土
36溝
埋甕
7竪
攪乱
20土
6竪
Pit35
35溝
Pit36
22土
Pit34
21土
23土
27土
杭
24土
26土
25土
杭
28土
不明遺構2
杭
0
(1:90)
4m

第5図　C区平面図


1号竪穴建物
1. 暗灰褐色砂質土　上面より土錘等出土。炭化物少量混入。粒子細かく、締まる。
2. 暗　褐　色　土　砂分少量含む。粘性ややあり、締まりややゆるい。
3. 黒褐色砂質土　遺物検出。炭化物少量含む。締まりややあり。
4. 褐灰色砂質土　炭化物微量含む。ブロック状の灰色・白色砂混入。締まりややゆるい。
5. 灰黄褐色土　粒子細かく、締まりややゆるい。(31号溝覆土)
31溝
炭3
Pit33
252.5m
(1:50)
2m
1号竪　カマド
1. 暗褐色粘質土　炭化物多く、焼土粒子少量含む。締まりややゆるい。
2. オリーブ褐色砂質　炭化物・焼土微量含む。粒子細かく、締まる。
3. オリーブ褐色砂質土　炭化物・焼土粒子少量含む。黄褐色土混入。粒子細かく、締まる。
4. 黒色土(炭化層)　炭化物・焼土塊・遺物多く検出。締まりゆるい。
(1:30)
1m
(遺物分布)
(1:40)
2m
(土錘微細)
(1:20)
60m
土師器　坏・皿
土師器　羽釜
石製品　砥石

第6図　1号竪穴建物

2・3号竪穴建物



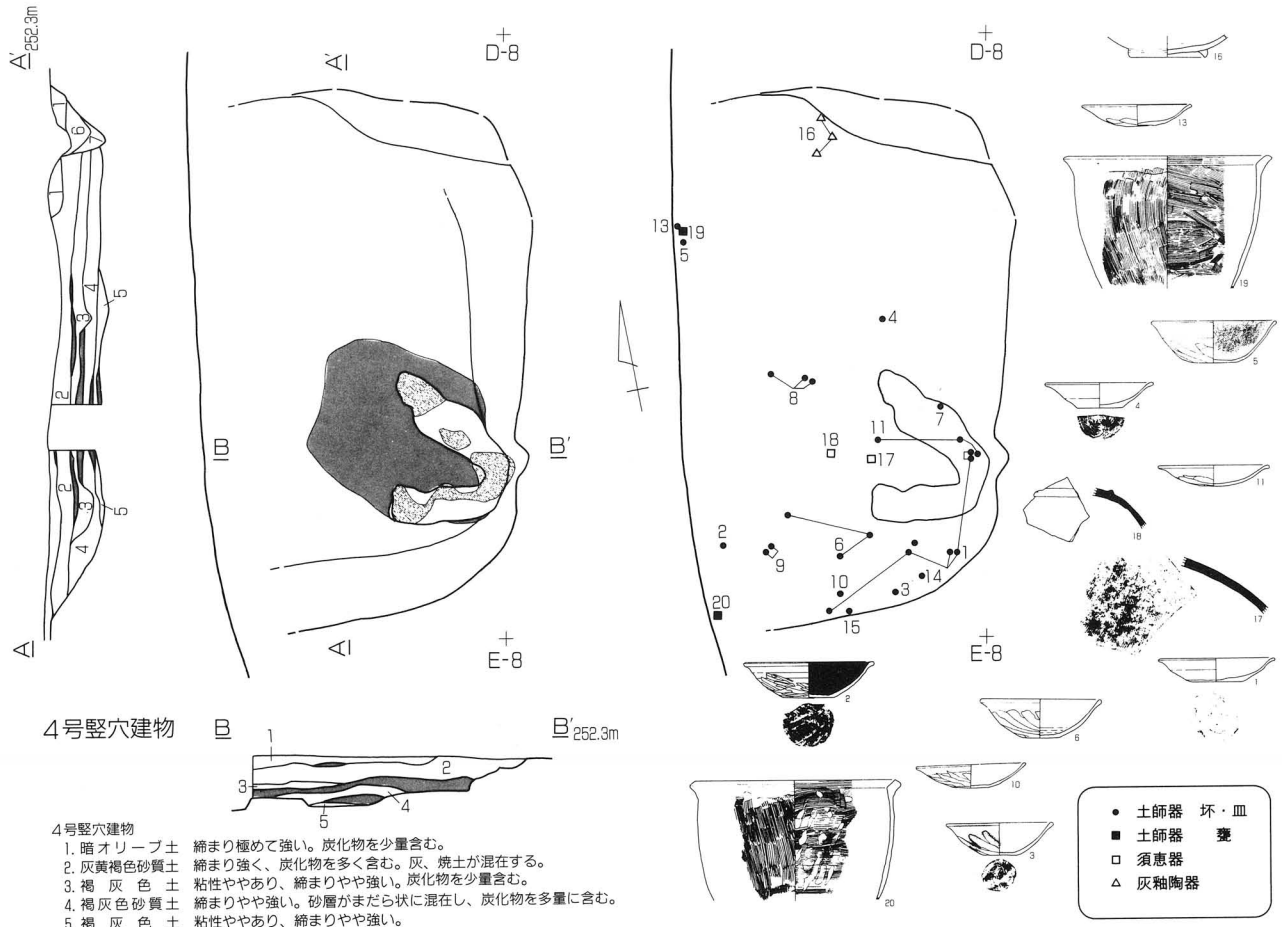
3竪 土坑
1. 黒褐色砂質土
焼土少量含む。粒子細かく、締まる。

2・3号竪穴建物
1. 黒 褐 色 土　粒子やや粗く、締まり強い。
2. 灰黄褐色砂質土　焼土塊検出。炭化物微量含む。粒子細かく、締まる。
3. 灰 色 砂 質 土　炭化物微量含む。締まりゆるい。
4. 褐 灰 色 砂 質 土　炭化物微量含む。粒子細かく、締まる。
5. 黒 褐 色 粘 質 土　炭化物・焼土塊が少量混入する。粘性若干あり、やや締まる。
6. 黒 褐 色 土　炭化物を若干含み、焼土が多く混入する。締まりややゆるい。
7. 黒 褐 色 土　炭化物を若干含み、焼土が多く混入する。締まりゆるい。
8. 黄 灰 色 砂 質 土　炭化物・焼土上面から検出。締まる。
9. 褐 灰 色 砂 質 土　炭化物・焼土塊上面から検出。粒子細かく、締まりややゆるい。
10. 灰 色 砂 質 土　炭化物微量検出。粒子細かく、締まりややゆるい。
11. 灰黄褐色砂質土　炭化物少量含む。粒子細かく、締まる。
12. 褐 灰 色 土　炭化物少量含む。ブロック状の灰白色土が少量混入する。やや締まる。
13. 黄 灰 色 土　ブロック状の灰白色土を少量混入する。締まりはゆるい。
14. 黒 褐 色 砂 質 土　土器検出。炭化物微量含む。締まる。

2竪 カマド
1. 褐灰色焼土　炭化物少量・焼土塊多く含む。粘性あり、締まる。
2. 灰黄褐色土　炭化物・焼土やや多く含む。粒子細かく、締まりややゆるい。
3. 褐 灰 色 灰　灰多く、炭化物・焼土少
4. 褐 灰 色 土　炭化物・焼土やや多く含む。粒子細かく、締まりややゆるい。

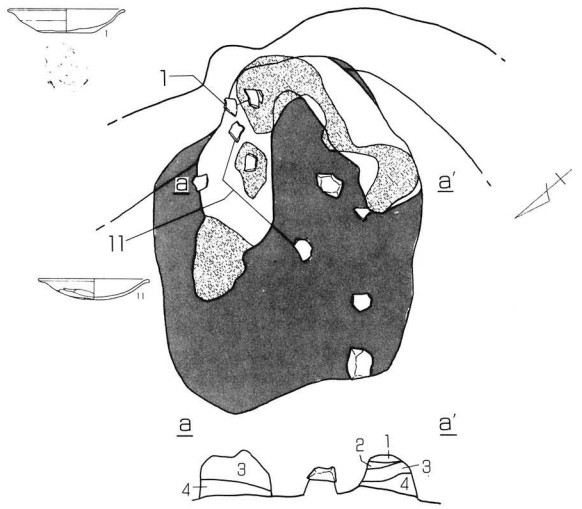
● 土師器　坏・皿
■ 土師器　甕

第7図　2・3号竪穴建物



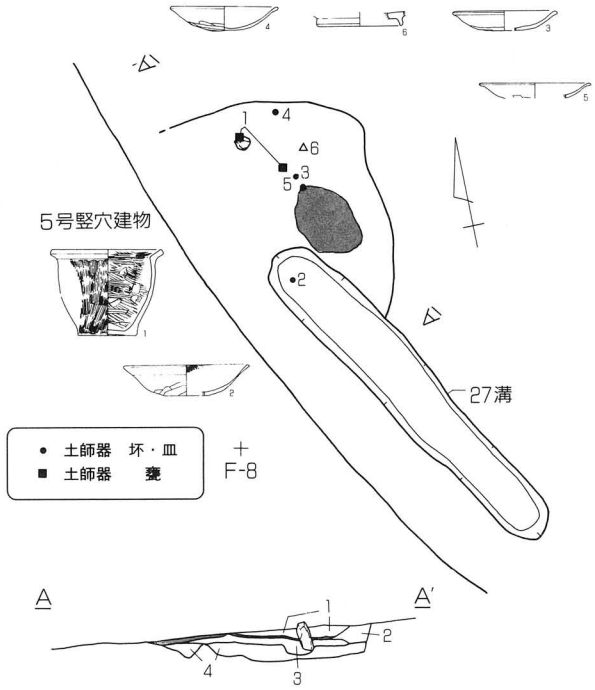
4号竪穴建物
1. 暗オリーブ土　締まり極めて強い。炭化物を少量含む。
2. 灰黄褐色砂質土　締まり強く、炭化物を多く含む。灰、焼土が混在する。
3. 褐　灰　色　土　粘性ややあり、締まりやや強い。炭化物を少量含む。
4. 褐灰色砂質土　締まりやや強い。砂層がまだら状に混在し、炭化物を多量に含む。
5. 褐　灰　色　土　粘性ややあり、締まりやや強い。
6. 灰 黄 褐 色 土　締まりやや強い。炭化物を少量含む。
7. 黒 褐 色 砂 層　締まりゆるい。炭化物を少量含む。

0　(1:50)　2m



4竪カマド
1. 焼　　土
2. 炭　化　層
3. 黒 褐 色 土　粘性あり、締まりややゆるく、炭化物を含む。カマド内側は被熱で硬化している。
4. 灰褐色砂質土　締まり強く、炭化物を多量に含む。

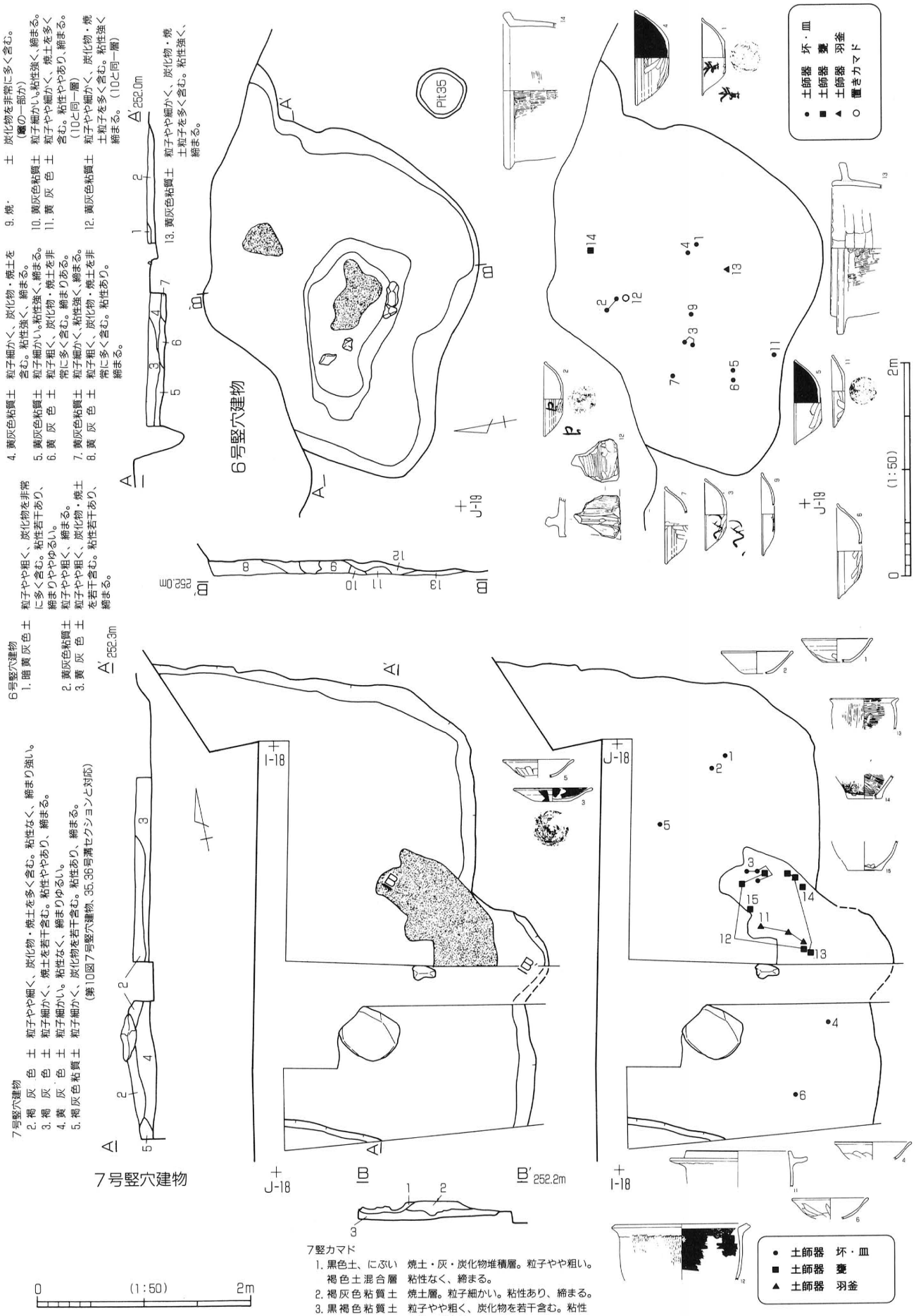
0　(1:30)　1m



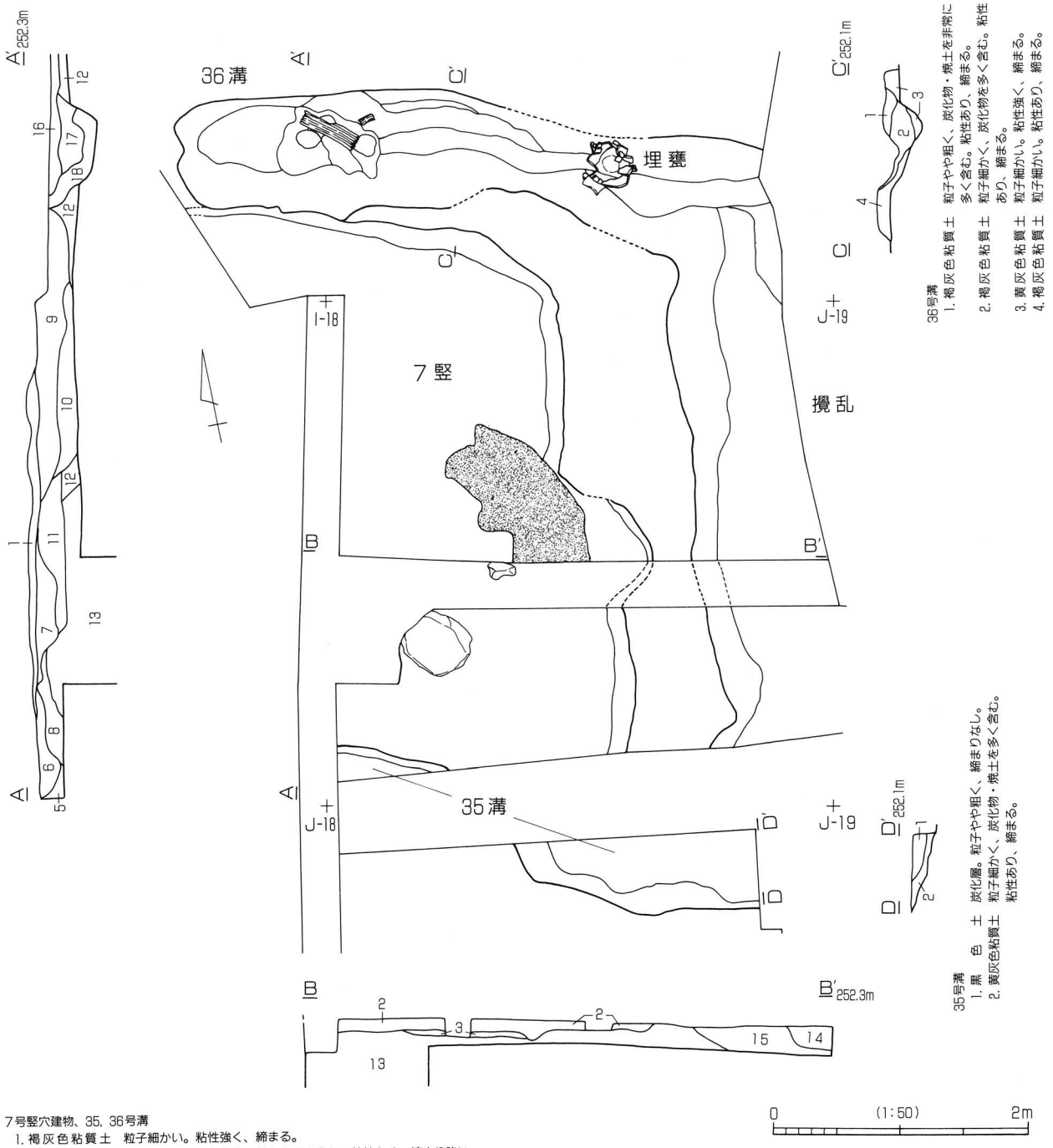
5号竪穴建物
1. 灰 黄 褐 色 土　締まり強く、炭化物を多く含む。灰、焼土が混在する。
2. 黒褐色砂質土　締まり強く、炭化物を少量含む。
3. 灰 褐 色 土　締まり強く、炭化物含む。
4. 灰黄褐色砂質土　炭化物を含み、マーブル状にきめ細かい土が混在する。

0　(1:50)　2m

第８図　４号竪穴建物、５号竪穴建物

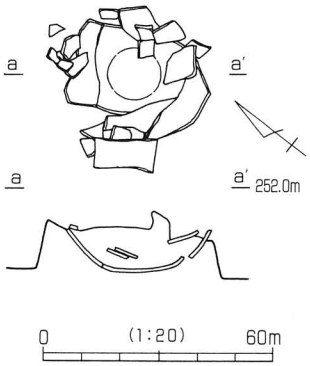


第９図　6号竪穴建物、7号竪穴建物

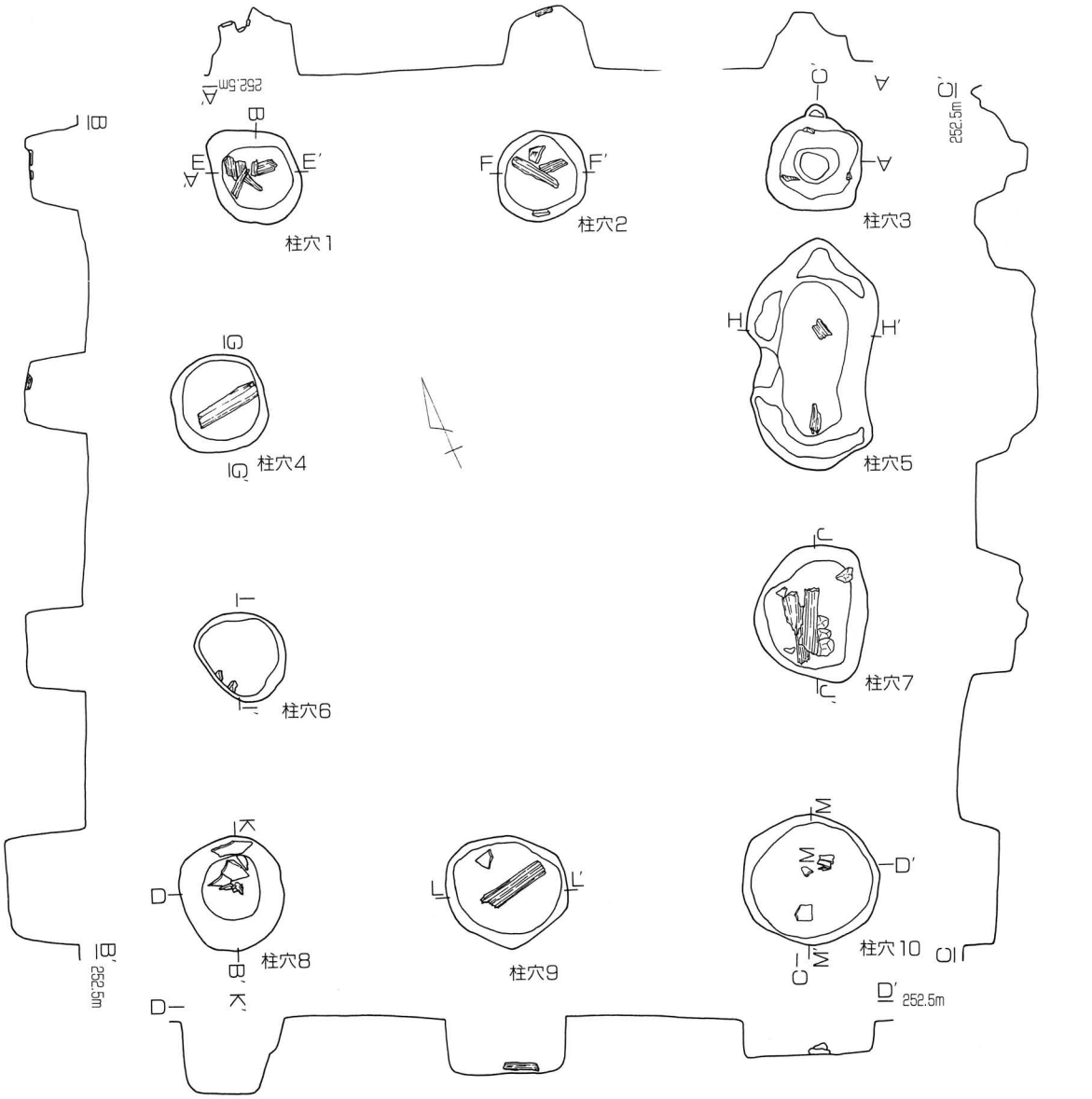


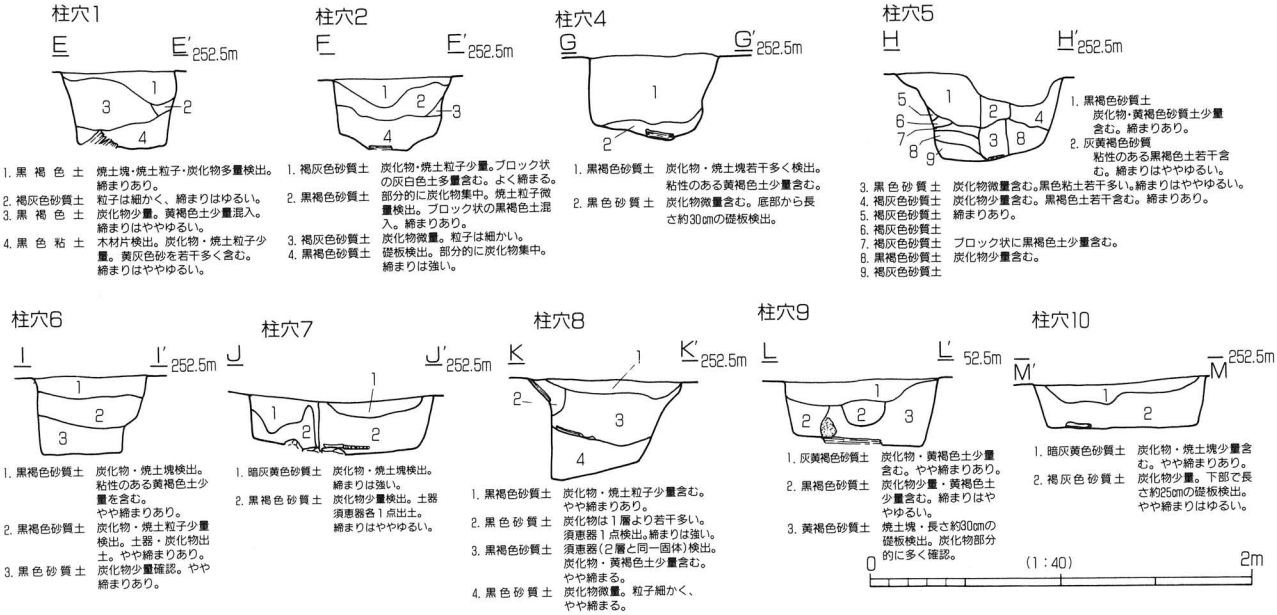
7号竪穴建物、35, 36号溝

1. 褐灰色粘質土　粒子細かい。粘性強く、締まる。
2. 褐　灰　色　土　粒子やや粗く、炭化物・焼土を多く含む。粘性なく、締まり強い。
3. 褐　灰　色　土　粒子細かく、焼土を若干含む。粘性ややあり、締まる。
4. 黄　灰　色　土　粒子細かい。粘性なく、締まりゆるい。
5. 褐灰色粘質土　粒子細かく、炭化物を若干含む。粘性あり、締まる。
6. 褐　灰　色　土　粒子やや粗く、炭化物・焼土を多く含む。粘性なく、締まり強い。(35溝覆土)
7. 黄灰色粘質土　粒子やや細かく、炭化物・焼土を非常に多く含む。粘性あり、締まる。
8. 焼　土　層　粒子やや粗く、炭化物・焼土を多く含む。粘性なく、締まり強い。
9. 褐灰色粘質土　粒子細かく、炭化物、焼土を多く含む。粘性あり、締まる。
10. 褐灰色粘質土　粒子細かい。粘性あり、締まる。
11. 褐灰色粘質土　粒子細かく、炭化物・焼土を多く含む。粘性あり、締まる。
12. 褐灰色粘質土　粒子細かい。粘性あり、締まる。
13. 黒褐色粘質土　粒子細かい。粘性あり、締まる。
14. 褐　灰　色　土　粒子やや粗く、炭化物・焼土を多く含む。粘性ややあり、締まる。(36溝覆土)
15. 灰黄褐色土　粒子やや粗く、炭化物・焼土を多く含む。粘性ややあり、締まる。(36溝覆土)
16. 褐　灰　色　土　粒子細かく、炭化物・焼土を多く含む。粘性ややあり、締まる。(36溝覆土)
17. 褐　灰　色　土　粒子細かく、炭化物・焼土を15層より多く含む。粘性ややあり、締まる。(36溝覆土)
18. 焼　土　層　粒子粗く、炭化物・焼土を非常に多く含む。粘性なく、締まる。(36溝覆土)

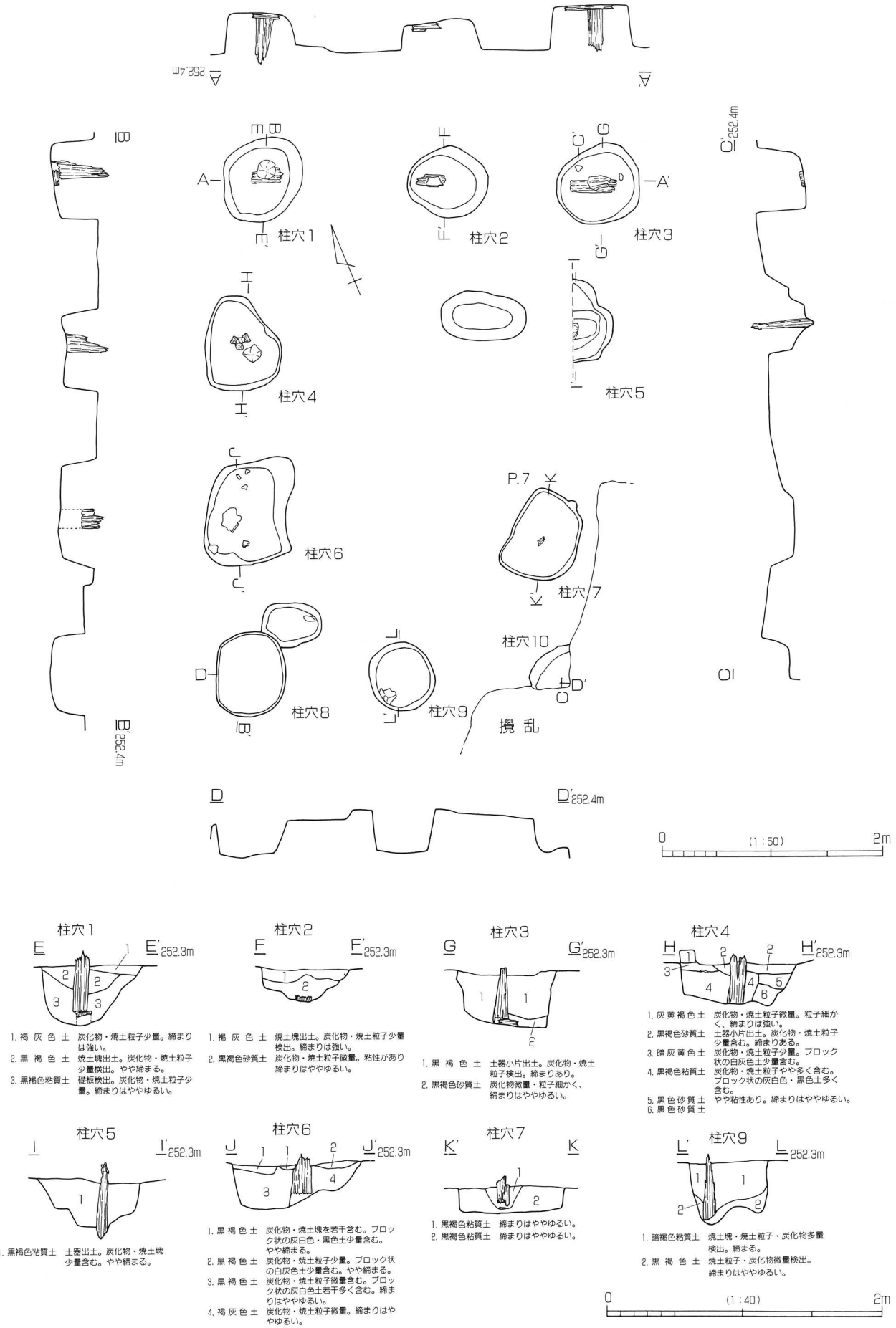


第10図　7号竪穴建物、35・36号溝、埋甕

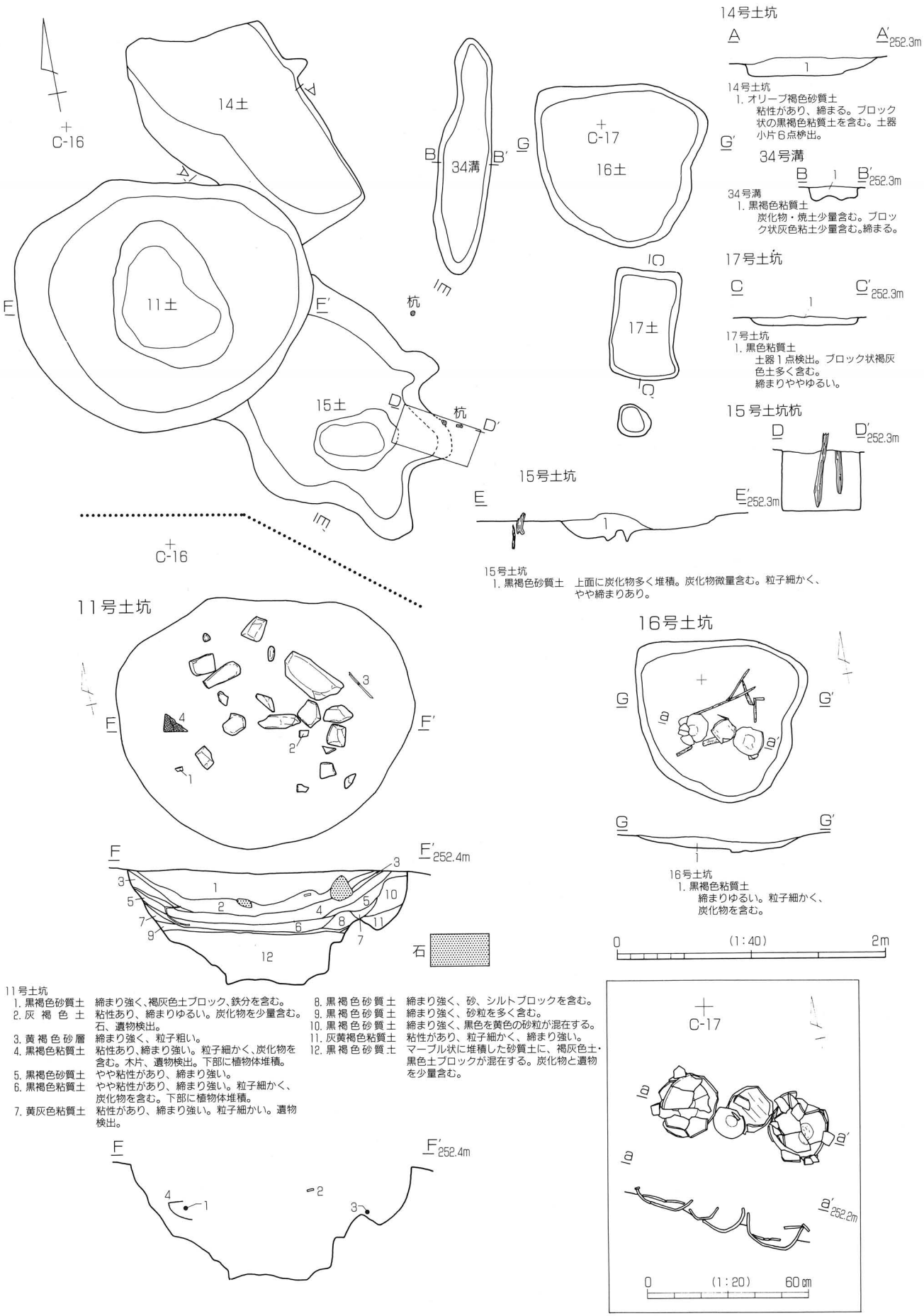




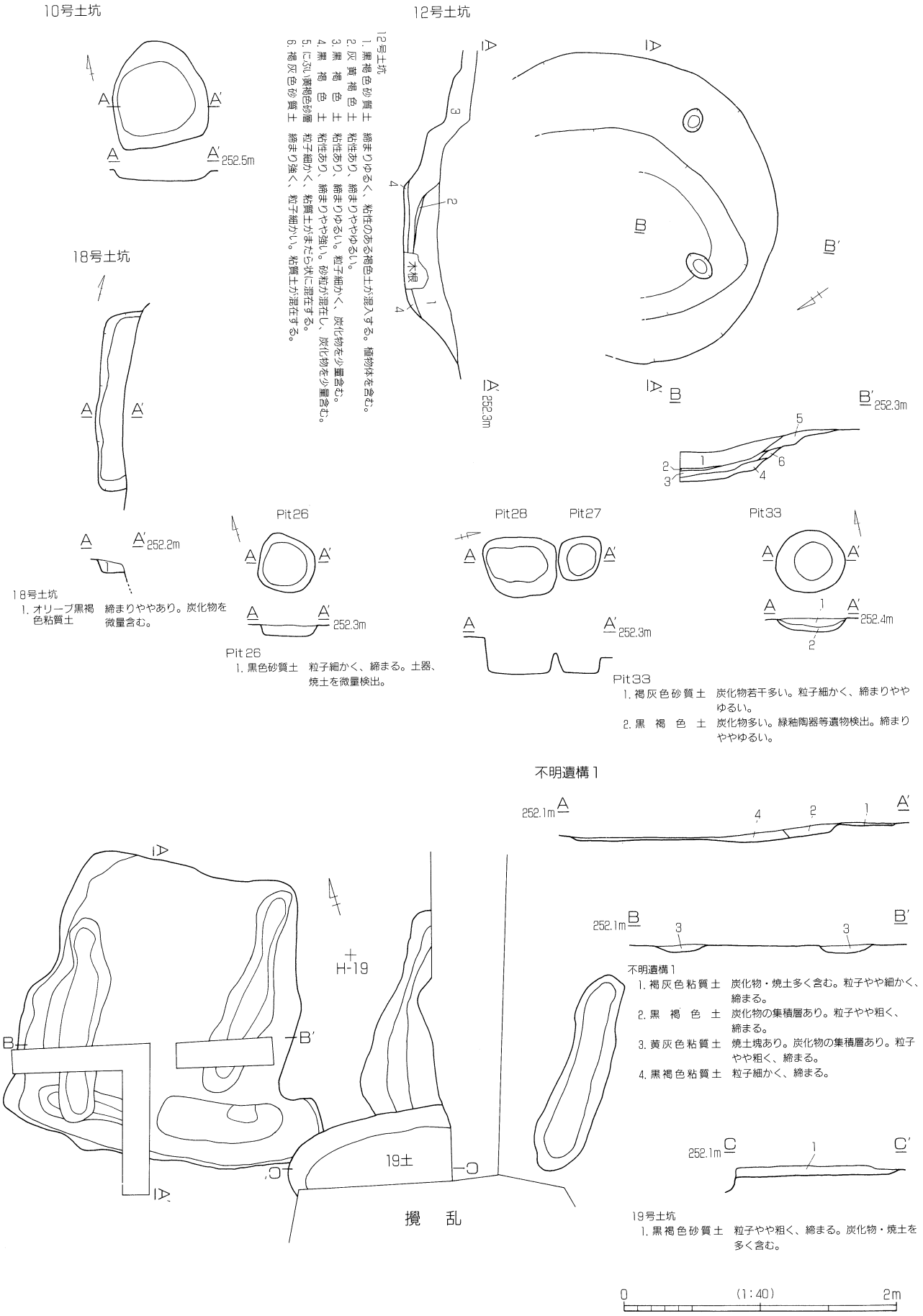
第11図　1号掘立柱遺物



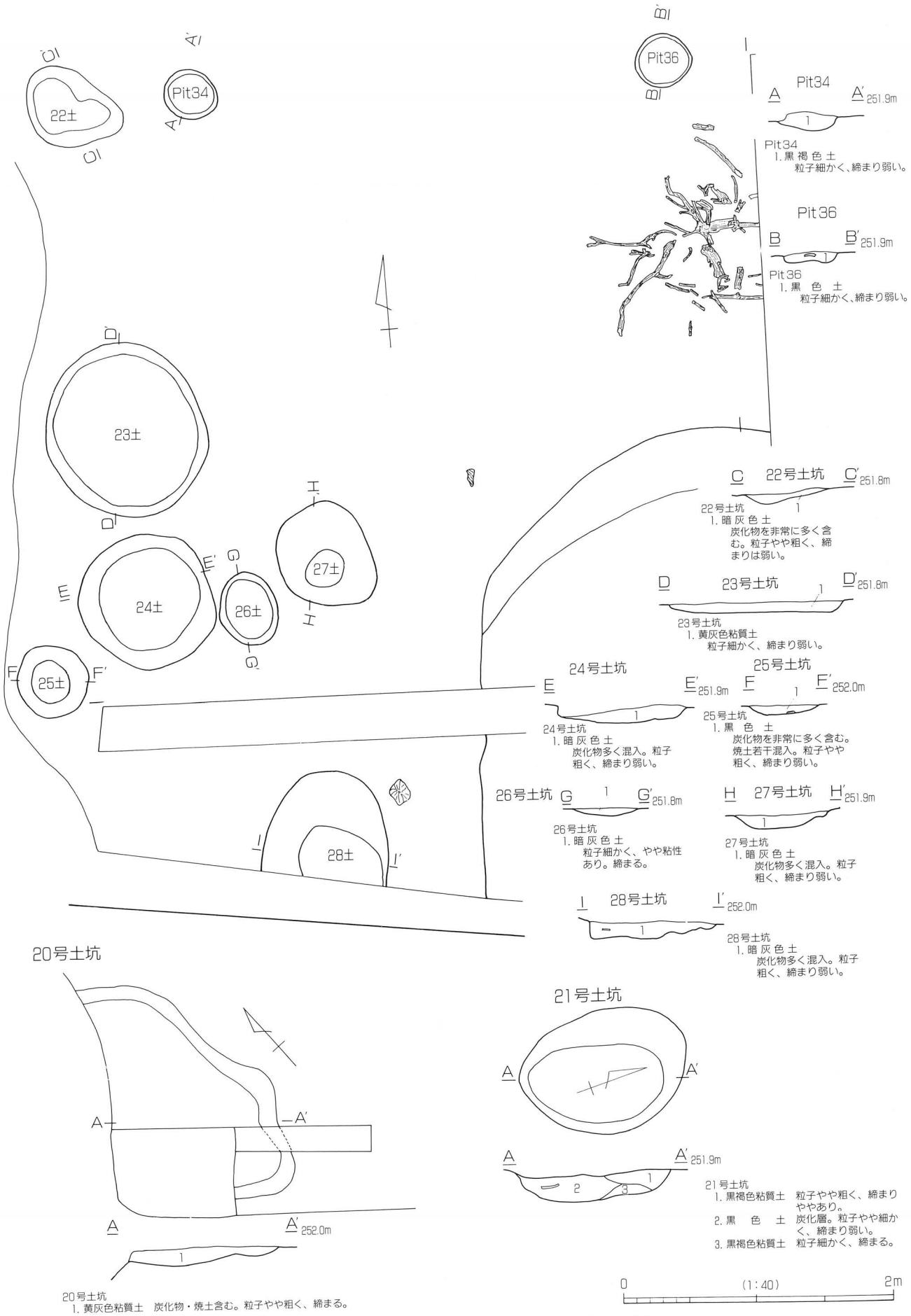
第12図　2号掘立柱建物



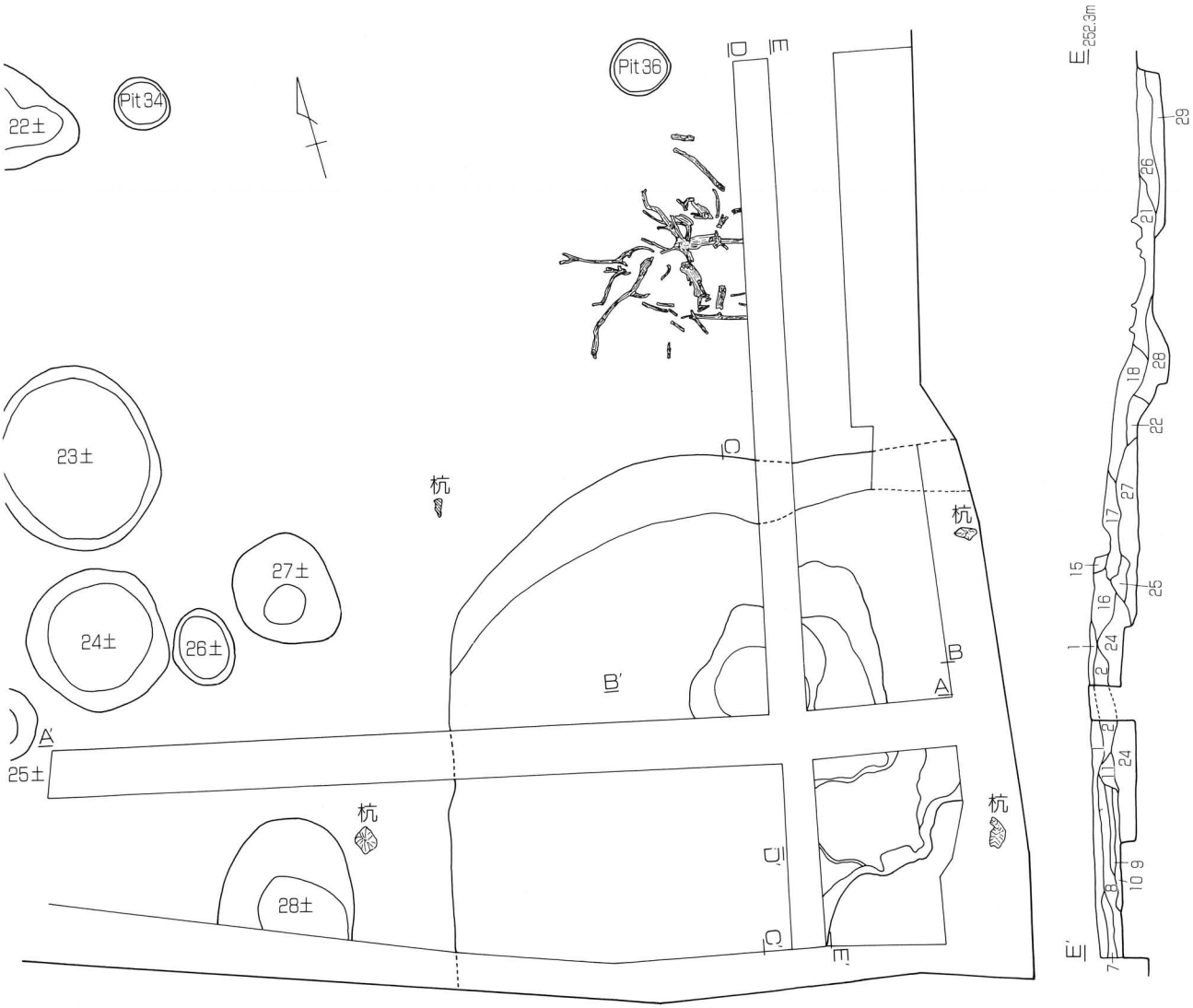
第13図　34号溝、11,14～17号土坑

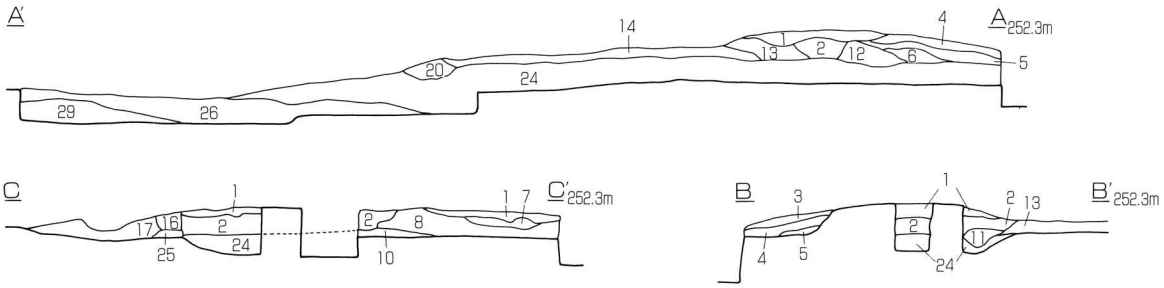


第14図　10, 12, 18, 19号土坑、Pit 26～28, 33、不明遺構1



第15図 20～28号土坑、Pit 34, 36





不明遺構2

1. 褐色焼土　炭化物多量。粒子は細かく締まる。
2. 暗灰黄色粘質土　炭化物を多く含む。粒子は細かく、締まる。
3. 黄灰色土　粒子はやや粗く、やや粘性あり。締まりは弱い。
4. 黄灰色土　粒子は細かく、粘性は弱い。締まりあり。
5. 暗灰黄色粘質土　焼土多く含む。粒子はやや粗い。締まりは弱い。
6. 炭化物堆積土　粒子はやや粗く、締まりは弱い。
7. 黄灰色土　炭化物・焼土を多く含む。粒子はやや粗く締まる。
8. 暗灰黄色土　炭化物が層状に狭在。粒子はやや粗い。やや粘性あり、締まる。
9. 黄灰色土　炭化物・焼土を含む。粒子はやや粗い。やや粘性あり、締まる。
10. 暗灰黄色土　粒子はやや粗く、やや締まる。
11. 黒・暗灰黄色土　2色の土が間隔を狭めて交互に堆積。粒子は細かく締まる。
12. 黒褐色土　炭化物を多く含む。粒子は細かく締まる。
13. 黄灰色粘質土　粒子は細かく、締まる。
14. オリーブ黒色土　粒子は非常に細かく粘性あり。締まる。
15. 黄灰色土　粒子は細かく、締まる。
16. 黄灰色土　粒子は細かく、粘性はややある。締まる。
17. 黄灰色土　粒子はやや細かいが、締まりは弱い。
18. 暗灰黄色土　粒子はやや粗く、締まる。（10層と類似）
19. 黒褐色土　細かい炭化物と焼土混入。粒子はやや粗く締まる。
20. 黄灰色土　粒子は細かく、締まる。（15層と類似）
21. 黄灰色土　粒子は細かく、やや粘性あり。締まる。
22. 黄灰色粘質土　粒子はやや細かく、締まる。
23. 暗灰色土　炭化物が層状に狭在。粒子は非常に細かく、やや粘性があり締まる。
24. 暗灰黄色粘質土　炭化物・焼土を多く含む。粒子は細かく締まる。
25. 黄灰色粘質土　粒子は細かく、締まる。
26. 黄灰色土　炭化物の小片を非常に多く含む。粒子は細かく、粘性はややあるが締まりは弱い。
27. 黄灰色土　粒子はやや細かい。やや粘性はあるが、締まりは弱い。
28. 根による攪乱層
29. 灰色粘質土　粒子はやや粗く、締まる。

0　(1:50)　2m

第16図　不明遺構2

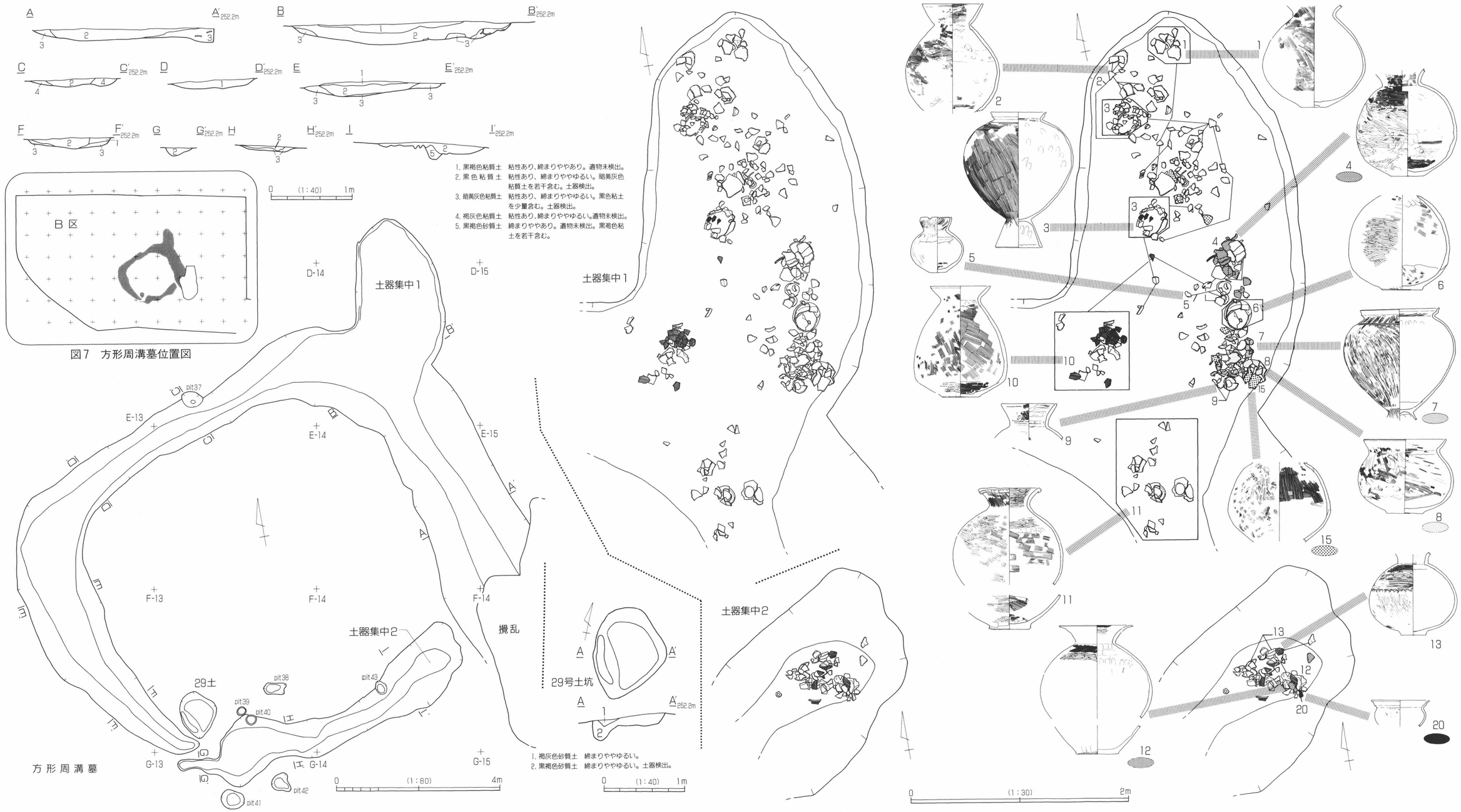
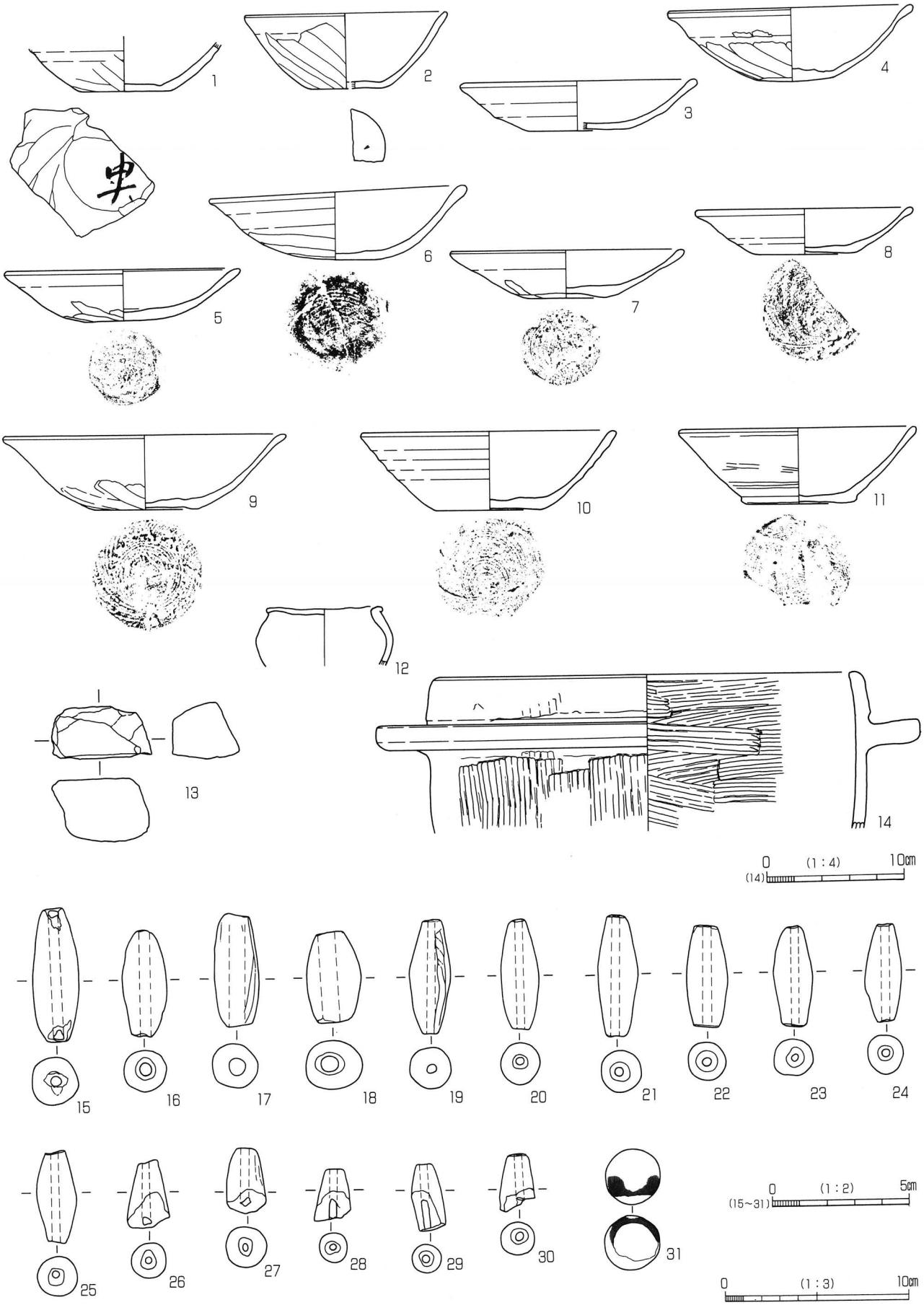
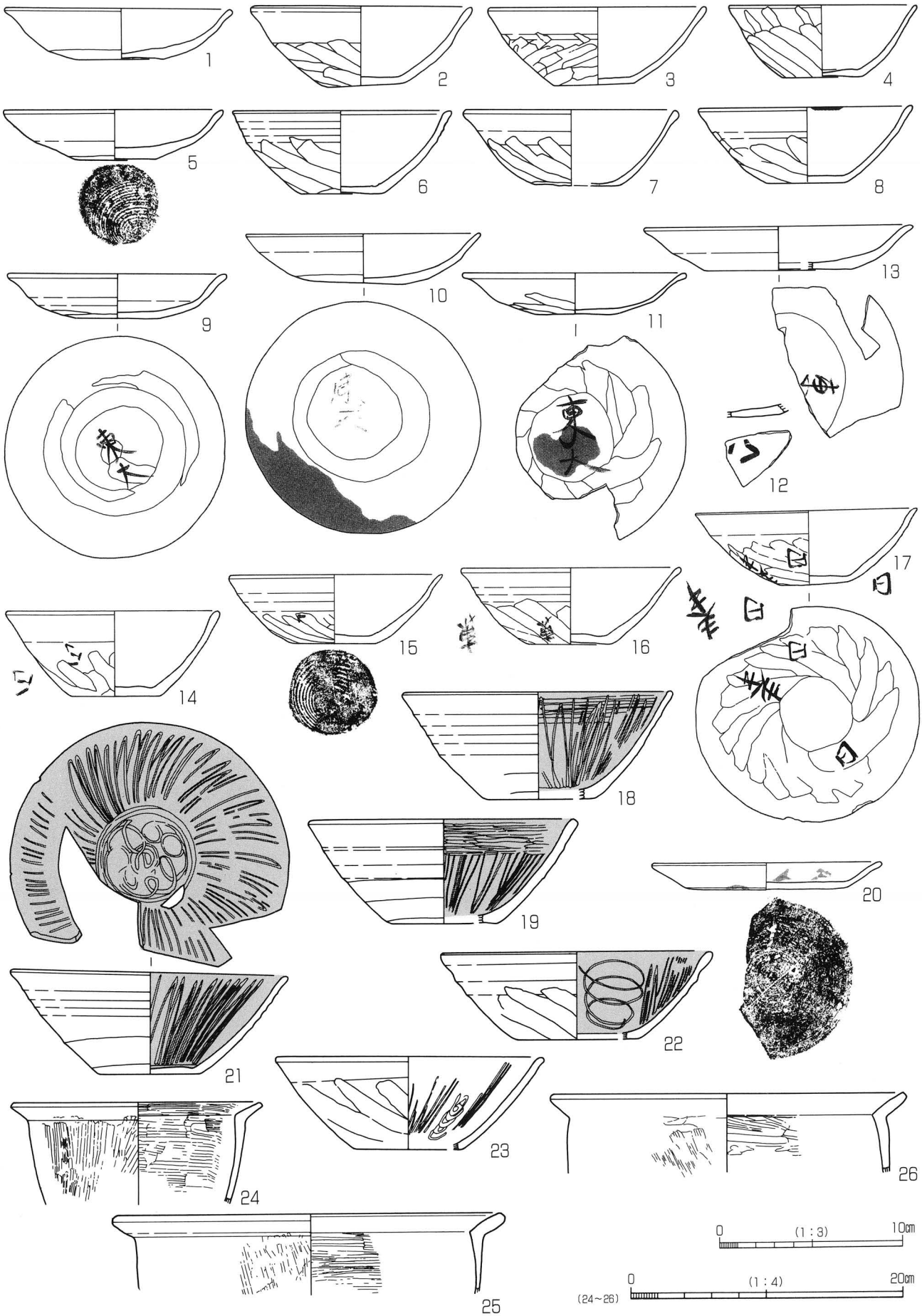


図7　方形周溝墓位置図

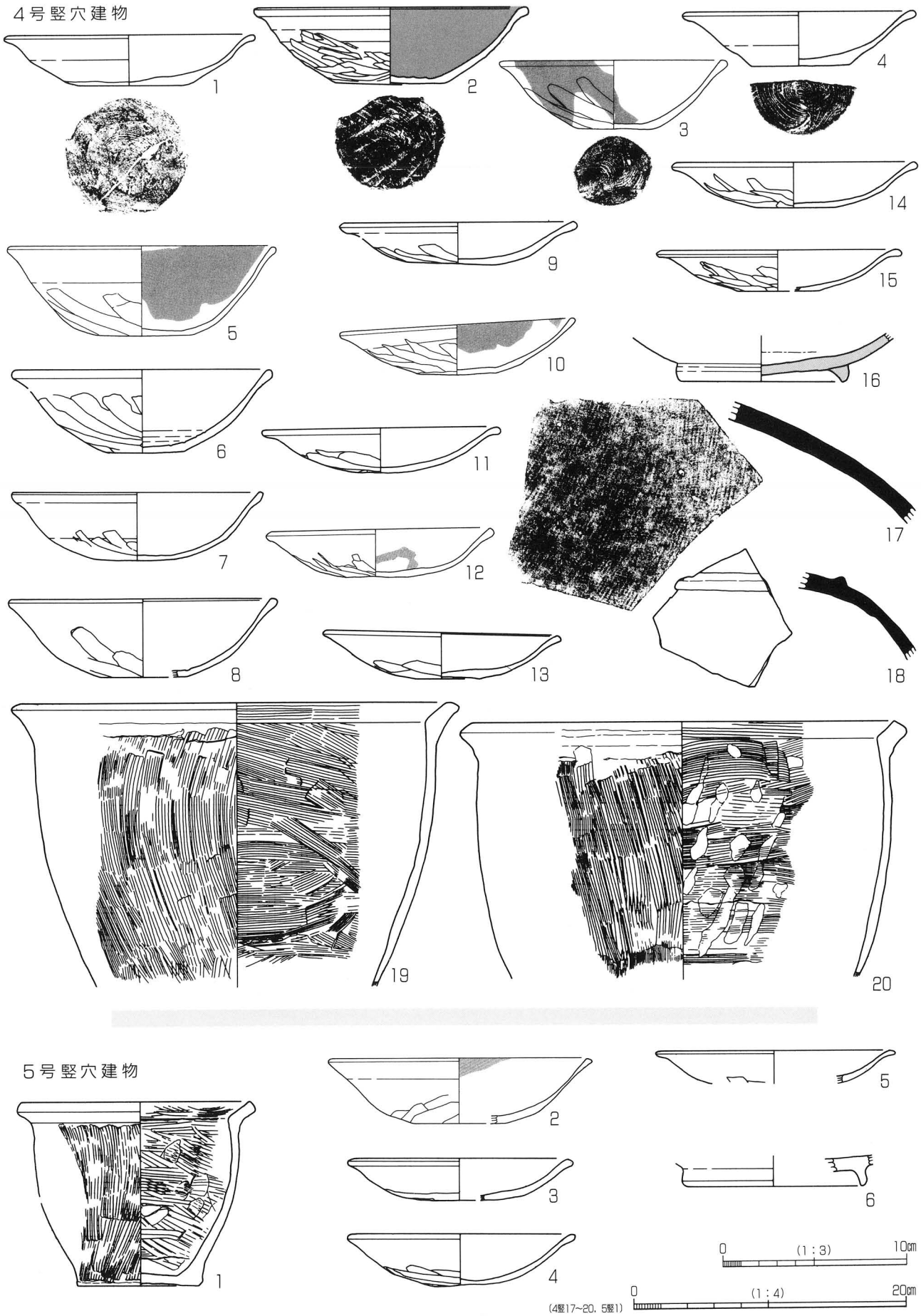
第17図　方形周溝墓、29号土坑、Pit 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
0 (1:4) 10cm
(14)
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0 (1:2) 5cm
(15~31)
0 (1:3) 10cm

図版1　1号竪穴建物

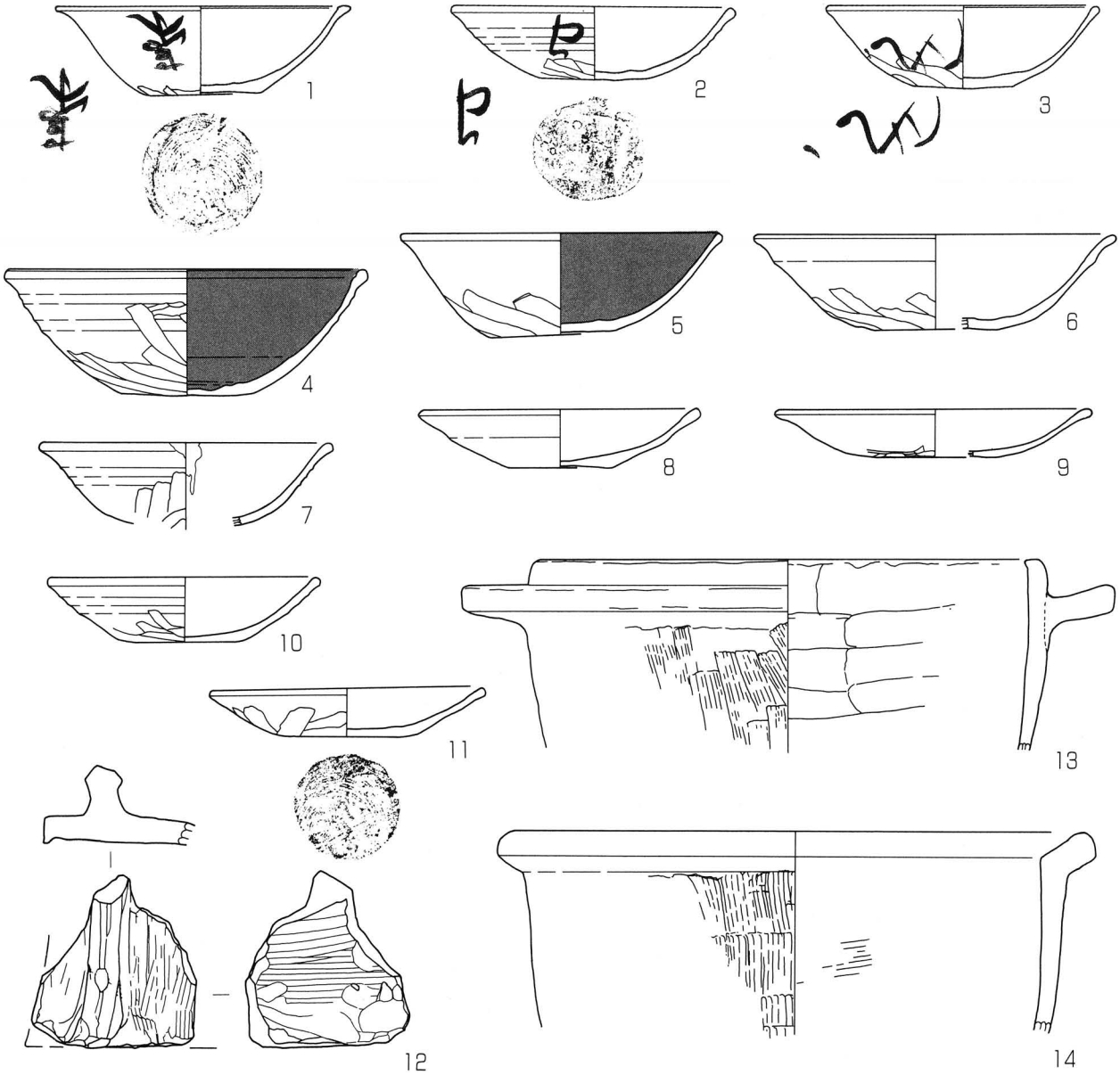

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
0 (1:3) 10cm
0 (1:4) 20cm
(24~26)

図版２　２・３号竪穴建物

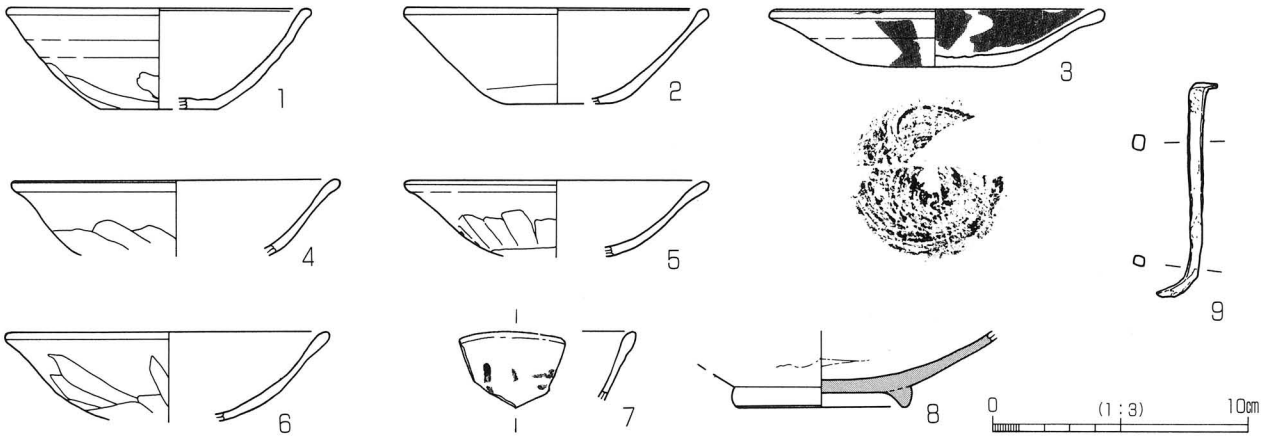


図版３　４号竪穴建物、５号竪穴建物

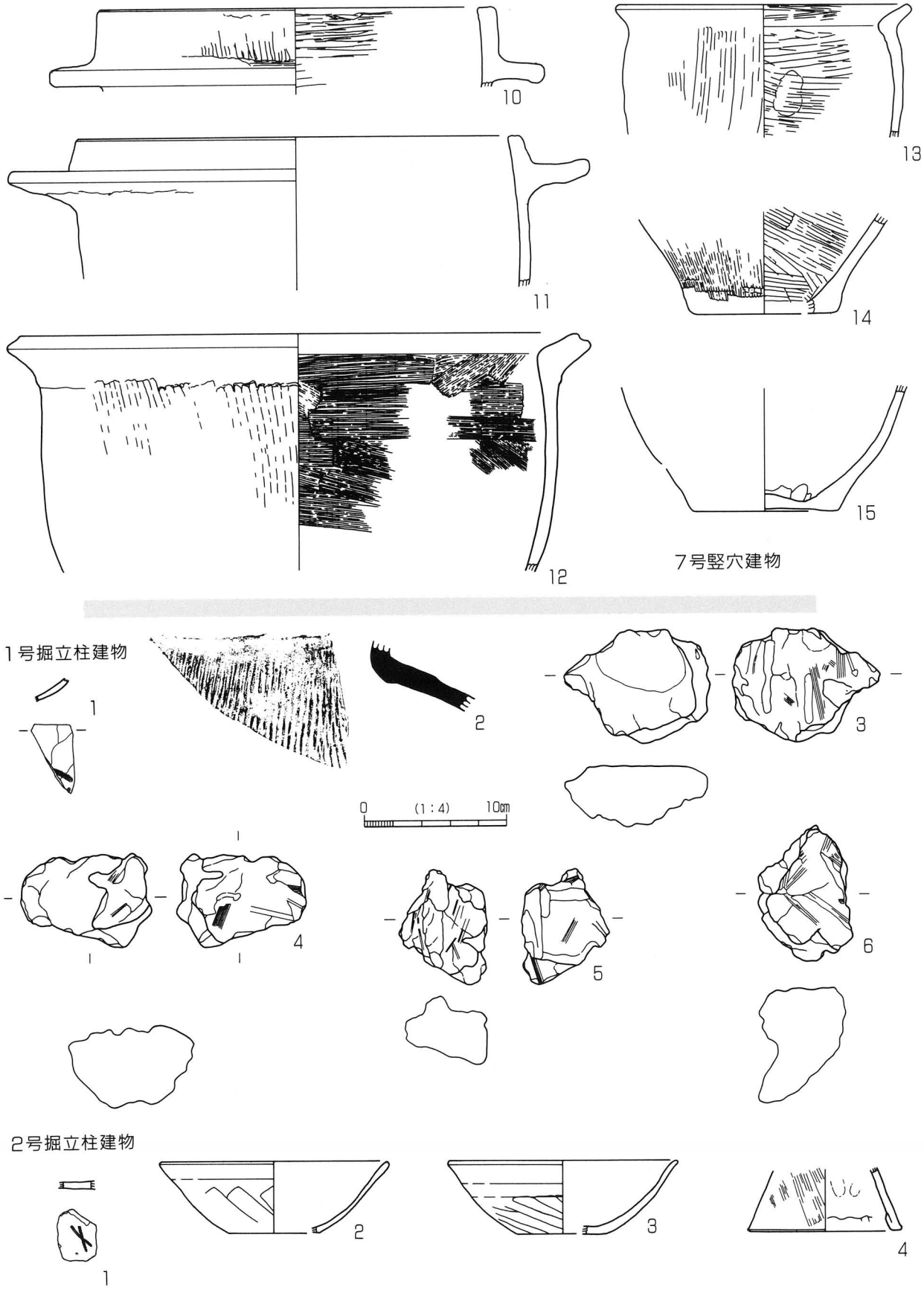
6号竪穴建物



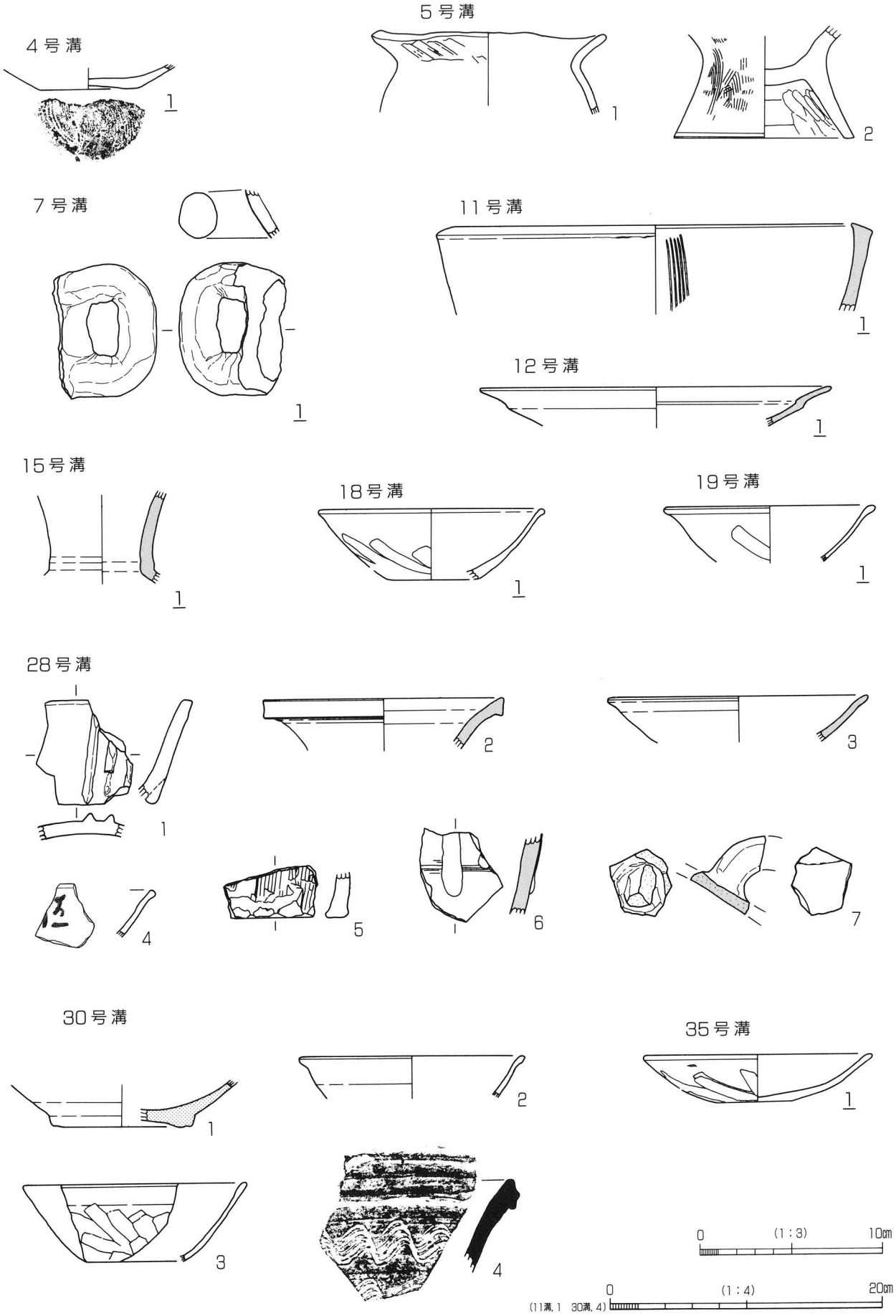
7号竪穴建物



図版4　6号竪穴建物、7号竪穴建物（1）

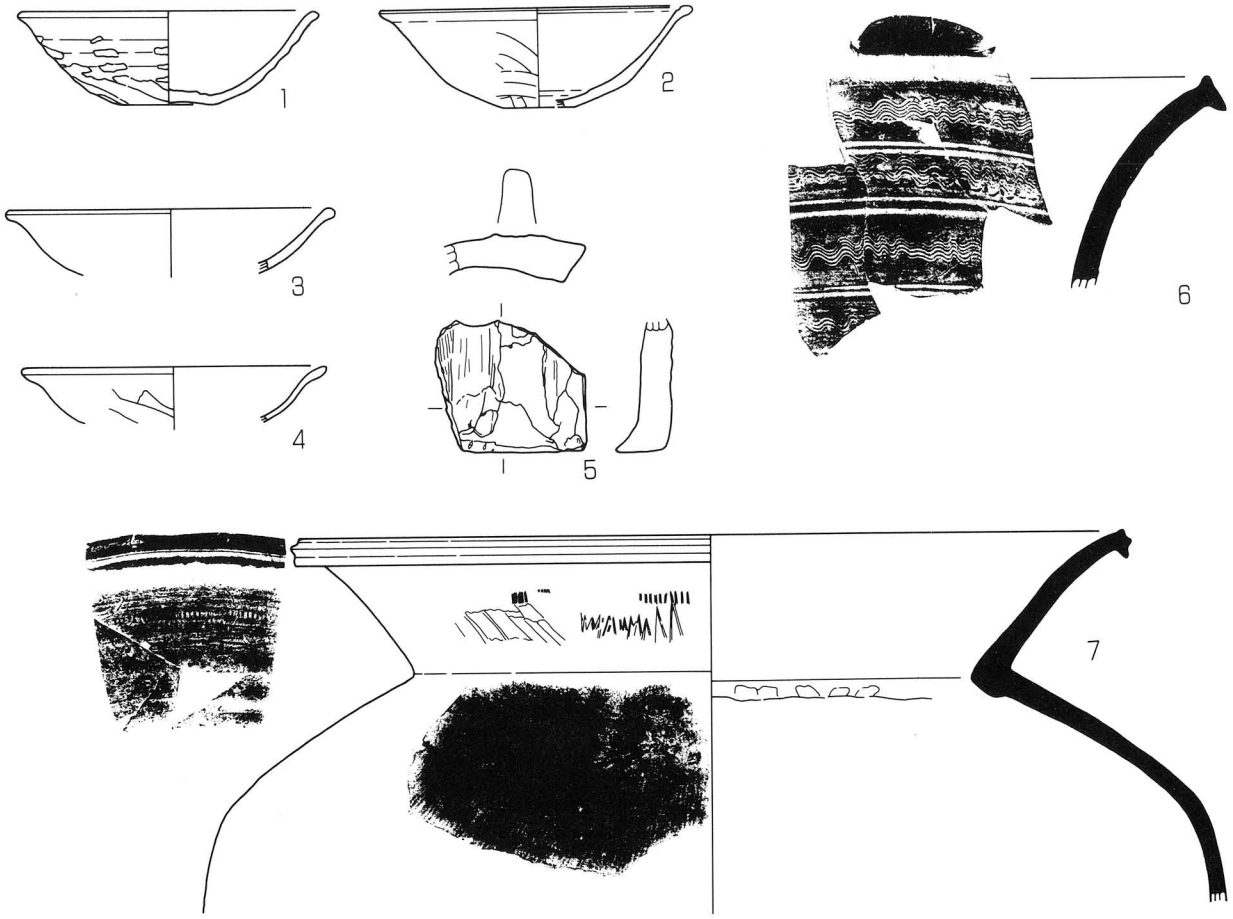


図版5　7号竪穴建物(2)、掘立柱建物

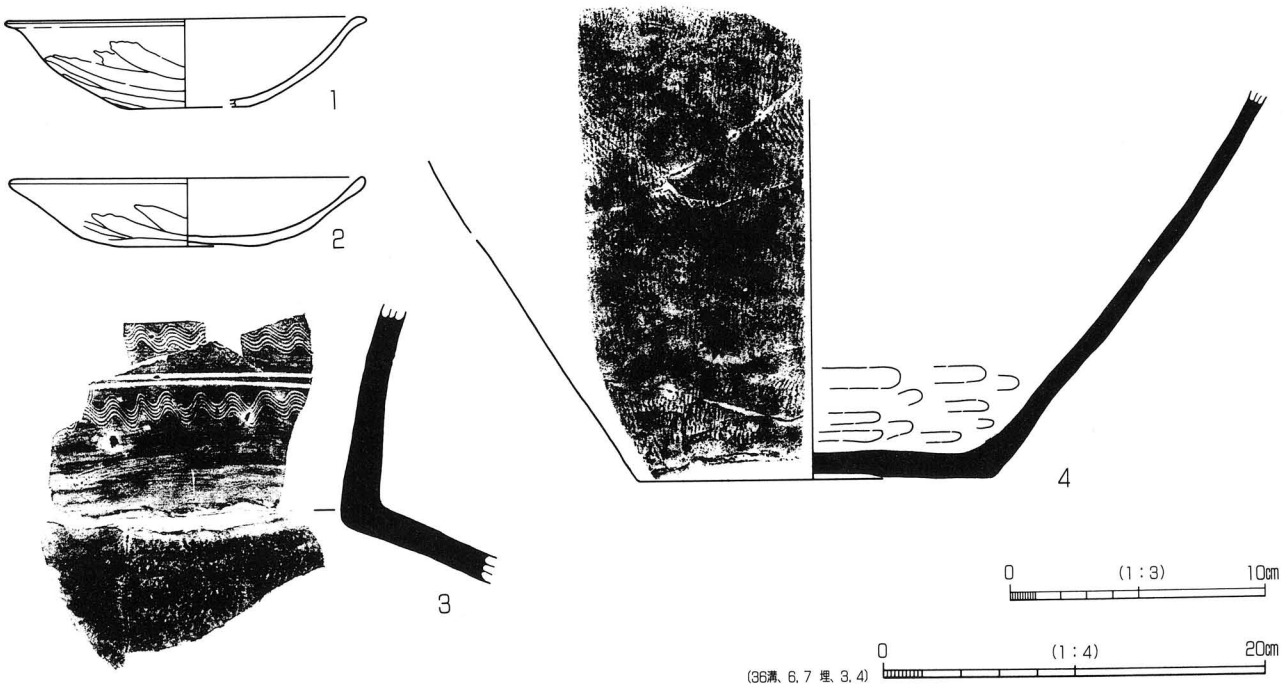


図版6　4, 5, 7, 11, 12, 15, 18, 19, 28, 30, 35号溝

36号溝

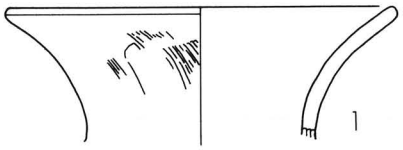


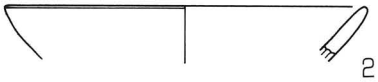
埋甕



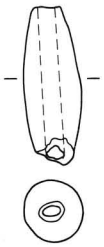
図版7　36号溝、埋甕

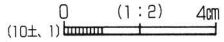
6号土坑



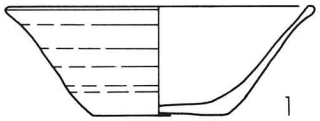


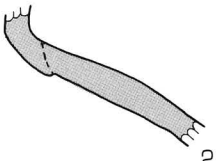
10号土坑

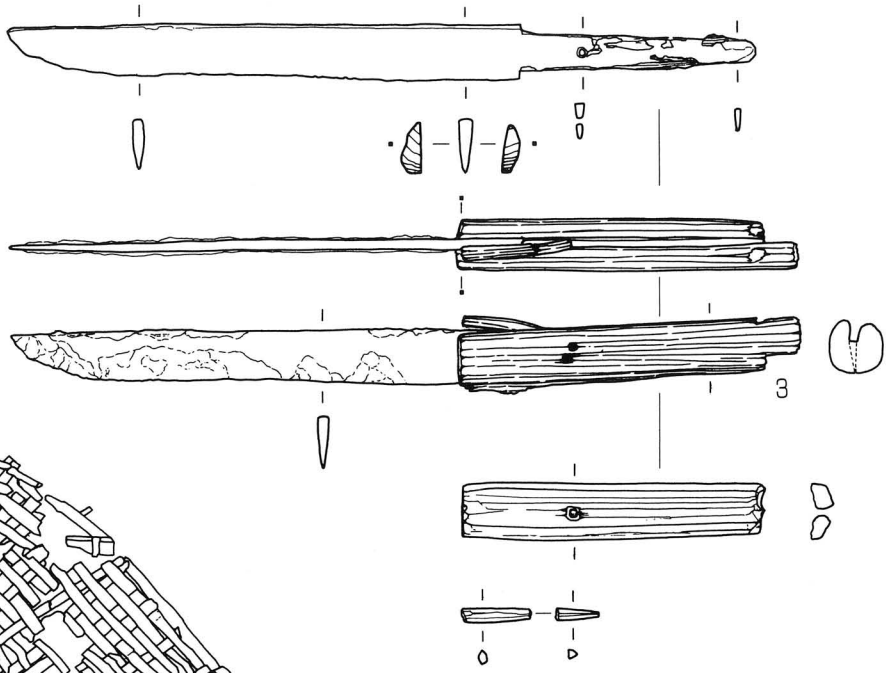


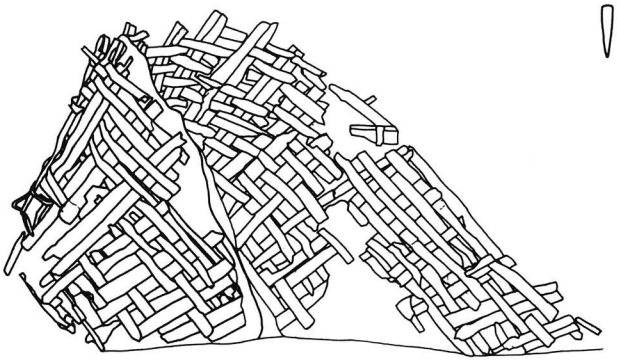


11号土坑

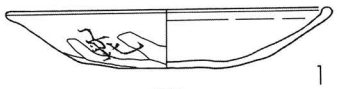


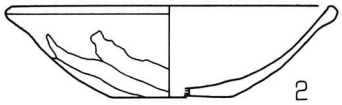


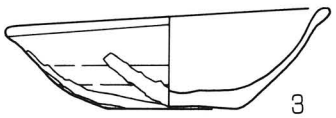


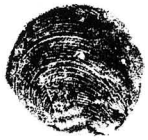


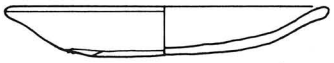
15号土坑

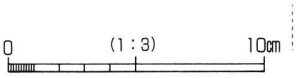




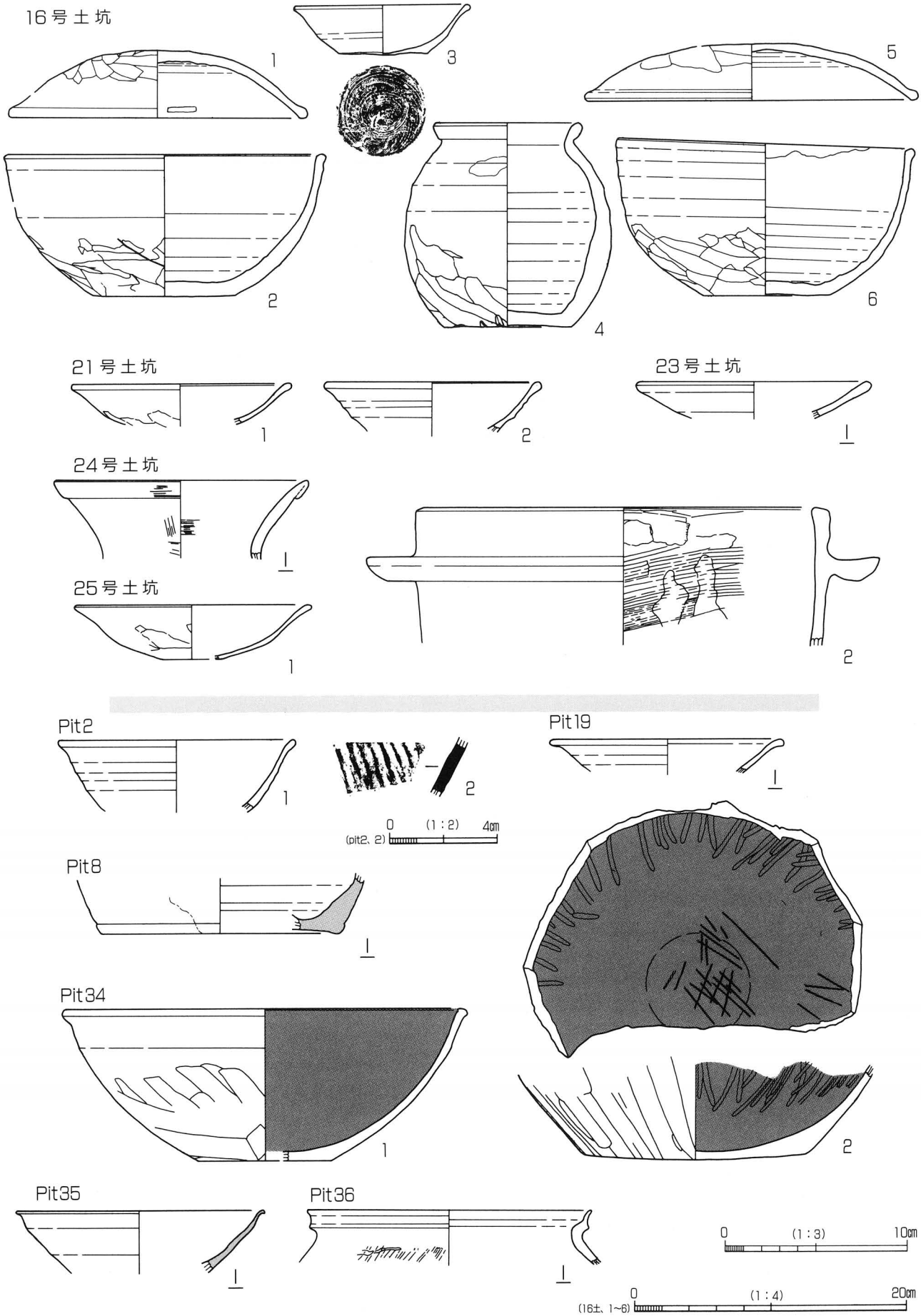




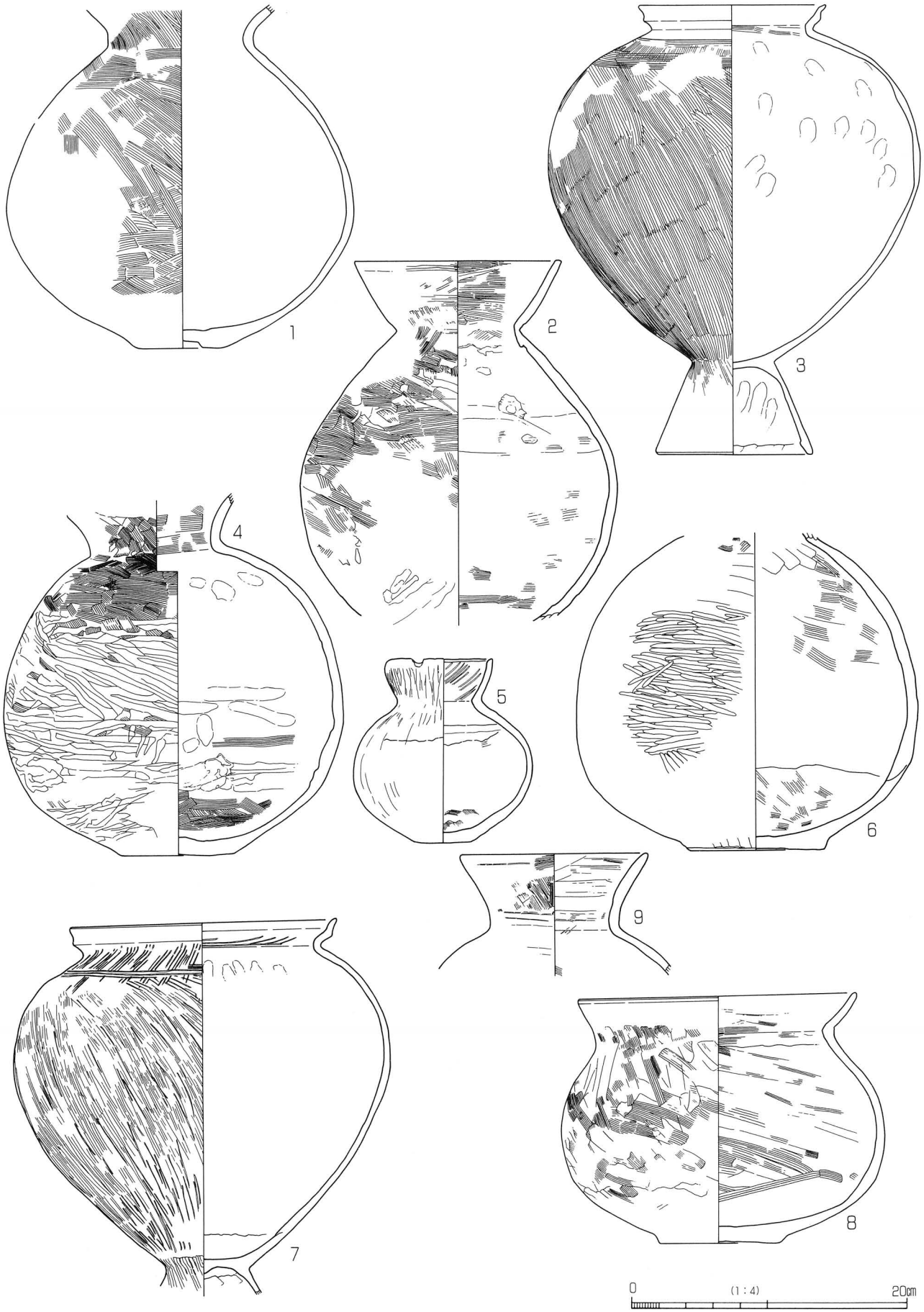




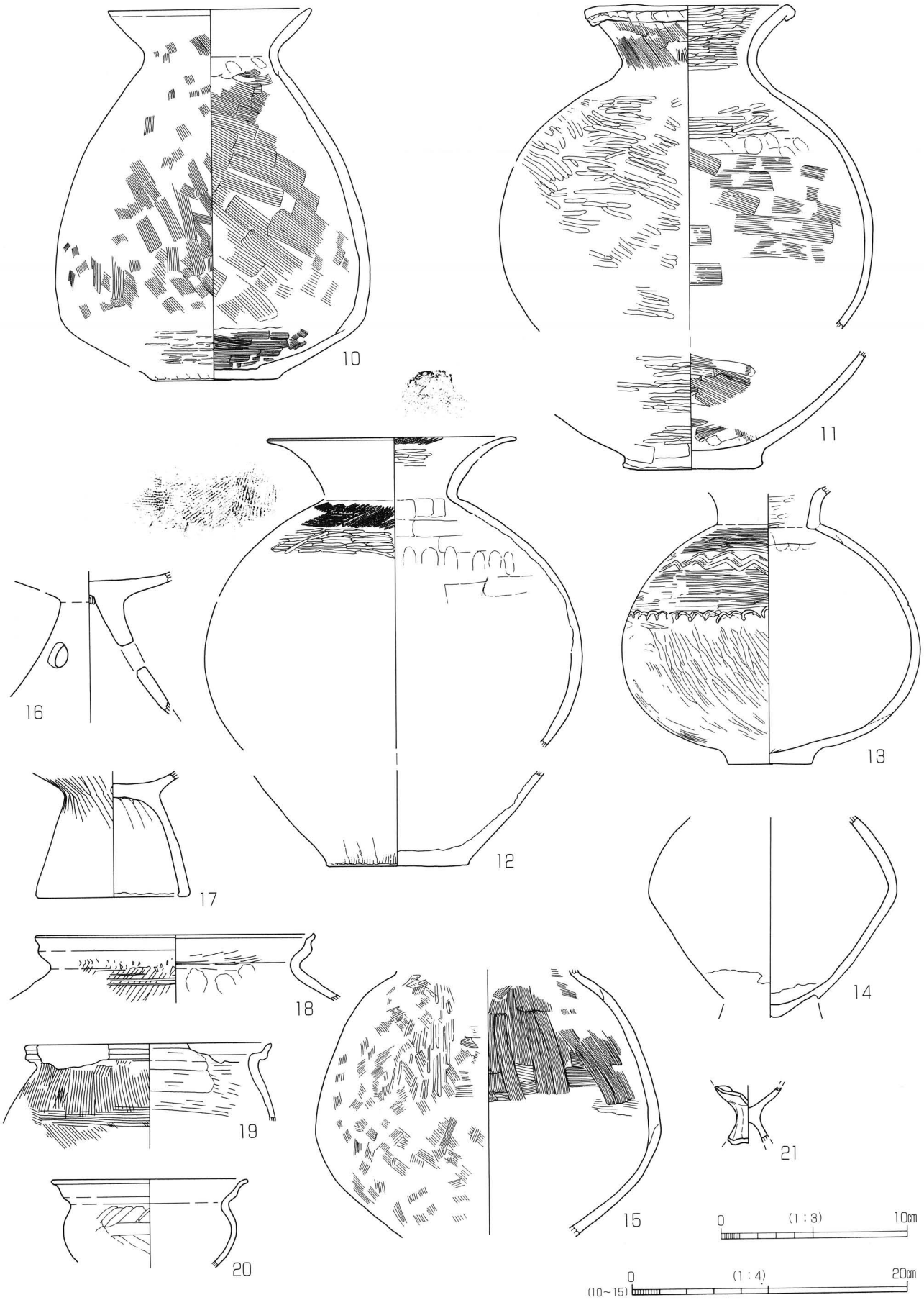
図版８　6，10，11，15号土坑



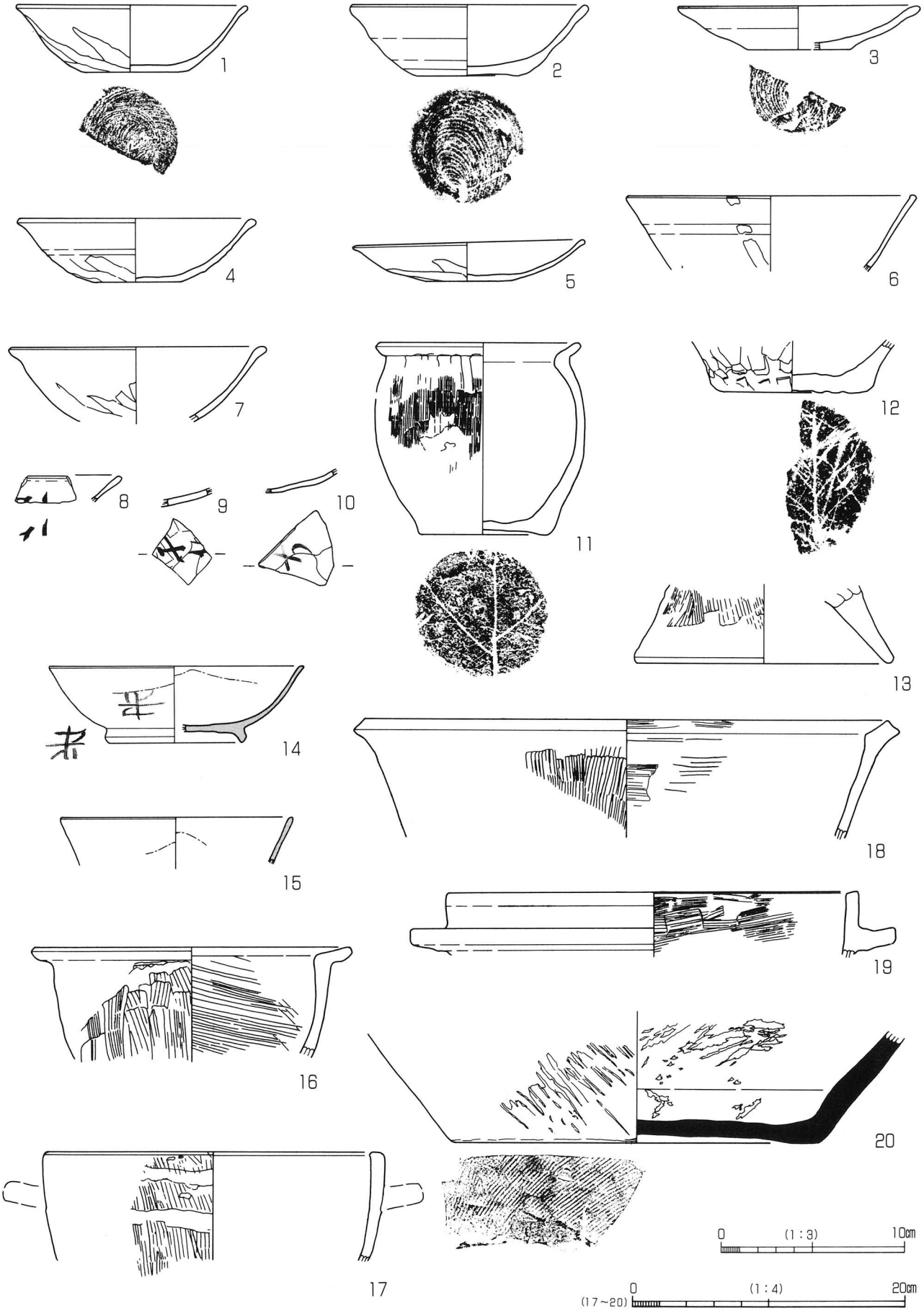
図版9　16, 21, 23～25号土坑、 Pit 2, 8, 19, 34～36



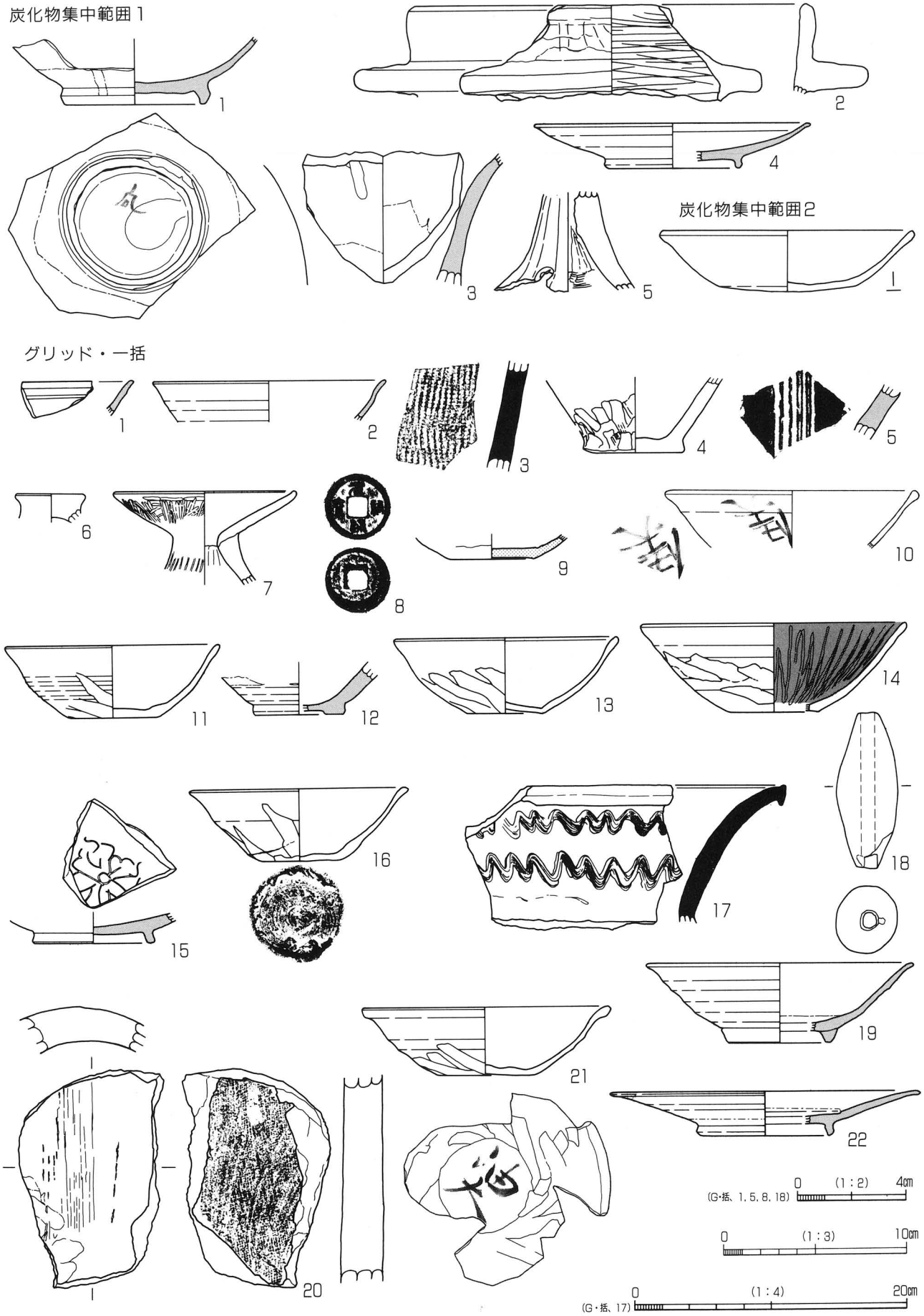
図版10　方形周溝墓（1）



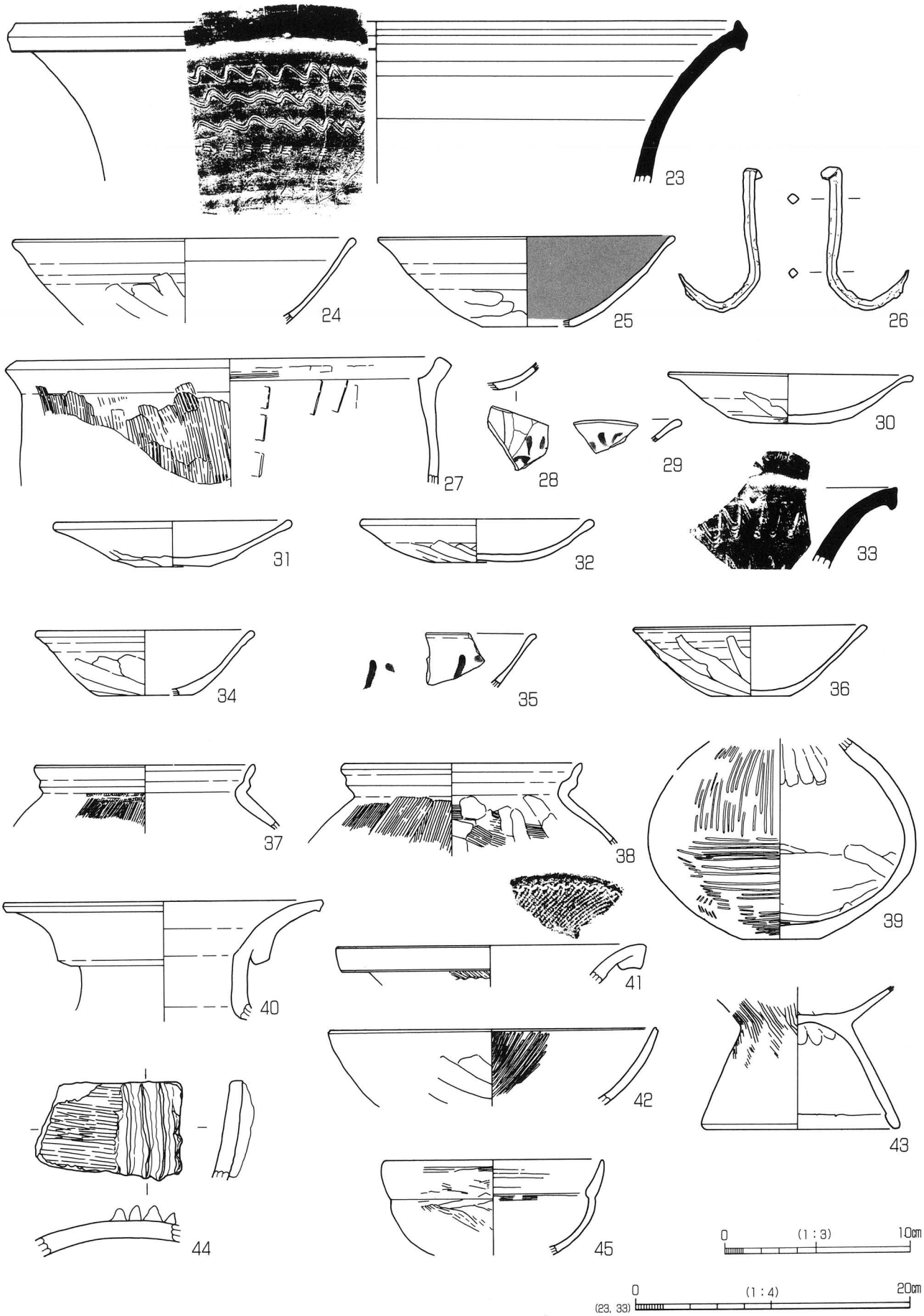
図版11　方形周溝墓（2）



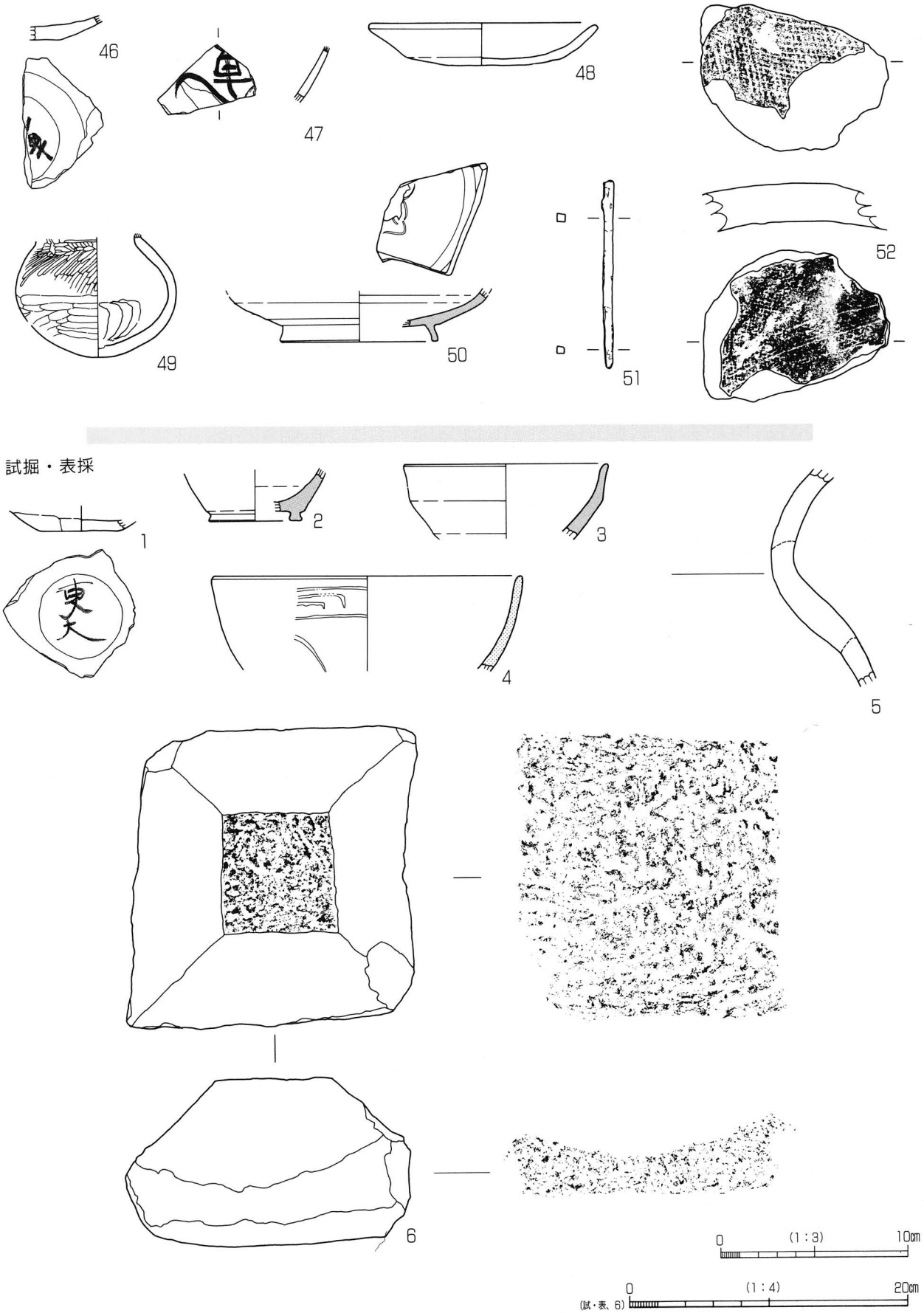
図版12　不明遺構2



図版13　炭化物集中範囲、グリッド・一括（1）



図版14　グリッド・一括（2）



図版15　グリッド・一括（3）、試掘・表採

出土遺物観察表

部位〔口＝口縁部、頸＝頸部、体＝体部、底＝底部(高台部含む)、肩＝肩部、把＝把手部〕　法量( )は推定値

図版	遺構名	番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	反転	部位	%	観察所見(調整・文様・その他) 外面	内面	底面	胎土	色調	焼成	備考
1	1号竪穴建物	1	土師器	坏			(4.8)	●	底	25	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　墨書「□」	密、赤色粒子　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	
1	1号竪穴建物	2	土師器	坏	(11.0)	(4.1)	(4.0)	●		20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　墨書「□」	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	
1	1号竪穴建物	3	土師器	皿	(12.9)	(2.7)	(5.4)	●	口～底	25	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、金雲母　白色粒子　赤色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	スス
1	1号竪穴建物	4	土師器	坏	13.4	4.0	4.1		口～底	70	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	
1	1号竪穴建物	5	土師器	皿	13.0	2.8	4.3		口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕　線刻「×」	密、赤色粒子　白色粒子	5YR6/6橙	良好	
1	1号竪穴建物	6	土師器	坏	13.9	3.7	4.4		口～底	50	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切痕　ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
1	1号竪穴建物	7	土師器	皿	(12.8)	(2.6)	4.2		口～底	55	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	
1	1号竪穴建物	8	土師器	皿	(12.0)	(2.5)	(5.5)	●	口～底	55	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/6橙	良好	
1	1号竪穴建物	9	土師器	坏	15.4	(4.0)	(6.3)	●	口～底	50	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
1	1号竪穴建物	10	土師器	坏	(14.0)	(4.3)	(6.0)	●	口～底	50	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	
1	1号竪穴建物	11	土師器	坏	(13.0)	(4.2)	(5.8)	●	口～底	45	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	
1	1号竪穴建物	12	土師器	小型壺	(6.2)			●	口～体	25	ナデ	ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	N.2/ 黒	良好	
1	1号竪穴建物	13	石製品	砥石	重さ66.6g					小片	3面に使用痕						ススス
1	1号竪穴建物	14	土師器	羽釜	(23.4)			●	口～体	小片	ナデ　ハケメ（縦）	ハケメ（横）		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR4/4にぶい赤褐	良好	
2	2・3号竪穴建物	1	土師器	坏	12.2	2.6	5.4		口～底	90	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR7/6橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	2	土師器	坏	12.1	4.4	4.5		口～底	70	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/6橙	良好	口縁ススス
2	2・3号竪穴建物	3	土師器	坏	12.1	4.3	4.4		口～底	100	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	4	土師器	坏	10.3	4.0	4.4		口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR7/3にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	5	土師器	坏	12.1	2.8	4.4		口～底	80	ナデ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR7/5にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	6	土師器	坏	(12.0)	(4.6)	(4.6)	●	口～底	50	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	内・外面一部ススス
2	2・3号竪穴建物	7	土師器	坏	12.0	4.2	5.2		口～底	75	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕　穿穴	密、赤色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	8	土師器	坏	(11.8)	(4.2)	(4.2)	●	口～底	40	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	内・外面一部ススス
2	2・3号竪穴建物	9	土師器	皿	12.2	2.5	4.6		完形	100	ロクロナデ　回転ヘラケズリ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ　墨書「東大」	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	10	土師器	皿	12.8	2.7	5.0		完形	100	ロクロナデ　回転ヘラケズリ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ　墨書「□□(東大)」	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	口縁ススス
2	2・3号竪穴建物	11	土師器	皿	12.4	2.3	4.5	●	口～底	70	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ　墨書「東大」	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	12	土師器	坏					底	小片		ナデ	回転糸切痕　ヘラケズリ　墨書「□」	やや密、白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	13	土師器	皿	(14.8)	(2.5)	(8.0)	●	口～底	40	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　墨書「東□(東大)」	密、赤色粒子　白色粒子	5YR6/6橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	14	土師器	坏	11.8	4.7	4.8		完形	100	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「日」逆位	ロクロナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/4にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	15	土師器	坏	11.8	3.8	4.6		口～底	85	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「□」	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR7/4にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	16	土師器	坏	12.2	4.3	4.6		完形	90	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「東□(東大)」逆位	ロクロナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	17	土師器	坏	12.2	4.2	3.8		口～底	90	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「日、奉、日」・逆位	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	18	土師器	坏	(15.0)	(5.9)	(6.0)	●	口～底	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　黒色　暗文	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	19	土師器	坏	(14.8)	(5.8)	(6.0)	●	口～底	40	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　黒色　暗文	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	20	土師器	皿	(12.6)	(1.5)	(8.8)	●	口～底	40	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラケズリ　線刻か	密、金雲母　白色粒子	7.5YR6/3にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	21	土師器	坏	15.4	5.6	5.6		口～底	80	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　黒色　暗文	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/2　明褐灰	良好	

部位〔口＝口縁部、頸＝頸部、体＝体部、底＝底部(高台部含む)、肩＝肩部、把＝把手部〕　法量( )は推定値

図版	遺構名	番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	反転	部位	%	観察所見(調整・文様・その他) 外面	内面	底面	胎土	色調	焼成	備考
2	2・3号竪穴建物	22	土師器	坏	(15.0)	(4.9)	(6.6)	●	口～底	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　黒色　暗文	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	23	土師器	坏	(14.8)	(5.2)	(6.0)	●	口～底	30	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　黒色　暗文	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	口縁スス
2	2・3号竪穴建物	24	土師器	甕	(18.7)			●	口～体	小片	ハケメ(縦)	ハケメ (横)		やや粗、金雲母	10YR5/3にぶい黄褐	良好	
2	2・3号竪穴建物	25	土師器	甕	(28.7)			●	口～体	小片	ハケメ(縦)	ハケメ (横)		密、金雲母　白色粒子	7.5YR5/4にぶい橙	良好	
2	2・3号竪穴建物	26	土師器	甕	(26.2)			●	口	小片	ハケメ(縦)　ナデ	ハケメ (横)		やや粗、金雲母　白色粒子　赤色粒子	10YR5/4にぶい黄褐	良好	内・外面スス
3	4号竪穴建物	1	土師器	皿	(13.8)	2.8	(5.6)	●	口～底	45	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	内・外面一部スス
3	4号竪穴建物	2	土師器	坏	(15.0)	(4.3)	(6.0)	●	口～底	65	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　黒色	ヘラケズリ　回転糸切痕	密、赤色粒子　白色粒子	5YR7/4にぶい橙	良好	
3	4号竪穴建物	3	土師器	坏	12.7	3.8	4.1		口～底	70	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	スス
3	4号竪穴建物	4	土師器	坏	(12.8)	(3.0)	(5.4)	●	口～底	40	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	密、赤色粒子　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	外面一部スス
3	4号竪穴建物	5	土師器	坏	(14.8)	(5.0)	(5.6)	●	口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　一部黒色	ヘラケズリ	やや粗、赤色粒子　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
3	4号竪穴建物	6	土師器	坏	14.6	4.6	4.3	●	口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
3	4号竪穴建物	7	土師器	坏	(13.8)	3.8	4.0	●	口～底	40	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	内・外面一部スス
3	4号竪穴建物	8	土師器	坏	(14.8)	(4.3)	(4.9)	●	口～底	25	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/3にぶい黄橙	良好	内・外面スス
3	4号竪穴建物	9	土師器	皿	(13.0)	(2.3)	(4.7)	●	口～底	50	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	2.5YR6/6橙	良好	
3	4号竪穴建物	10	土師器	皿	13.0	3.2	4.4		完形	99	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	内・外面スス
3	4号竪穴建物	11	土師器	皿	13.1	2.5	3.3		口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	内面スス
3	4号竪穴建物	12	土師器	皿	12.5	2.7	3.3		完形	100	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　ヘラケズリ	ヘラケズリ　回転糸切痕	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/6橙	良好	内・外面一部スス
3	4号竪穴建物	13	土師器	皿	13.1	2.7	3.4		完形	85	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
3	4号竪穴建物	14	土師器	皿	13.5	2.5	4.4	●	口～底	35	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/3にぶい黄橙	良好	
3	4号竪穴建物	15	土師器	皿	(13.4)	(2.3)	(4.4)	●	口～底	30	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子　白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	外面スス
3	4号竪穴建物	16	陶器	灰釉　碗・坏			9.0	●	底	20	ロクロナデ　施釉　墨痕	ロクロナデ 施釉 墨痕 擦痕	回転糸切痕　付け高台	密、黒色粒子　白色粒子	10YR6/1褐灰	良好	転用硯か　折戸53号窯式
3	4号竪穴建物	17	須恵器	甕				●	口～体	20	叩き目　擦痕	ナデ　指頭痕		やや密、黒色粒子　白色粒子	10G5/1緑灰	良好	砥石又は硯に転用
3	4号竪穴建物	18	須恵器	壺					体	小片	ナデ　自然釉	ナデ　指頭ナデ		密、白色粒子	2.5YR4/1赤灰	良好	
3	4号竪穴建物	19	土師器	甕	(31.6)			●	口～体	20	ハケメ(縦)	ハケメ(横)		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR5/4にぶい赤褐	良好	外面一部スス
3	4号竪穴建物	20	土師器	甕	(31.2)			●	口～体	20	ハケメ(縦)	ハケメ(横)		やや密、金雲母　白色粒子	7.5YR5/3にぶい褐	良好	内面一部・外面スス
3	5号竪穴建物	1	土師器	小型甕	(17.0)	(13.6)	(9.0)	●	口～底	40	ハケメ(縦)　ナデ	ハケメ(横・斜)	木葉痕	赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
3	5号竪穴建物	2	土師器	坏	(14.6)	(3.6)	(5.0)	●	口～底	30	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　白色粒子	10YR6/2灰黄褐	良好	内面一部・外面スス
3	5号竪穴建物	3	土師器	皿	(12.4)	(2.3)	(3.8)	●	口～底	48	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	2.5YR5/4にぶい赤褐	良好	内面一部スス
3	5号竪穴建物	4	土師器	皿	(12.0)			●	口～体	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
3	5号竪穴建物	5	土師器	皿	(13.2)			●	口～体	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　白色粒子	5YR5/4にぶい赤褐	良好	
3	5号竪穴建物	6	陶器	灰釉　碗・坏			(9.6)	●	底	小片	ロクロナデ	ロクロナデ	付け高台　回転糸切痕	密、白色粒子	7.5YR6/1褐灰	良好	黒笹90号窯式
4	6号竪穴建物	1	土師器	坏	13.0	3.9	5.5		口～底	85	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「□(米)」逆位	ナデ	回転糸切痕　ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
4	6号竪穴建物	2	土師器	坏	12.5	3.2	4.5		口～底	80	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「□」正位	ナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR5/4にぶい赤橙	良好	内・外面こげ
4	6号竪穴建物	3	土師器	坏	(12.0)	(3.7)	(4.4)	●	口～底	25	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「□」横位	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/6橙	良好	外面こげ
4	6号竪穴建物	4	土師器	坏	(15.8)	(5.6)	(5.9)		口～底	45	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ　黒変	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	

部位〔口＝口縁部、頸＝頸部、体＝体部、底＝底部（高台部含む）、肩＝肩部、把＝把手部〕　法量（ ）は推定値

図版	遺構名	番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	反転	部位	%	観察所見（調整・文様・その他） 外面	内面	底面	胎土	色調	焼成	備考
4	6号竪穴建物	5	土師器	坏	14.2	4.5	5.4			60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　黒色	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
4	6号竪穴建物	6	土師器	坏	(16.0)	(4.2)	(5.4)	●	口～底	35	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	外面こげ
4	6号竪穴建物	7	土師器	坏	(13.0)			●	口～体	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
4	6号竪穴建物	8	土師器	坏	(12.2)	(2.6)	(4.6)	●	口～底	15	ロクロナデ	スス	回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/3にぶい橙	良好	
4	6号竪穴建物	9	土師器	皿	(14.0)	(2.4)		●	口～底	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
4	6号竪穴建物	10	土師器	坏	(12.0)	(2.8)	(4.2)	●	口～底	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
4	6竪穴建物	11	土師器	皿	12.5	2.2	4.4		口～底	98	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	内面こげ
4	6号竪穴建物	12	土師器	置きカマド					底	小片	ハケメ(縦)	ハケメ(横)　指頭痕　ナデ		やや粗、金雲母　白色粒子	2.5YR3/3にぶい赤褐	良好	
4	6号竪穴建物	13	土師器	羽釜	(20.2)			●	口	小片	ナデ　ハケメ(縦)	ハケメ(横)　ナデ		やや粗、金雲母　白色粒子	5YR5/4にぶい赤褐	良好	
4	6号竪穴建物	14	土師器	甕	(25.0)			●	口	小片	ハケメ(縦)　ナデ	ハケメ(横)　ナデ		砂粒含み粗、金雲母　白色粒子	5YR3/3暗赤褐	良好	
4	7号竪穴建物	1	土師器	坏	(12.0)	(4.0)	(4.4)	●	口～底	25	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	
4	7号竪穴建物	2	土師器	坏	(11.8)	(3.8)		●	口～底	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR7/6橙	良好	
4	7号竪穴建物	3	土師器	皿	13.0	2.3	5.7		口～底	70	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	外:5YR6/6橙 内:5YR4/3にぶい赤褐	良好	
4	7号竪穴建物	4	土師器	坏	(13.0)			●	口～体	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	摩耗が著しい
4	7号竪穴建物	5	土師器	坏	(12.0)			●	口～体	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR4/6赤褐	良好	摩耗が著しい
4	7号竪穴建物	6	土師器	坏	(12.8)	(3.5)		●	口～体	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ　灯明スス		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	
4	7号竪穴建物	7	土師器	坏					口	小片	ロクロナデ　墨書「□」	ナデ		密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	
4	7号竪穴建物	8	陶器	灰釉　碗・鉢			7.0		底	30	ロクロナデ	擦痕（転用硯か）	付け高台　回転糸切痕　無釉	やや密（砂粒）	5YR4/4にぶい赤褐	良好	外面一部墨痕か
4	7号竪穴建物	9	金属製品	釘						90	長さ8.7　重さ8.68g						
5	7号竪穴建物	10	土師器	羽釜	(20.8)			●	口	小片	ハケメ(縦)　ナデ	ハケメ(横)		粗、金雲母　白色粒子	5YR5/4にぶい赤褐	良好	粗い
5	7号竪穴建物	11	土師器	羽釜	(23.5)			●	口～体	小片	ナデ	ナデ		粗、金雲母　白色粒子	5YR7/6橙	良好	こげ　摩耗が著しい
5	7号竪穴建物	12	土師器	甕	(29.2)			●	口～体	小片	ナデ、ハケメ(縦)	ナデ、ハケメ(横)		粗、金雲母　白色粒子	5YR4/6赤褐	良好	こげ
5	7号竪穴建物	13	土師器	小型甕	(15.5)			●	口～体	小片	ナデ、ハケメ(縦)	ナデ、ハケメ(横)		粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR4/4にぶい赤褐	やや粗	
5	7号竪穴建物	14	土師器	甕			(8.0)	●	底	小片	ナデ、ハケメ(縦)	ハケメ(横・斜)	木葉痕	やや粗、金雲母　白色粒子	5YR4/6赤褐	良好	
5	7号竪穴建物	15	土師器	小型甕			(7.6)	●	体～底	30	摩耗が著しい	みこみ部指頭痕	木葉痕	粗、金雲母　白色粒子	5YR4/4赤褐	良好	
5	1号堀立柱建物	1	土師器	坏					体～底	小片	ヘラケズリ　墨書「□」	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　白色粒子	10YR6/3にぶい黄橙	良好	
5	1号堀立柱建物	2	須恵器	甕					体	小片	叩き目			密、白色粒子	5YR5/3にぶい赤褐	やや粗	
5	1号堀立柱建物	3	焼成粘土塊		重さ 101.4g						平面あり　スサ混入			粗	10YR6/4にぶい黄橙		壁土
5	1号堀立柱建物	4	焼成粘土塊		重さ 76.6g						平面あり　スサ混入			粗	7.5YR6/4にぶい橙　断面は黒色		壁土
5	1号堀立柱建物	5	焼成粘土塊		重さ 43.5g						スサ混入			粗	10YR6/4にぶい黄橙　断面は黒色		壁土
5	1号堀立柱建物	6	焼成粘土塊		重さ 103.6g						平面、木舞の痕跡あり　スサ混入			粗	7.5YR6/3にぶい橙　断面は黒色		壁土
5	2号堀立柱建物	1	土師器	坏					底	小片		ロクナデ	回転糸切痕　ヘラケズリ　墨書「□」	密、白色粒子	10YR6/3にぶい黄橙	良好	
5	2号堀立柱建物	2	土師器	坏	(12.2)	(3.8)	(4.5)	●	口～体	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/3にぶい橙	良好	内面スス
5	2号堀立柱建物	3	土師器	坏	(12.4)	(3.9)	(5.0)	●	口～底	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR5/6明赤褐	良好	
5	2号堀立柱建物	4	土師器	台付甕			(8.0)	●	脚	小片	ハケメ(縦)	指頭ナデ		粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/6橙	良好	

部位〔口＝口縁部、頸＝頸部、体＝体部、底＝底部(高台部含む)、肩＝肩部、把＝把手部〕　法量( )は推定値

図版	遺構名	番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	反転	部位	%	観察所見(調整・文様・その他) 外面	内面	底面	胎土	色調	焼成	備考
6	3号溝	1	土師器	坏			(5.4)	●	底	小片	ナデ	ナデ	回転糸切痕	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/6橙	良好	
6	5号溝	1	土師器	甕	(12.5)			●	口～体	小片	ハケメ　ナデ	ハケメ　ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	内・外面スス
6	5号溝	2	土師器	台付甕			(9.7)	●	脚	小片	ハケメ(縦)	ナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
6	7号溝	1	土師器	土鍋か					把	40	ヘラナデ　指頭ナデ	ヘラナデ　指頭ナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
6	11号溝	1	陶器	擂鉢	(32.0)			●	口～体	小片	ロクロナデ	ロクロナデ　すり目(5条)		やや粗、金雲母　白色粒子	2.5Y5/6明赤褐	良好	
6	12号溝	1	陶器	灰釉　段皿	(16.2)				口～体	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		密、白色粒子　黒色粒子	2.5YR7/1灰白	良好	黒笹90号窯式
6	15号溝	1	陶器	灰釉　壺				●	頸	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		やや密、黒色粒子	7.5YR7/1褐灰	良好	折戸53号窯式か
6	18号溝	1	土師器	坏	(12.5)	(3.9)	(5.0)	●	口～体	40	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		密、赤色粒子　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	黒笹90号窯式
6	19号溝	1	土師器	坏	(11.6)			●	口～体	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		密、　白色粒子　赤色粒子	5YR6/6橙	良好	
6	28号溝	1	土師器	加飾壺					口	小片	加飾			粗、　白色粒子　赤色粒子	5YR6/6橙	良好	摩耗が著しい
6	28号溝	2	陶器	灰釉　壺	(13.2)			●	口～頸	小片				緻密	10YR7/1灰白	良好	折戸53号窯式か
6	28号溝	3	陶器	灰釉　坏	(14.3)			●	口～体	小片				密	10YR6/2灰黄褐	良好	
6	28号溝	4	土師器	坏					口	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「□」	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/3にぶい橙	良好	
6	28号溝	5	土師器	置きカマド					底	小片	ハケメ(縦)	ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	10YR5/3にぶい黄褐	良好	
6	28号溝	6	陶器	灰釉　壺					体	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		密、黒色粒子	10YR7/1灰白	良好	渥美窯か
6	28号溝	7	陶器	灰釉　水注か					把	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		密、黒色粒子	10YR7/1灰白	良好	
6	30号溝	1	陶器	白磁　碗			(7.7)	●	底	小片	施釉	施釉	削り出し高台	密、黒色粒子	10YR7/2灰白	良好	太宰府編年IV期　中国那州窯
6	30号溝	2	磁器	坏	12.7	3.1	4.3		口～底	小片		ナデ		密、赤色粒子　白色粒子	10YR6/3にぶい黄橙	良好	
6	30号溝	3	土師器	坏					口～底	小片		ナデ		密、赤色粒子　白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
6	30号溝	4	土師器	甕					口～底	小片		ナデ		密、赤色粒子　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	
6	35号溝	1	須恵器	皿	12.7	3.1	4.3		口～底	70		ナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子　白色粒子	5YR6/6橙	良好	
7	36号溝	1	土師器	坏	(11.8)	(3.7)	(3.8)	●	口～底	40	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	
7	36号溝	2	土師器	坏	(12.2)	(4.0)	(2.8)	●	口～体	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/6橙	良好	
7	36号溝	3	土師器	坏	(13.0)			●	口～体	小片	ロクロナデ	ナデ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/8赤褐	良好	摩耗が著しい
7	36号溝	4	土師器	坏	(12.0)			●	口～体	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ		密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	
7	36号溝	5	土師器	置きカマド					底	小片	ハケメ　ナデ	ナデ(横) 指頭痕		粗、金雲母　白色粒子	5YR5/6明赤褐	良好	
7	36号溝・埋甕	6	土師器	甕					口	小片	頸部櫛描文、肩部叩き目	ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	N.6/ 灰	良好	
7	36号溝	7	須恵器	甕	(44.0)				頸～肩	小片	叩き目	ナデ　指頭痕		やや密、白色粒子	N.6/ 灰	良好	
7	埋甕	1	須恵器	坏	(14.2)	(3.5)		●	口～体	40	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		密、赤色粒子　金雲母	5YR6/4にぶい橙	良好	
7	埋甕・7竪	2	土師器	皿	(14.0)	(2.7)		●	口～底	40	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/6橙	良好	
7	埋甕・36溝	3	土師器	甕					口	小片	頸部櫛描文、肩部叩き目	ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	N.6/ 灰	良好	
7	埋甕・36溝	4	須恵器	甕			(18.0)		底	小片	叩き目	ナデ　指頭ナデ		やや粗、白色粒子　長石　石英	2.5YR5/2灰赤	粗	
8	6号土坑	1	須恵器	甕	(15.0)			●	口～頸	小片	ハケメ(縦)			やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/6橙	良好	
8	6号土坑	2	土師器	高坏	(14.0)			●	口	小片	ナデ　赤色塗彩	ナデ　赤色塗彩		やや密、赤色粒子　金雲母　黒色粒子	10YR5/3にぶい黄褐	良好	
8	11号土坑	1	土師器	坏	(12.1)	(4.3)	(5.3)	●	口～底	30	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR5/3にぶい黄褐	良好	

部位〔口＝口縁部、頸＝頸部、体＝体部、底＝底部（高台部含む）、肩＝肩部、把＝把手部〕　法量（ ）は推定値

図版	遺構名	番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	反転	部位	%	観察所見（調整・文様・その他） 外面	内面	底面	胎土	色調	焼成	備考
8	11号土坑	2	陶器	壺							施釉	輪積痕		密、白色粒子　黒色粒子	10YR6/1褐灰	良好	渥美窯
8	11号土坑	3	金属製品	小刀							全長31.1cm、刀身(長さ29.3cm、刀幅2.3cm、刀厚0.5cm、刀渡り20.1cm、重さ88.07ｇ) 柄材４片						保存処理済
8	11号土坑	4	篦状製品								幅約６㎜　二本越え、一本潜り、一本送りか						保存処理済
8	15号土坑	1	土師器	皿	12.6	2.3	3.2		完形	100	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「子北」逆位	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	2.5YR6/8橙	良好	
8	15号土坑	2	土師器	坏	(13.0)	(3.6)	(4.8)	●	口～底	25	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや密、金雲母　白色粒子　赤色粒子	5YR6/6橙	良好	
8	15号土坑	3	土師器	坏	12.8	3.6	5.2		口～底	70	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　灯明スス	回転糸切痕	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	内面炭化物　外面スス
8	15号土坑	4	土師器	皿	12.6	1.9	7.3		口～底	70	ナデ	ナデ	回転糸切痕　ヘラケズリ	密、金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	内・外面スス
9	16号土坑	1	土師器	皿	(22.0)	(5.0)	8.0	●	口～底	70	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/6橙	良好	合わせ口状態で検出
9	16号土坑	2	土師器	鉢	(23.6)	(10.5)	10.5	●	口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや粗、金雲母　長石　石英	10YR7/3にぶい黄橙	良好	合わせ口状態で検出
9	16号土坑	3	土師器	坏	12.8	3.7	6.4		口～底	80	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR5/4にぶい赤褐	良好	コゲ　内・外面スス
9	16号土坑	4	土師器	壺	(11.0)	(15.2)	(9.4)	●	口～底	70	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/2灰褐	良好	外面スス
9	16号土坑	5	土師器	皿	(24.5)	(4.2)	7.3	●	口～底	70	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	合わせ口状態で検出
9	16号土坑	6	土師器	鉢	22.0	11.2	9.3		口～底	90	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	合わせ口状態で検出　口縁一部スス
9	21号土坑	1	土師器	坏	(12.0)			●	口～体	30	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
9	21号土坑	2	土師器	坏	(12.0)			●	口～体	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR5/6明赤褐	良好	
9	23号土坑	1	土師器	坏	(13.0)			●	口～体	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/2灰褐	良好	
9	24号土坑	1	土師器	壺	(14.0)			●	口～体	小片	ハケメ(縦)　ナデ	ハケメ(横)　ナデ		密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR7/6橙	良好	
9	25号土坑	1	土師器	羽釜	(22.8)			●	口～体	20	ナデ	ハケメ(横)　ナデ		やや粗、雲母　金雲母　白色粒子	2.5YR4/3にぶい赤褐	良好	
9	25号土坑	2	土師器	坏	(13.0)			●	口～体	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		密、赤色粒子　白色粒子	5YR6/3にぶい橙	良好	
9	Pit2	1	土師器	坏	(13.0)			●	口～体	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
9	Pit2	2	須恵器	甕・鉢					体	小片	叩き目	ナデ		密	10YR6/1褐灰	良好	
9	Pit8	1	陶器	灰釉　手付瓶			(13.0)	●	底	小片	ロクロナデ　施釉	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　白色粒子		良好	黒笹90号～折戸53号窯式か
9	Pit19	1	土師器	坏	(12.8)			●	口～体	小片	ナデ	ナデ		密、黒色粒子　金雲母	10YR7/3にぶい黄橙	良好	外面スス
9	Pit34	1	土師器	鉢	(22.4)	(8.4)	(7.6)	●	口～底	25	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　黒色	ヘラケズリ	密、赤色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
9	Pit34	2	土師器	鉢か			(12.2)	●	底	小片	ヘラケズリ	ミガキ　線刻か　黒色		密、白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
9	Pit35	1	陶器	灰釉　碗	(13.8)			●	口～体	30	ロクロナデ	ロクロナデ		やや密、黒色粒子	10YR7/1灰白	良好	全体的にスス付着　折戸53号窯式前後か
9	Pit36	1	土師器	甕・壺	(15.6)			●	口	小片	ハケメ			やや粗、白色粒子　金雲母	10YR6/4にぶい黄橙	やや粗	受口状口縁壺（北陸系）か
10	方形周溝墓	1	土師器	壺	(13.6)	(25.3)	7.0	●	口～底	60	ハケメ(斜・横)　ナデ	ナデ　摩耗で不鮮明		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	摩耗が著しい　外面下部スス
10	方形周溝墓	2	土師器	壺	(13.0)			●	口～体	40	ハケメ(斜)　ナデ	ハケメ(横)　ナデ	外:ハケメ、ナデ　内:ハケメ、ナデ	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	外面スス
10	方形周溝墓	3	土師器	Ｓ字甕	(13.7)	(33.0)	(11.6)	●	口～脚	60	カキメ、ハケメ(斜)	指頭ナデ　指頭痕	折り返し高台	やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙、芯黒っぽい	良好	外面下部スス
10	方形周溝墓	4	土師器	壺			8.4		頸～底	80	ハケメ(縦)　ミガキ(横・斜)	ハケメ(横)　指頭ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	外面スス
10	方形周溝墓	5	土師器	壺	7.8	13.6	4.2		口～底	80	ミガキ(縦)	ミガキ(斜、口縁～頸)　ハケメ	ヘラケズリ	粗、黒色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	摩耗が著しい
10	方形周溝墓	6	土師器	壺			10.2		頸～底	80	ハケメ　ミガキ(横)	ハケメ　ヘラケズリ　指頭痕		粗、赤色粒子　黒色粒子　白色粒子　金雲母	7.5YR7/6橙	良好	成形痕(積み上げ跡)が確認できる
10	方形周溝墓	7	土師器	Ｓ字甕	(19.4)			●	口～体	80	ナデ　ハケメ(縦・斜)	ハケメ(横)　指頭ナデ	脚欠損	やや粗、赤色粒子　黒色粒子　金雲母　白色粒子	5YR7/4にぶい橙	やや粗	外面スス　焼きムラあり
10	方形周溝墓	8	土師器	壺	20.5	18.3	8.8		口～底	90	ハケメ(縦・斜)　ナデ	ハケメ(斜)	木葉痕	やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	

部位〔口＝口縁部、頸＝頸部、体＝体部、底＝底部（高台部含む）、肩＝肩部、把＝把手部〕　法量（ ）は推定値

図版	遺構名	番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	反転	部位	%	観察所見（調整・文様・その他） 外面	内面	底面	胎土	色調	焼成	備考
10	方形周溝墓	9	土師器	壺	(13.6)			●	口～頸	10	ハケメ、ナデ	ハケメ(横) ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	摩耗が著しい
11	方形周溝墓	10	土師器	壺	(14.8)	(27.4)	9.5	●	体～底	40	ハケメ(斜) ミガキ(横)	ハケメ(斜)		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	摩耗が著しい
11	方形周溝墓	11	土師器	壺	15.4		10.2	●	口～底	70	ハケメ　ミガキ	ミガキ　ハケメ(横)		やや粗、黒色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	折り返し口縁
11	方形周溝墓	12	土師器	壺	(18.2)	(30.0)	(10.4)	●	口～体	65	ナデ　ミガキ　縄文	摩耗剥離が著しい	摩耗剥離が著しい	粗、黒色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	内面剥離著しい
11	方形周溝墓	13	土師器	壺			(6.2)	●	頸～底	60	ミガキ　櫛描山形文　爪形(半裁竹管刺突)文	ナデ　ハケメ		やや密、赤色粒子　金雲母	外:10YR7/4にぶい黄橙 内:5G4/1暗緑	良好	二重口縁壺か
11	方形周溝墓	14	土師器	台付甕	(18.0)			●	体	50				やや粗、黒色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	摩耗が著しい　高坏の再成形か
11	方形周溝墓	15	土師器	壺	胴部径25.4			●	体	40	ハケメ　ミガキ	ハケメ　ナデ　輪積み痕		やや粗、金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	
11	方形周溝墓	16	土師器	高坏				●	脚	30	ナデ	ナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/6橙	良好	摩耗が著しい　脚に　孔３ヶ所
11	方形周溝墓	17	土師器	台付甕			8.5		脚	30	ハケメ(縦)	指頭ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	5YR5/6明赤褐	良好	内・外面一部スス
11	方形周溝墓	18	土師器	S字甕	(15.2)			●	口	小片	ハケメ(縦) ナデ			密、金雲母　白色粒子	2.5YR6/2灰黄	良好	内面スス
11	方形周溝墓	19	土師器	S字甕	(13.4)			●	口～体	小片	ハケメ(縦・斜) ナデ	ハケメ(横)		やや粗、金雲母　白色粒子	5YR6/6橙	良好	
11	方形周溝墓	20	土師器	埦・鉢	(10.7)				口～体	小片	ナデ　ケズリ　ミガキ	ナデ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/2明褐灰	良好	
11	方形周溝墓	21	土師器	土製品				●		60	ナデ			密、白色粒子	10YR4/1褐灰	良好	ミニチュア土器
12	不明遺構	1	土師器	坏	(12.6)	(3.7)	(5.3)	●	口～底	50	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切痕	密、赤色粒子　金雲母	10YR7/2にぶい黄橙	良好	施釉
12	不明遺構	2	土師器	坏	13.0	3.9	5.6		口～底	70	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	摩耗が著しい
12	不明遺構	3	土師器	皿	(13.2)	(2.4)	(5.6)	●	口～底	40	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切痕	やや密、赤色粒子	7.5YR7/3にぶい橙	良好	
12	不明遺構	4	土師器	坏	(13.0)	(3.5)	(5.0)	●	口～底	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	炭化物　摩耗が著しい
12	不明遺構	5	土師器	皿	(12.8)	2.3	4.6		口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ	密、赤色粒子	7.5YR5/4にぶい褐	良好	
12	不明遺構	6	土師器	坏	(15.8)			●	口～体	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		密、赤色粒子	10YR7/1灰白	良好	
12	不明遺構	7	土師器	坏	(14.0)			●	口～体	30	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子	7.5YR6/3にぶい褐	良好	
12	不明遺構	8	土師器	坏・皿					口	小片	ロクロナデ　墨書「□」逆位	ナデ		密、赤色粒子	7.5YR5/3にぶい褐	良好	
12	不明遺構	9	土師器	坏・皿					体	小片	ヘラケズリ　墨書「□□」	ナデ		密、赤色粒子	7.5YR5/3にぶい褐	良好	
12	不明遺構	10	土師器	坏・皿					体	小片	ヘラケズリ　墨書「万」逆位	ナデ		やや密、赤色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	
12	不明遺構	11	土師器	小型甕	(10.2)		7.0	●	口～底	60	ハケメ(縦) ナデ　コゲ付着	ナデ	木葉痕	やや粗、金雲母　白色粒子	7.5YR4/3褐	良好	
12	不明遺構	12	土師器	甕			(8.0)	●	底	小片	ヘラケズリ	ナデ	木葉痕	粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR5/3にぶい褐	良好	摩耗が著しい
12	不明遺構	13	土師器	甕			(14.0)	●	脚	小片	ハケメ	ナデ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR5/3にぶい褐	良好	
12	不明遺構	14	陶器	灰釉	(13.8)	(4.2)	(7.2)	●	口～底	40	ロクロナデ　墨書「□」逆位	ロクロナデ	付け高台　回転糸切痕　無釉	密、黒色粒子	7.5YR7/1明褐灰	良好	折戸53号窯式～東山72号窯式か
12	不明遺構	15	陶器	灰釉	(10.1)			●	口	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		やや密、白色粒子	5Y 6/1灰	良好	付け掛け
12	不明遺構	16	土師器	坏	(17.6)			●	口～体	小片				赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR5/4にぶい橙	良好	
12	不明遺構	17	土師器	羽釜	(24.2)			●	口～体	小片	ハケメ(縦) ナデ	ハケメ(横)		やや粗、金雲母　白色粒子	10YR5/3にぶい黄褐	良好	
12	不明遺構	18	土師器	甕				●	口～体	小片	ナデ　ハケメ(縦)	ハケメ(横) ナデ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR5/4にぶい橙	良好	
12	不明遺構	19	土師器	羽釜	(30.0)			●	口～体	小片	口縁ナデ　ハケメ(横)	ハケメ(横) ナデ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR5/4にぶい橙	良好	
12	不明遺構	20	須恵器	甕・壺			(20.0)		底	小片	叩き目	ナデ		やや密、白色粒子	10YR6/1褐灰	良好	付着物アリ（銅の釉か？）
13	炭化物集中１	1	陶器	灰釉　碗			(7.6)		底	15	ロクロナデ	ロクロナデ	付け高台　回転糸切痕　墨書「□」	やや密、砂粒含みやや粗	2.5YR6/1黄灰	良好	施釉（付け掛け）折戸53号窯式
13	炭化物集中１	2	土師器	羽釜	(21.4)			●	口	小片	ナデ	ハケメ(横)		粗、雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	外面一部スス

部位〔口＝口縁部、頸＝頸部、体＝体部、底＝底部(高台部含む)、肩＝肩部、把＝把手部〕　法量( )は推定値

図版	遺構名	番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	反転	部位	%	観察所見(調整・文様・その他) 外面	内面	底面	胎土	色調	焼成	備考
13	炭化物集中1	3	陶器	灰釉　壺				●	頸	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		密、黒色粒子　白色粒子	7.5YR7/1明褐灰	良好	折戸53号窯式か
13	炭化物集中1	4	陶器	灰釉　皿	(15.0)	(2.5)	(7.2)	●	口～底	30	ロクロナデ	ロクロナデ	付け高台	密	10YR6/1褐灰	良好	黒笹90号窯式
13	炭化物集中1	5	土師器	高坏					脚	小片	ヘラケズリ	ヘラケズリ		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	2.5YR6/4にぶい黄	良好	穿孔3～4箇所
13	炭化物集中2	1	土師器	坏	(14.0)	(3.3)		●	口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	摩耗にて不鮮明	やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/3にぶい橙	良好	
13	遺構外	1	陶器	緑釉　碗	(15.0)			●	口	小片	施釉	施釉		密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	2.5Y8/1灰白	良好	
13	遺構外	2	陶器	灰釉　碗	(12.6)			●	口～体	小片	ロクロナデ			やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子		良好	外面スス
13	遺構外	3	須恵器	甕・壺					体	小片	叩き目	叩き目		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子		良好	
13	遺構外	4	土師器	壺			5.5	●	体～底	小片	ハケメ(縦)	摩耗で不明		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/6橙	良好	
13	遺構外	5	陶器	擂鉢				●	体	小片	ロクロナデ	すり目（5条）		やや粗、赤色粒子　白色粒子		良好	
13	遺構外	6	土師器	蓋	つまみ部径3.7			●	つまみ	小片	ナデ	ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	10YR6/3にぶい黄橙	良好	
13	遺構外	7	土師器	器台	10.0					70	ナデ　ミガキ	ナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	2.5YR7/2灰黄	良好	内面スス
13	遺構外	8	金属製品	古銭							元祐通宝　直径22.25㎜ 孔径7.1㎜ 厚さ1.2㎜						
13	遺構外	9	磁器	白磁　皿			(4.6)	●	底	小片	ロクロナデ	ロクロナデ	削りだし高台	緻密	5Y7/1灰白	良好	中国製
13	遺構外	10	土師器	坏	(14.0)				口～体	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「□」	ロクロナデ		密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	
13	遺構外	11	土師器	坏	(11.8)	(4.0)	(4.8)	●	口～底	30	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切痕　ヘラケズリ	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/6橙	良好	
13	遺構外	12	陶器	天目茶碗			(4.8)	●	底	小片	ロクロナデ　施釉	施釉	削りだし高台	やや密		良好	中国貴州窯
13	遺構外	13	土師器	坏	(12.4)	(4.1)	(4.0)	●	口～底	50	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	
13	遺構外	14	土師器	坏	(14.6)	(4.9)	(4.8)	●	口～底	45	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ黒色　暗文	ヘラケズリ	密、赤色粒子　白色粒子	10YR8/2灰白	良好	
13	遺構外	15	陶器	緑釉　碗・皿			(6.6)	●	底	小片	ロクロナデ	ロクロナデ　陰刻文様	付け高台	やや密	2.5YR8/1灰白	良好	全面施釉
13	遺構外	16	土師器	坏	(12.0)	(4.0)	(4.4)	●	口～底	70	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切痕　粘土貼り付け調整	やや密、赤色粒子　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	
13	遺構外	17	須恵器	甕・壺					口～頸	小片	櫛描波状文	ナデ		密、白色粒子	7.5YR4/1褐灰	良好	
13	遺構外	19	陶器	灰釉　碗	(14.6)	(4.4)	(5.6)	●	口～底	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	付け高台	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10Y7/1灰白	良好	黒笹90号窯式　やや歪みあり
13	遺構外	20	瓦	丸瓦か						小片	ヘラケズリ	布目		粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	2.5YR6/6橙	良好	
13	遺構外	21	土師器	坏	(13.8)	(3.8)	(5.4)	●	口～底	50	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　墨書「□□(油大)」	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	
13	遺構外	22	陶器	灰釉　段皿	(17.0)	(2.5)	(7.6)	●	口～底	20	ロクロナデ	ロクロナデ		緻密、白色粒子　短かい砂粒	5Y7/2灰白	良好	施釉(刷り塗り)　黒笹90号窯式
14	遺構外	23	須恵器	甕	(54.0)				口	小片	櫛描波状文	ナデ		やや密、白色粒子	10R4/2灰赤	良好	
14	遺構外	24	土師器	坏	(18.8)			●	口～体	30	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　白色粒子	5YR6/6橙	良好	
14	遺構外	25	土師器	坏	(16.2)	(5.0)	(5.0)	●	口～底	30	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ　黒色		やや密、赤色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	摩耗が著しい
14	遺構外	26	金属製品	釘							長さ7.6　重さ10.25g						
14	遺構外	27	土師器	甕	(23.0)			●	口～体	小片	ハケメ(縦) ナデ	ハケメ(横) ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	10YR5/3にぶい黄橙	良好	全体的にスス付着
14	遺構外	28	土師器	坏・皿					体～底	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「□」	ロクロナデ		密、赤色粒子	10YR5/3にぶい黄橙	良好	体外
14	遺構外	29	土師器	坏・皿					口～体	小片	ロクロナデ　墨書「□」	ロクロナデ		密、赤色粒子	10YR5/3にぶい黄橙	良好	体外
14	遺構外	30	土師器	坏・皿	(13.4)	(2.7)	(3.0)	●	口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転糸切痕	やや密、赤色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
14	遺構外	31	土師器	皿	(14.0)	(2.5)	(3.8)	●	口～底	25	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	
14	遺構外	32	土師器	皿	(12.8)	(2.4)	(4.8)	●	口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR5/4にぶい赤褐	良好	

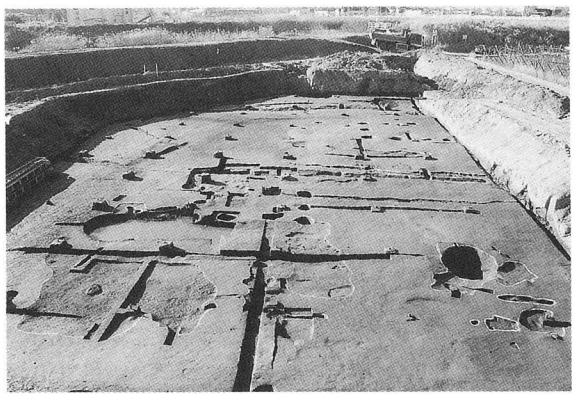
部位〔口＝口縁部、頸＝頸部、体＝体部、底＝底部（高台部含む）、肩＝肩部、把＝把手部〕　法量（ ）は推定値

図版	遺構名	番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	反転	部位	%	観察所見（調整・文様・その他） 外面	内面	底面	胎土	色調	焼成	備考
14	遺構外	33	須恵器	甕・壺					口	小片	櫛描波状文	ナデ		やや密、金雲母　白色粒子	N.31/暗灰	良好	
14	遺構外	34	土師器	坏	(12.0)	(3.6)	(5.6)	●	口～底	20	ロクロナデ　ヘラケズリ	ナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR7/3にぶい橙	良好	
14	遺構外	35	土師器	坏・皿					口	小片	ロクロナデ　墨書「□」	ナデ		やや密、赤色粒子　白色粒子	7.5YR6/3にぶい褐	良好	
14	遺構外	36	土師器	坏	12.8	3.8	4.3		口～底	60	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ		やや密、赤色粒子　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
14	遺構外	37	土師器	S字甕	(12.0)			●	口～体	小片	ハケメ(縦) ナデ	ナデ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
14	遺構外	38	土師器	S字甕	(13.0)			●	口～体	小片	ハケメ(縦) ナデ	ハケメ(横) ナデ　指頭痕		やや密、金雲母　白色粒子	5YR6/4にぶい橙	良好	
14	遺構外	39	土師器	壺			4.2	●	体～底	70	ミガキ（上半部:縦、下半部:横）	ハケメ(横) 後ナデ　指頭痕		やや粗、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
14	遺構外	40	土師器	二重口縁壺	(17.4)			●	口～頸	小片				粗、白色粒子　雲母	10YR6/4にぶい黄橙	やや粗	断面7.5YR6/6橙　生焼け　摩耗が著しい
14	遺構外	41	土師器	壺	(17.0)			●	口	小片	ハケメ(縦) ナデ	結節縄文		やや粗、白色粒子	10YR8/4浅黄橙	良好	折り返し口縁
14	遺構外	42	土師器	高坏か	(18.0)			●	口～体	小片	ナデ　ヘラケズリ	ミガキ		やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR6/4灰黄褐	良好	
14	遺構外	43	土師器	台付甕			10.4		脚	小片	ハケメ(斜)	ナデ		やや粗、白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
14	遺構外	44	土師器	壺				●	口	小片	ハケメ(横) 加飾隆帯	ハケメ（横）		粗、金雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	摩耗が著しい
14	遺構外	45	土師器	坏	(12.8)			●	口～体	25	ハケメ　ナデ	ハケメ　ナデ		やや粗、金雲母　白色粒子	5YR7/3にぶい橙	良好	摩耗
15	遺構外	46	土師器	坏					底	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　墨書「□」	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/3にぶい橙	良好	
15	遺構外	47	土師器	坏・皿					体	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ　墨書「□□(大東)」逆位	ロクロナデ		密、赤色粒子　白色粒子	7.5YR6/3にぶい褐	良好	
15	遺構外	48	土師器	坏	(12.4)	2.3	9.0		口～底	85	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラケズリ　回転ヘラ切り	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	
15	遺構外	49	土師器	小型壺	胴部外径(8.5)				頸～底	70	ヘラミガキ	指頭ナデ	丸底	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/2灰褐	良好	
15	遺構外	50	陶器	緑釉　碗			(8.4)		底	小片	ロクロナデ	ロクロナデ　みこみ部陰刻文様		緻密	N.7/灰白	良好	全面施釉
15	遺構外	51	金属製品	釘							長さ10.0　重さ7.88ｇ						
15	遺構外	52	土製品	瓦						小片	布目	布目			7.5YR6/6橙	良好	
15	試掘　T－4	1	土師器	坏			4.4		底	小片	ロクロナデ　ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラケズリ　墨書「東大」	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	
15	試掘　T－1	2	須恵器	小型壺			(5.0)	●	底	小片	ロクロナデ	ロクロナデ		密、白色粒子	10YR6/2灰黄褐	良好	長頸壺小型　8Ｃ後半
15	試掘　T－3	3	陶器	天目茶碗	(10.8)			●	口～体	小片	ロクロナデ　施釉	施釉		やや密		良好	古瀬戸様式後期　後Ⅳ
15	試掘　T－3	4	磁器	青磁碗	(16.4)			●	口～体	小片	雷文帯　施釉	施釉		やや密、黒色粒子		良好	中国15Ｃ前半
15	試掘　T－1	5	土師器	甕					頸～体	小片	ハケメ			やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	5YR6/6橙	良好	
15	表採	6	石製品	五輪塔					火輪	80	縦20.6　横9.6　高さ12.1						

土製品観察表

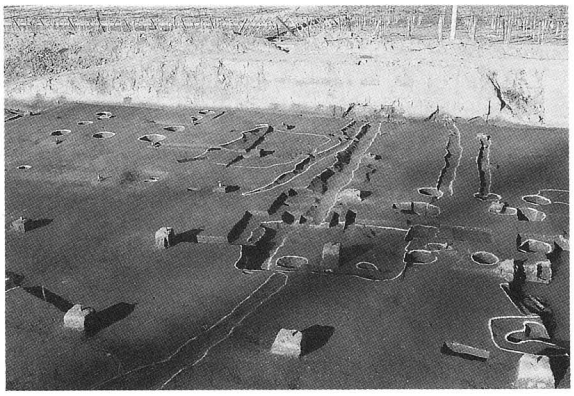
図版	遺構名	番号	器種	長さ・幅・孔径(cm)・重さ					色　調	焼成	備　考
1	1号竪穴建物	15	土錘	(5.0)	2.7	0.4	13.9g	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	16	土錘	3.9	1.6	0.5	9.3g	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	17	土錘	4.3	1.7	0.6	10.1g	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	18	土錘	3.4	2.0	0.6	12.1g	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	19	土錘	4.2	1.5	0.3	8.5g	やや密、金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	20	土錘	4.0	1.4	0.3	8.6g	密、白色粒子　黒色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	21	土錘	4.4	1.4	0.3	9.5g	やや密、金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	22	土錘	3.8	1.4	0.3	8.1g	密、金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	23	土錘	3.7	1.4	0.3	7.6g	やや密、金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	24	土錘	3.6	1.3	0.3	6.2g	やや密、金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	25	土錘	3.8	1.5	0.3	6.1g	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良好	完形
1	1号竪穴建物	26	土錘	(2.4)	(1.3)	0.3	4.4g	やや密、白色粒子　黒色粒子　金雲母	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
1	1号竪穴建物	27	土錘	(2.4)	(1.5)	0.3	4.2g	密、金雲母　白色粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
1	1号竪穴建物	28	土錘	(1.8)	(1.0)	0.3	2.0g	やや密、白色粒子　黒色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良好	
1	1号竪穴建物	29	土錘	2.5	1.1	0.3	2.2g	密、白色粒子　黒色粒子　金雲母	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
1	1号竪穴建物	30	土錘	(2.0)	1.3	0.3	2.5g	密、金雲母　白色粒子	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
1	1号竪穴建物	31	土玉	径 2.0			8.0g	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	10YR8/2灰白	良好	完形
8	10号土坑	1	土錘	(4.1)	1.5	0.5	9.4g	密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/3にぶい褐	良好	完形
14	遺構外(G-10)	18	土錘	(5.8)	2.3	0.6	29.3g	やや密、赤色粒子　金雲母　白色粒子	7.5YR6/6橙	良好	完形

調　査　区　　（西から）



B区　近 景　　（東から）

A区　近 景　　（西から）



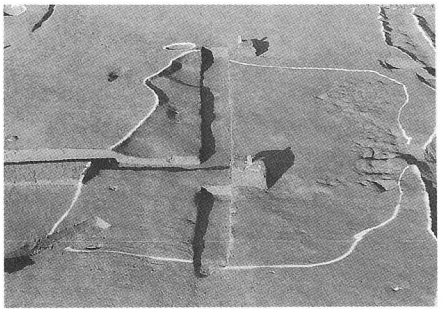
B区　中央部近景　　（南から）

B区　西側近景　　（北西から）

A区 近 景　　（西から）

C区　近 景　　（北から）

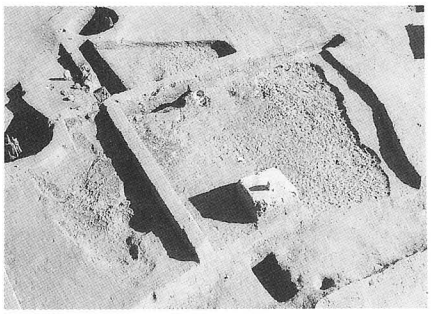
写真1　調 査 区 近 景



1号竪穴建物　（南から）

1号竪穴建物カマド　（南から）

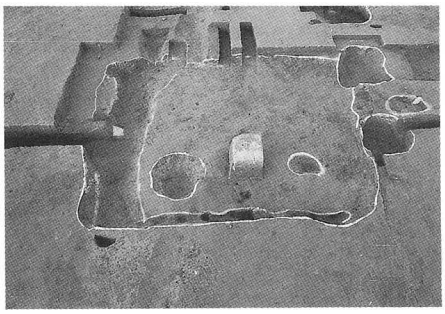
1号竪穴建物土錘等遺物出土　（南から）



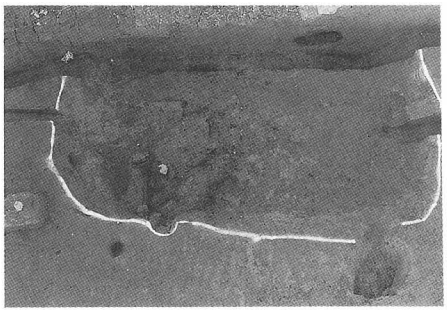
2号竪穴建物　（北西から）

2号竪穴建物カマド　（北から）

2号竪穴建物遺物出土　（西から）



3号竪穴建物　（南から）

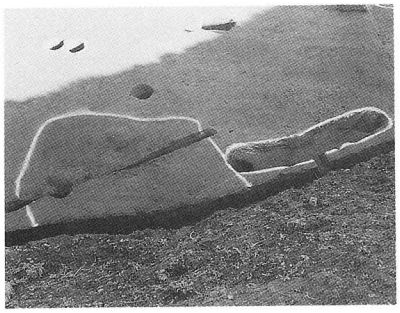


4号竪穴建物　（東から）

3号竪穴建物坏出土　（南から）

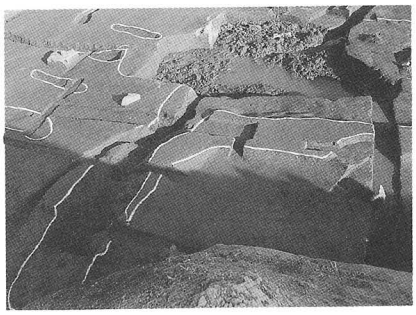
4号竪穴建物カマド　（西から）

4号竪穴建物遺物出土　（東から）



5号竪穴建物、27号溝　（西から）

6号竪穴建物　（東から）

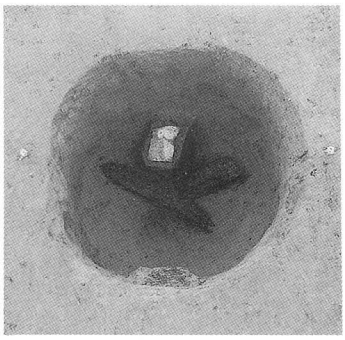


7号竪穴建物　（西から）

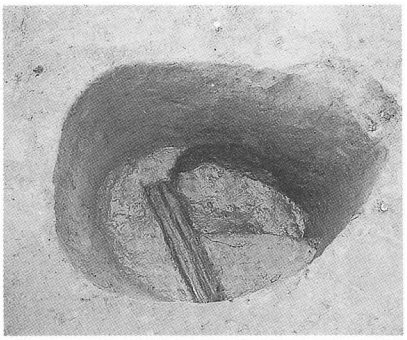
写真2　竪穴建物

1号掘立柱建物　（南から）

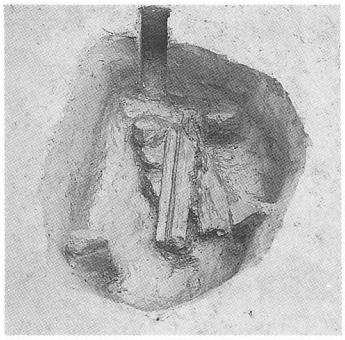
1号掘立柱建物柱穴1　（北から）



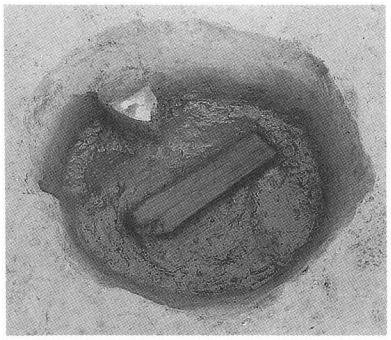
1号掘立柱建物柱穴2　（南から）



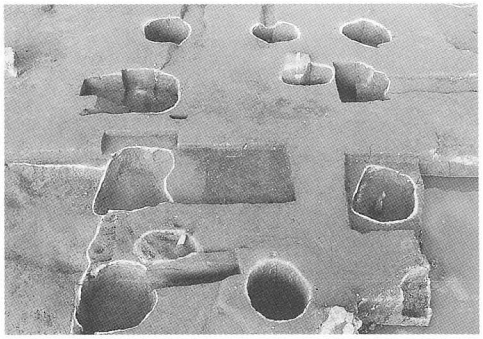
1号掘立柱建物柱穴4　（東から）



1号掘立柱建物柱穴7　（北から）

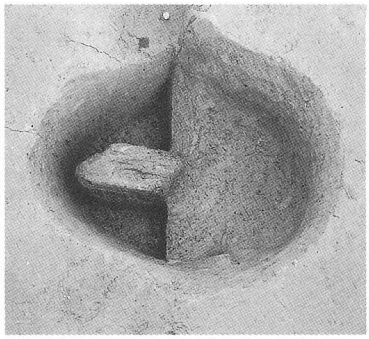


1号掘立柱建物柱穴9　（南から）



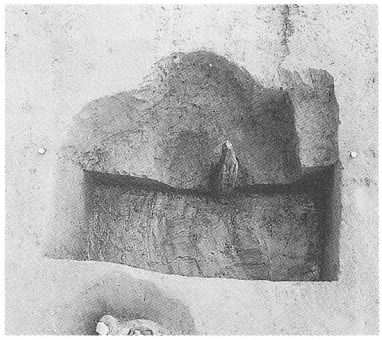
2号掘立柱建物　（南から）

2号掘立柱建物柱穴1　（北から）

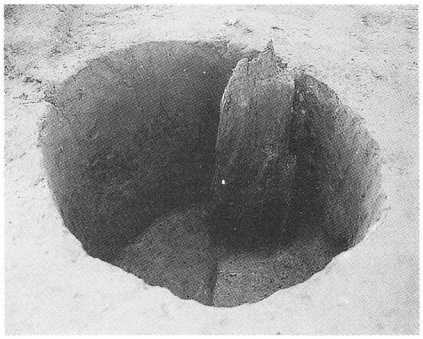


2号掘立柱建物柱穴2　（南から）

2号掘立柱建物柱穴3　（南から）



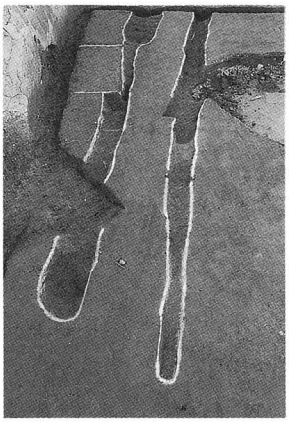
2号掘立柱建物柱穴5　（南から）



2号掘立柱建物柱穴9　（北から）

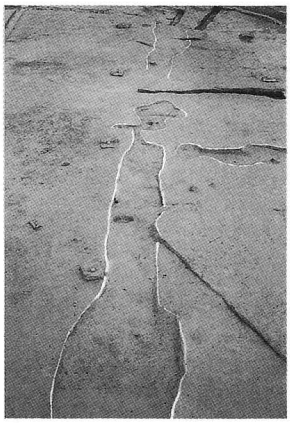
写真3　掘立柱建物

4号溝(上)、5号溝(下)　(南から)

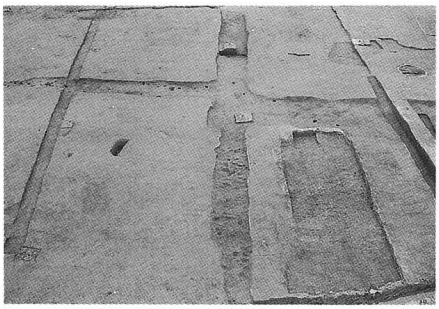


6, 7, 8号溝(左より)　(南から)

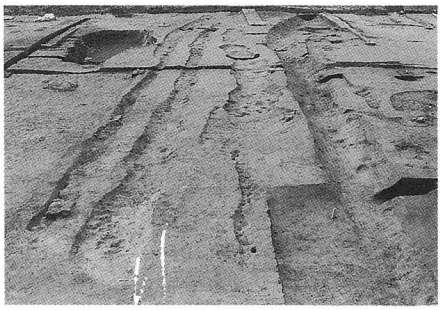
9号溝　(南から)



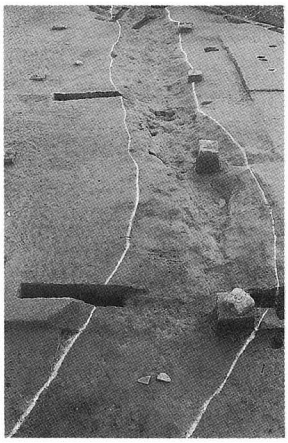
11号溝　(北から)



14号溝(上・下)、15号溝(左・右)　(南から)



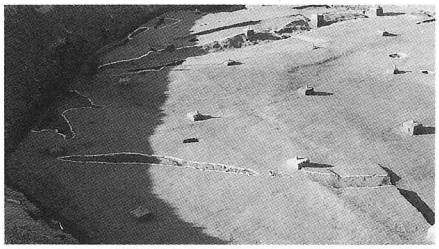
30・18・17・19・20・21・22号溝(右より)　(北から)



28号溝　(北から)

24号溝(上)
25号溝(下)

(北から)

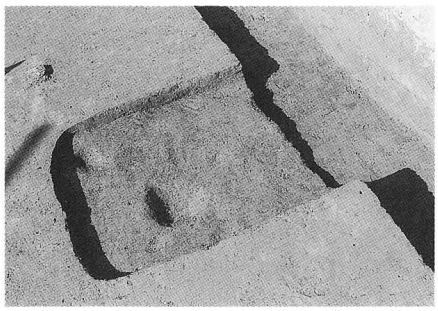


28号溝(上)
29号溝(下)

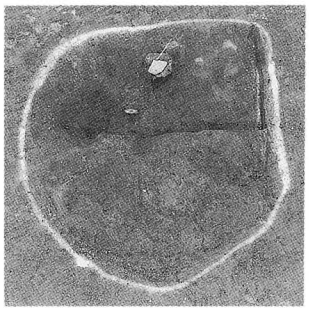
(南東から)

31号溝　(南から)

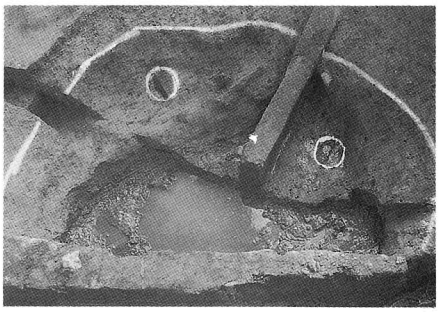
35号溝、埋甕 (東から)



5号土坑　(南東から)

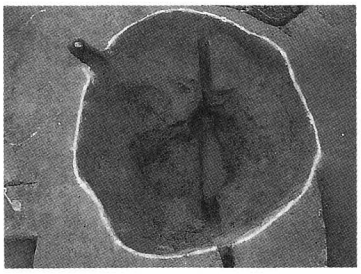


10号土坑　(南から)

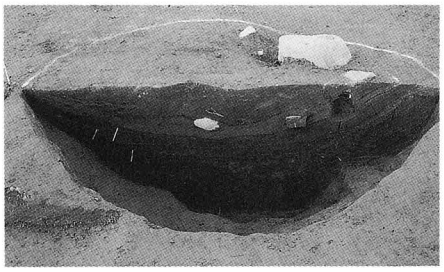


12号土坑　(北から)

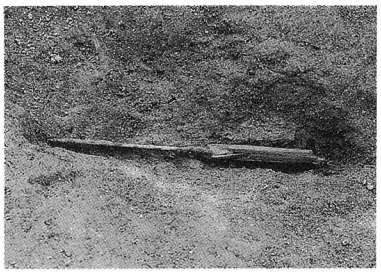
写真4　溝、土坑（1）



11号土坑　（西から）

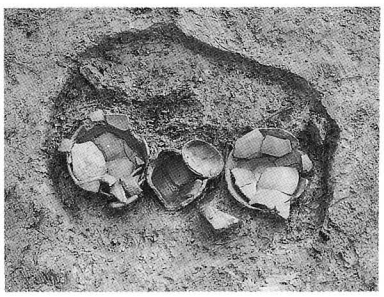


11号土坑半截　（南から）



11号土坑小刀出土　（北から）

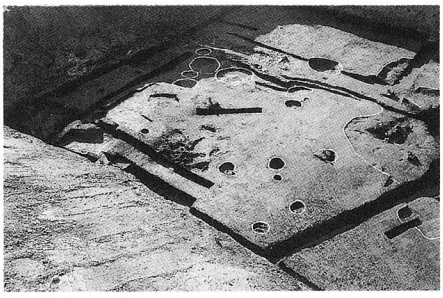
11，14～17号土坑、34号溝　（東から）



16号土坑遺物出土　（北から）

16号土坑土器下部炭化物出土　（南から）

15号土坑遺物出土　（南から）

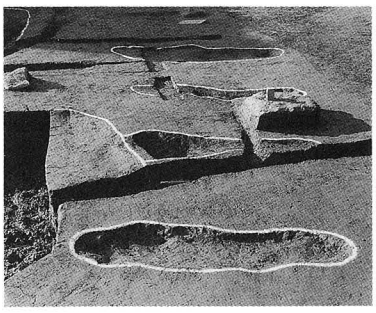


C区南側遺構　（北東から）

25号土坑　（東から）

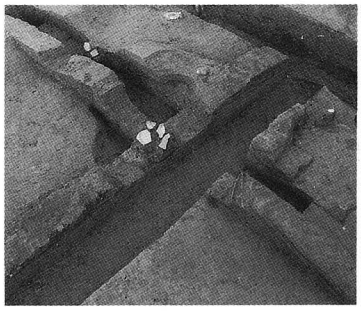
埋　甕

C区木根痕　（北東から）

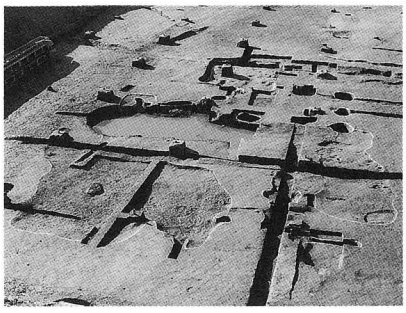


不明遺構１　（東から）

不明遺構２　（南西から）

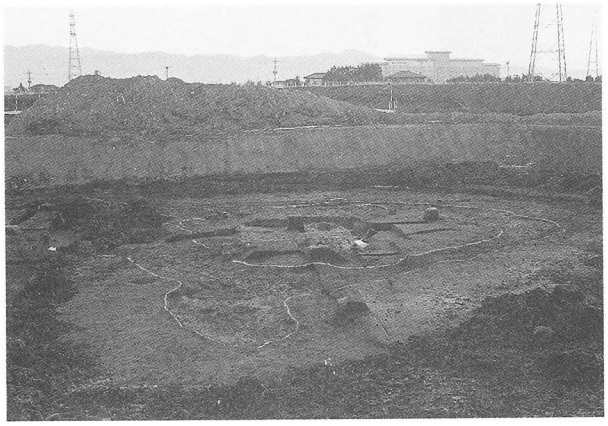


不明遺構２ 中央部　（南西から）

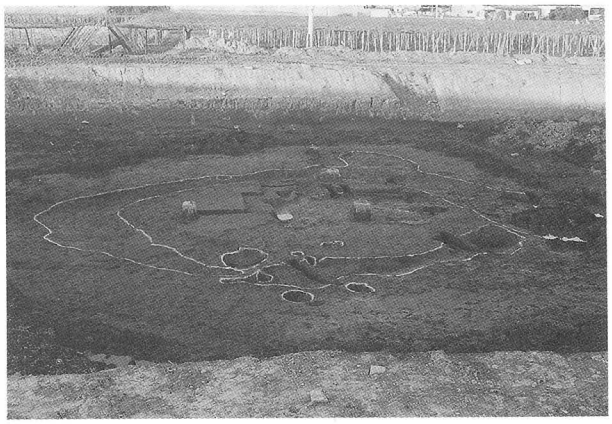


B区 炭化物集中範囲1・2　（東から）

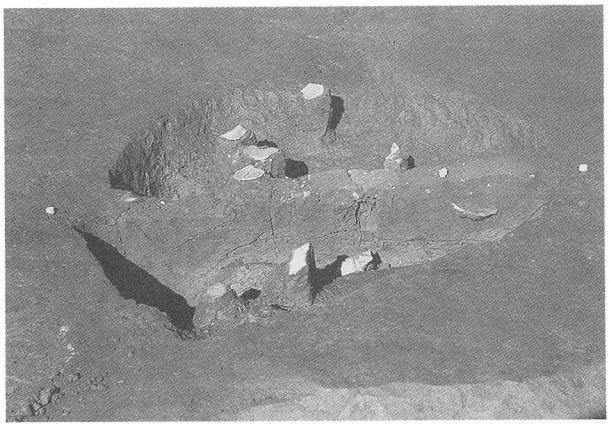
写真５　土坑（２）、埋甕、木根痕、不明遺構、炭化物集中範囲



方形周溝墓完掘　（北東から）



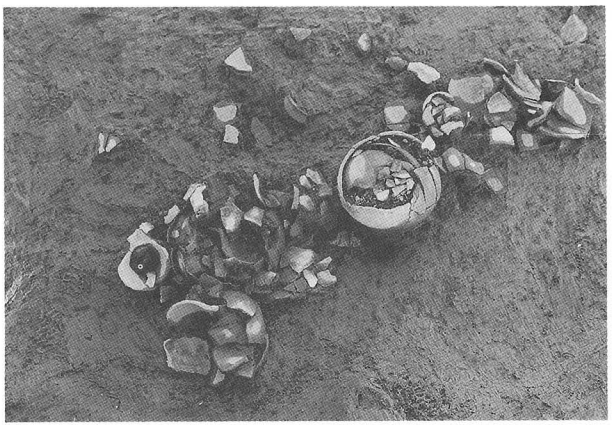
方形周溝墓完掘　（南西から）



南西隅29号土坑　（南から）

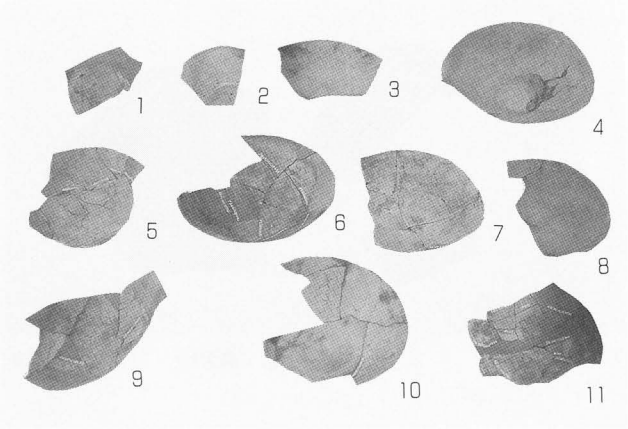
土器集中2　（北から）

土器集中1　（北西から）

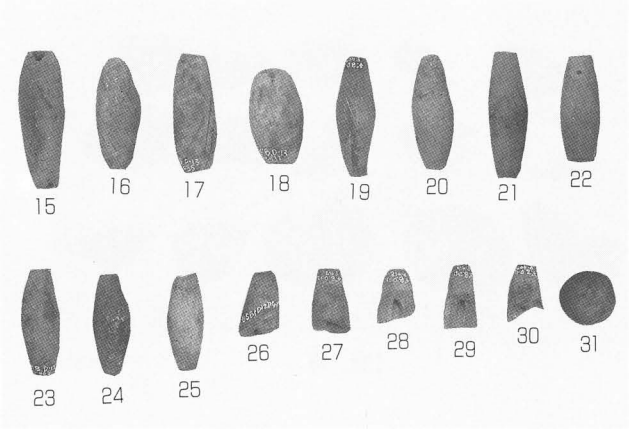


土器集中1部分　（東から）

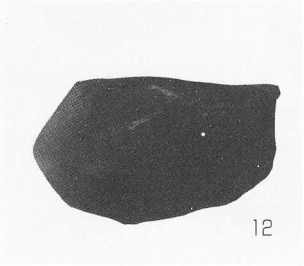
写真6　方形周溝墓



1竪　坏　（図版1）

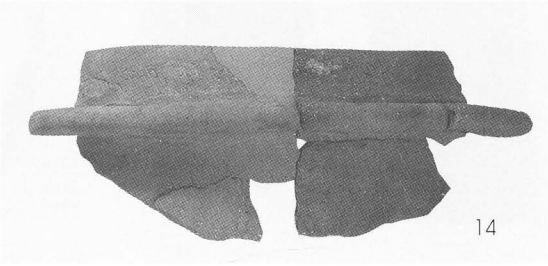


1竪　土錘　（図版1）

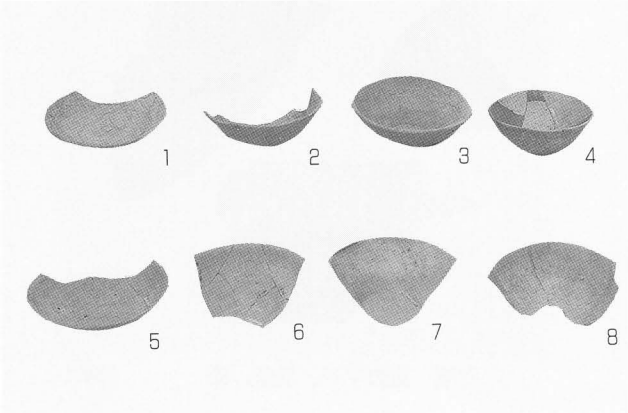


1竪　小壺　（図版1）

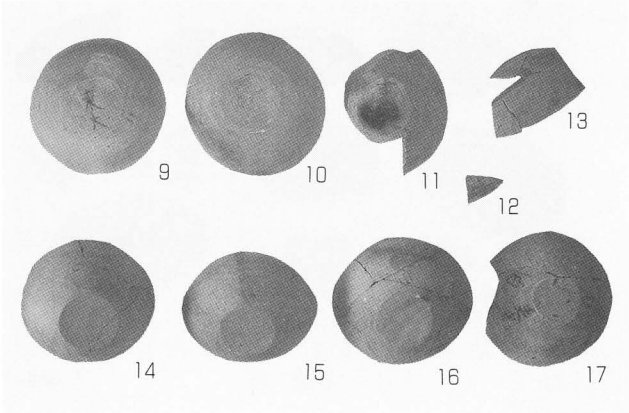
1竪　砥石　（図版1）



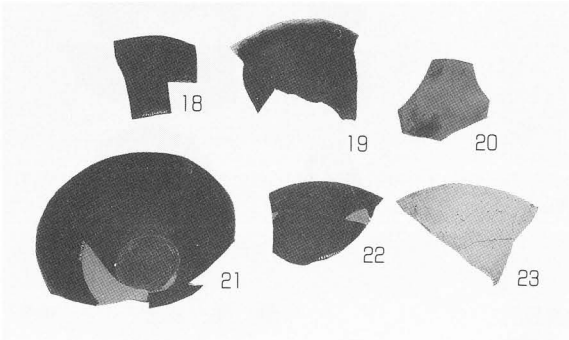
1竪　羽釜　（図版1）



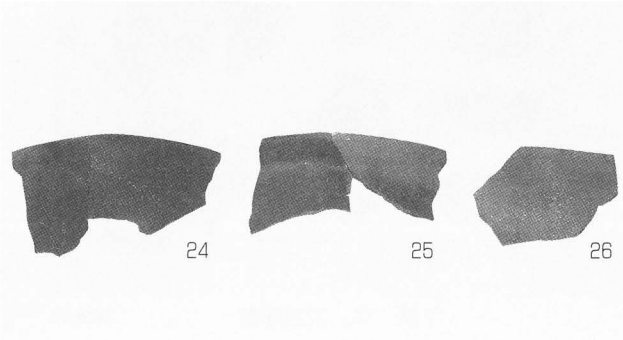
2・3竪　坏　（図版2）



2・3竪　墨書土器　（図版2）

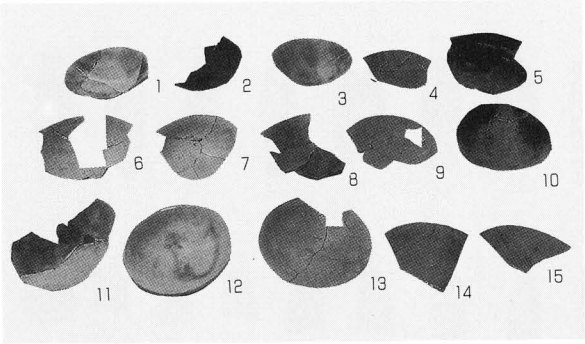


2・3竪　暗文土器 他　（図版2）

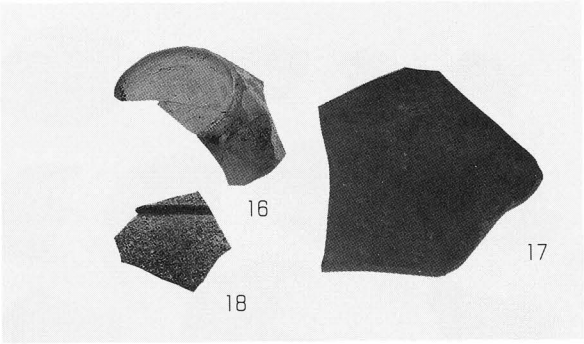


2・3竪　甕　（図版2）

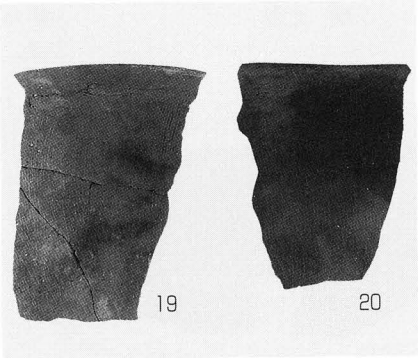
写真7　1・2・3号竪穴建物出土遺物



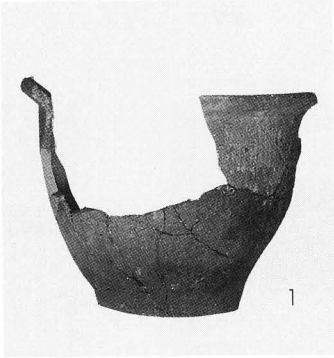
4竪　坏　（図版3）



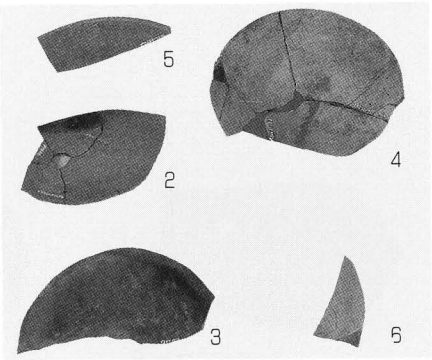
4竪　灰釉陶器、須恵器　（図版3）



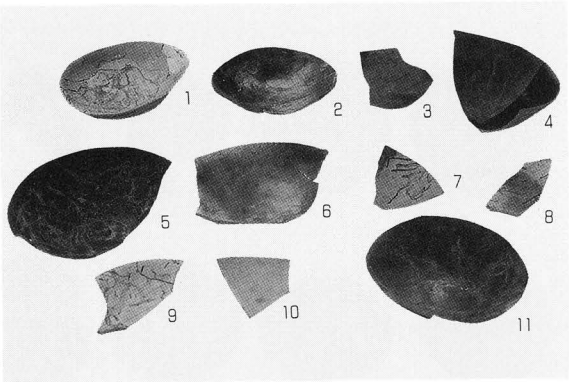
4竪　甕　（図版3）



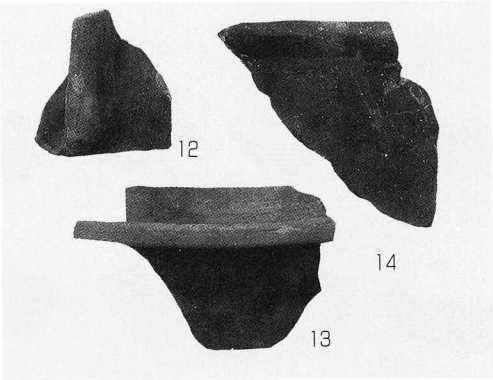
5竪　小型甕　（図版3）



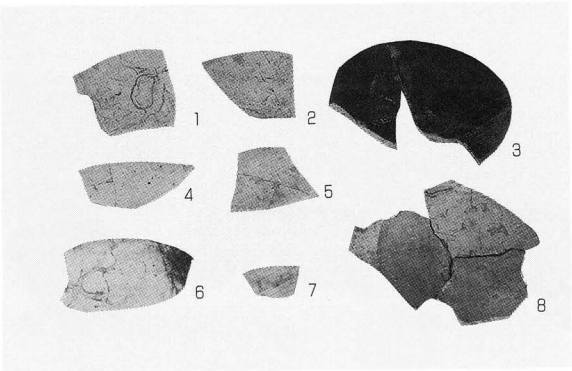
5竪　坏、灰釉陶器　（図版3）



6竪　坏　（図版4）

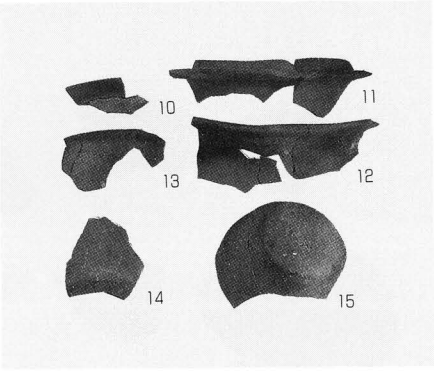


6竪　置カマド、羽釜、甕　（図版4）



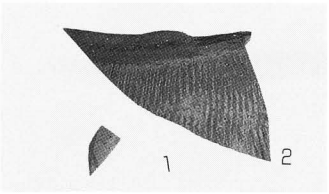
7竪　坏、灰釉陶器　（図版4）

7竪　金属製品
（図版4）



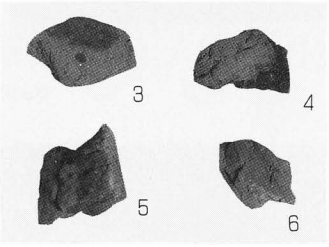
7竪　甕、羽釜　（図版5）

写真8　4・5・6・7号竪穴建物出土遺物



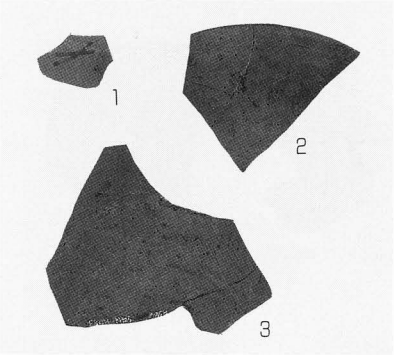
1掘
須恵器、坏

(図版5)

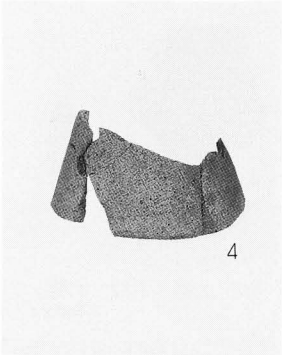


1掘
焼成粘土塊

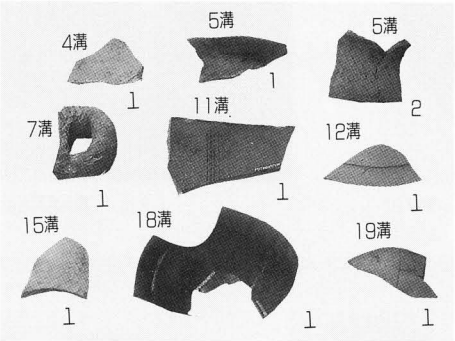
(図版5)



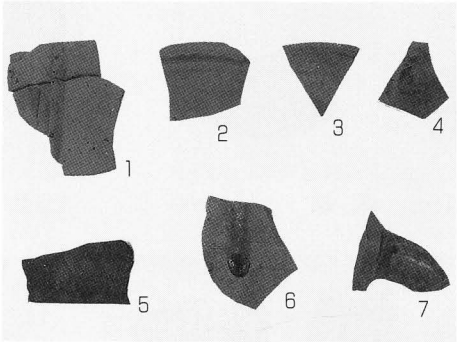
2掘　坏　(図版5)



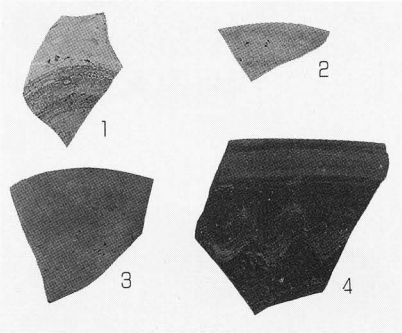
2掘　台付甕脚部　(図版5)



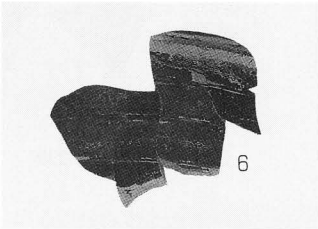
4・5・7・11・12・15・18・19溝　(図版6)



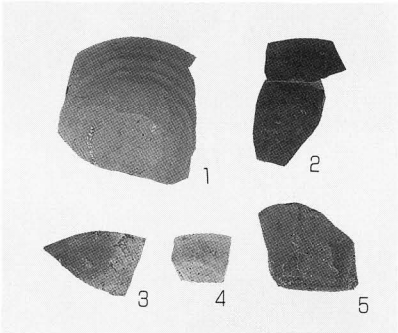
28溝　遺物　(図版6)



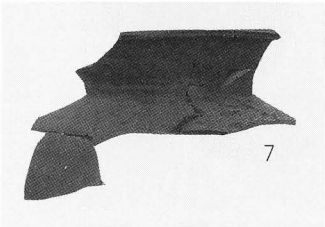
30溝　白磁、坏、須恵器　(図版6)



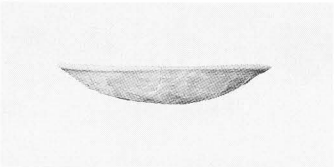
36溝　須恵器　(図版7)



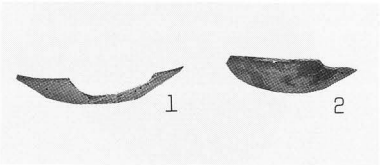
36溝　坏、置カマド　(図版7)



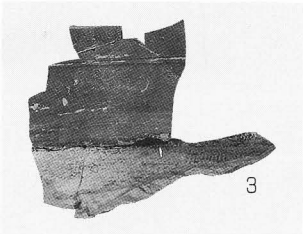
36溝　須恵器　(図版7)



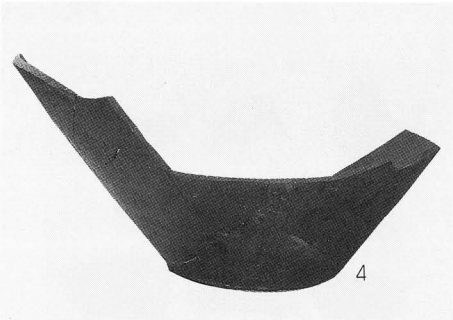
35溝　皿　(図版6)



埋甕　坏、皿　(図版7)

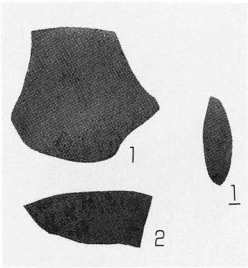


埋甕　須恵器　(図版7)

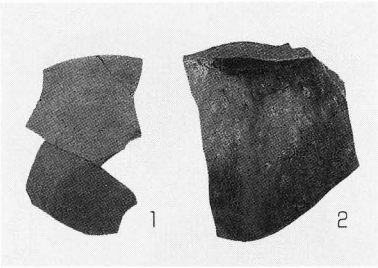


埋甕　須恵器　(図版7)

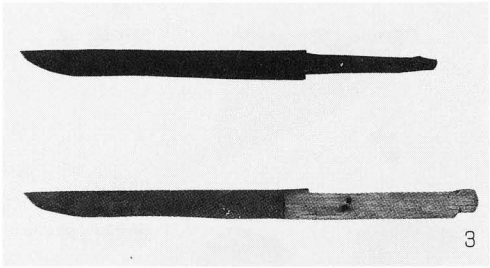
写真9　1・2号掘立柱建物、溝、埋甕出土遺物



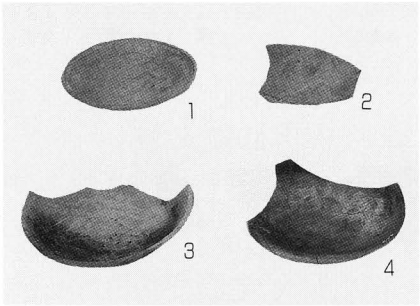
6土 土器　10土 土錘 (図版8)



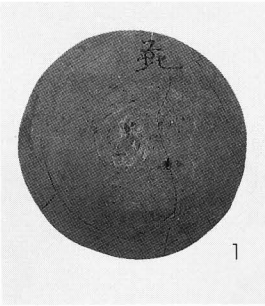
11土　坏、陶器 (図版8)



11土　小刀 (図版8)

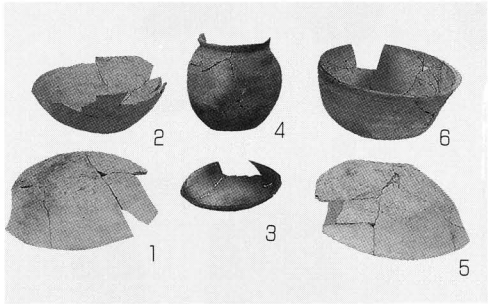


15土　坏、皿 (図版8)

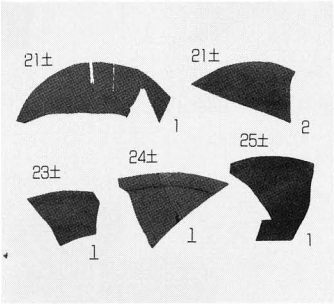


15土　墨書土器 (図版8)

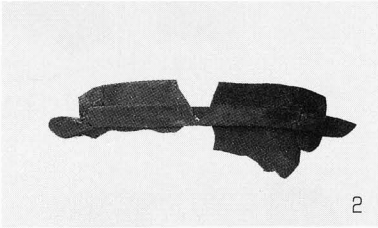
11土　籠状製品 (図版8)



16土　土 器 (図版9)

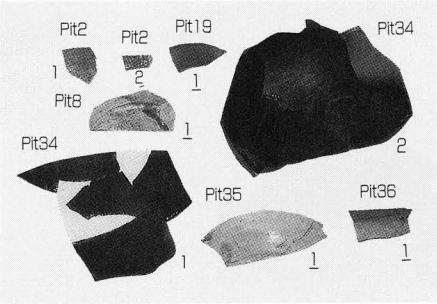


21・23・24・25土 土器 (図版9)

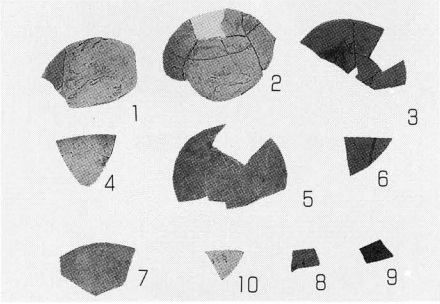


25土　羽 釜 (図版9)

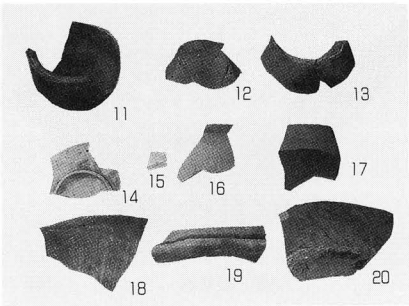
不明2　小型甕 (図版12)



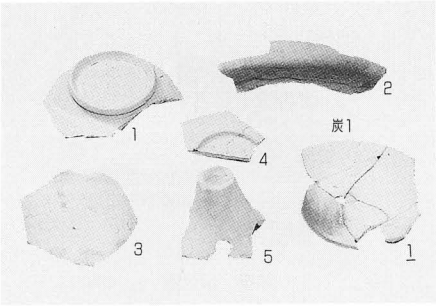
Pit 1・2・8・19・34～36　出土遺物 (図版9)



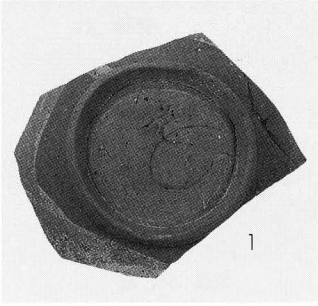
不明2　坏 (図版12)



不明2　出土遺物 (図版12)

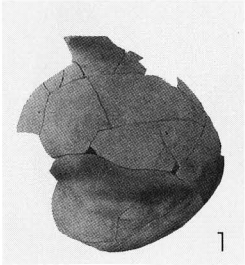


炭1・2　出土遺物 (図版13)

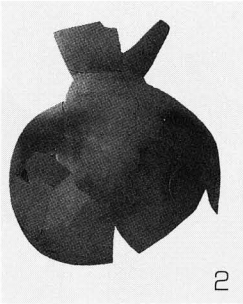


炭1　灰釉陶器碗墨書 (図版13)

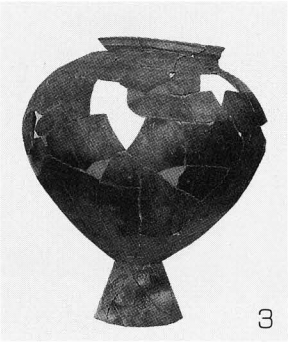
写真10　土坑、ピット、不明遺構、炭化物集中範囲出土遺物



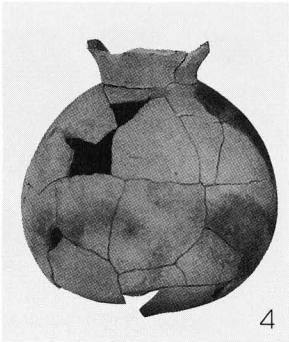
土器集中1



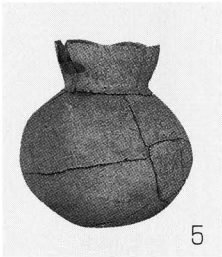
土器集中1



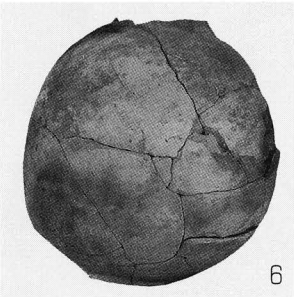
土器集中1



土器集中1

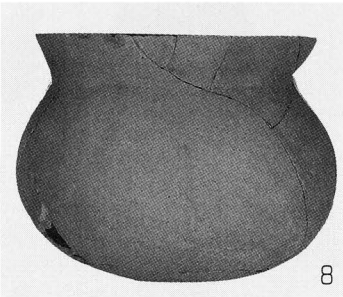


土器集中1

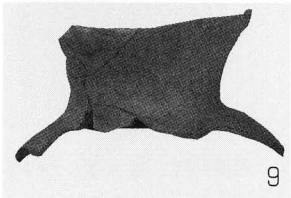


土器集中1

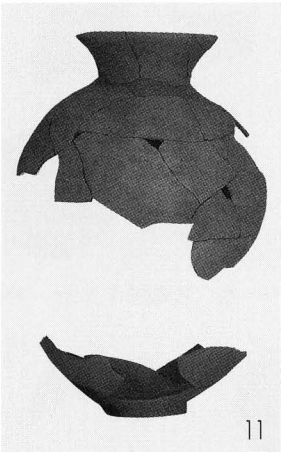
土器集中1



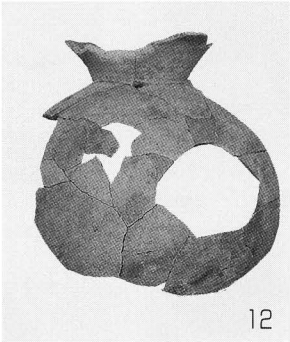
土器集中1



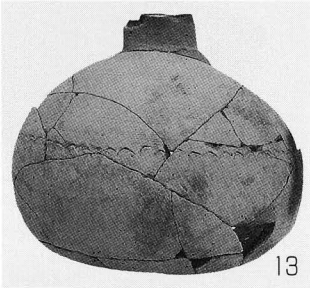
土器集中1



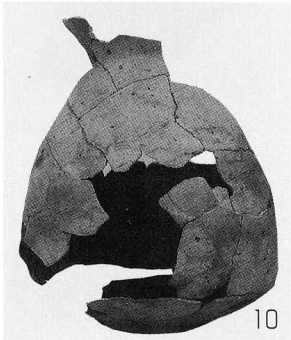
土器集中1



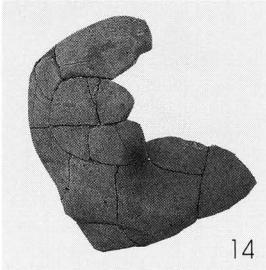
土器集中2

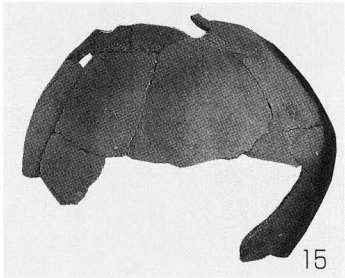


土器集中2

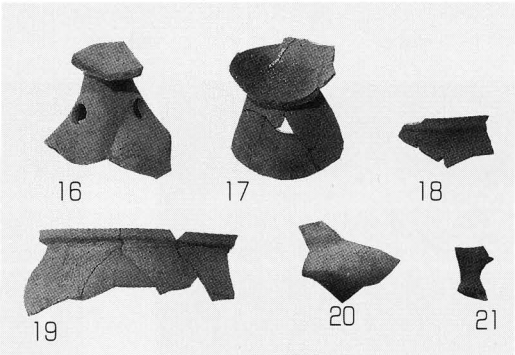


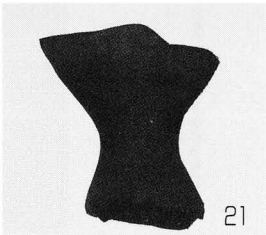
土器集中1





土器集中1

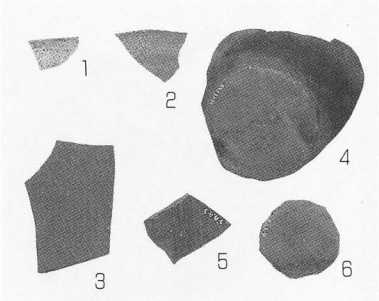




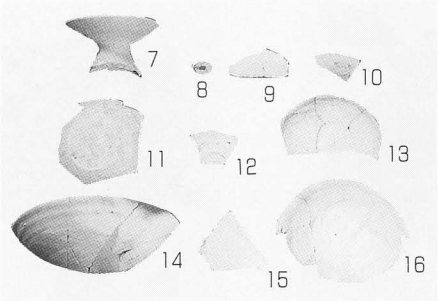
ミニチュア土器

写真 11　方形周溝墓出土遺物

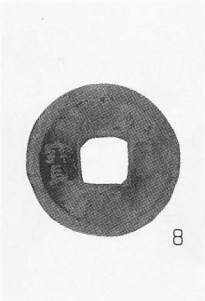
1～9 図版 10、10～21 図版 11



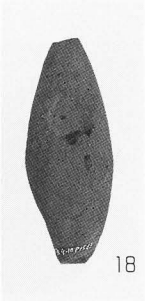
A区 グリッド・一括 (図版13)



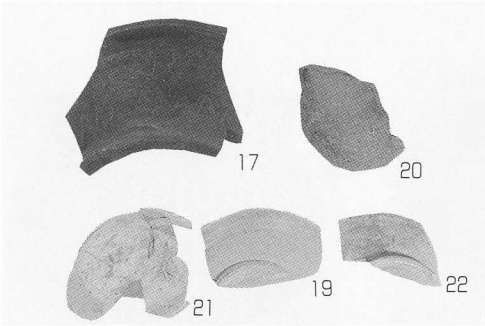
B区 グリッド・一括 (図版13)



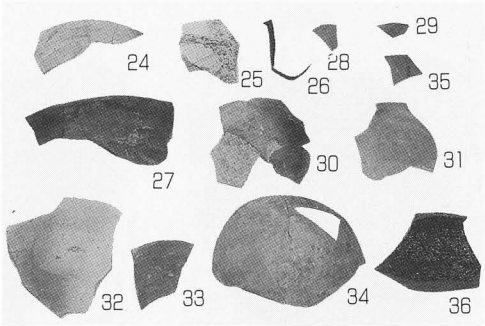
元祐通宝 (図版13)



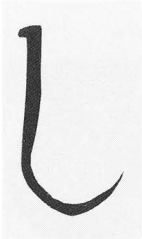
土錘 (図版13)



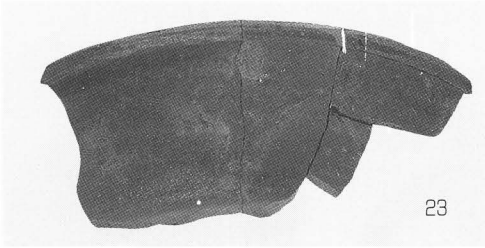
B区 グリッド・一括 (図版13)



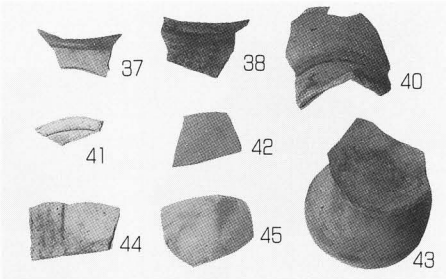
C区 グリッド・一括 (図版14)



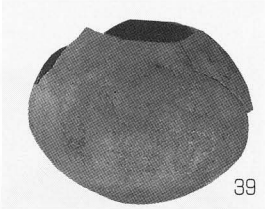
金属製品 (図版14)



C区グリッド・一括 須恵器 (図版14)

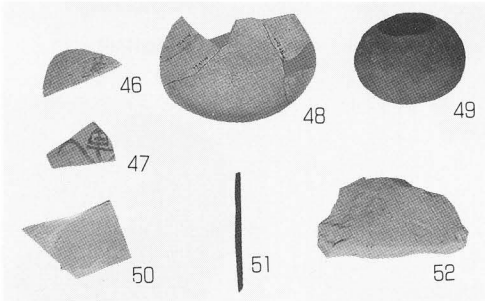


C区グリッド・一括 古墳時代土器 (図版14)

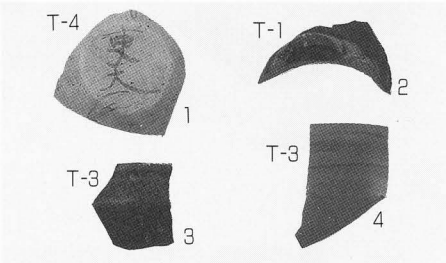


古墳時代土器 小壺 (図版14)

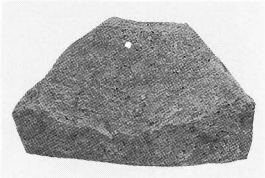
試掘T-1 土器 (図版15)



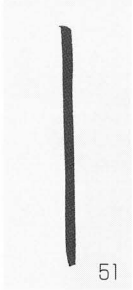
C区グリッド・一括 (46はB区) (図版15)



試 掘 (図版15)



表採 五輪塔(火輪) (図版15)



金属製品 (図版15)

玉諸小学校4～6年生見学風景

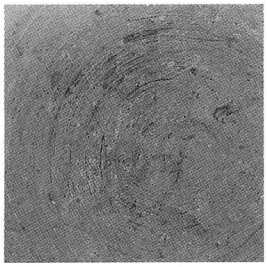
発掘調査参加者

写真12 グリッド・一括、試掘・表採遺物

1竪-1 坏底部

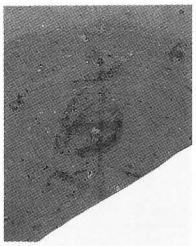
1竪-2 坏底部

2・3竪-9 皿底部「東大」


2・3竪-10 皿底部

2・3竪-11 皿底部「東大」

2・3竪-12 坏底部

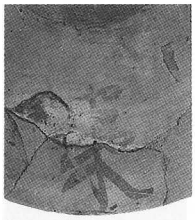

2・3竪-13 皿底部「東」

2・3竪-14 坏体部「日」

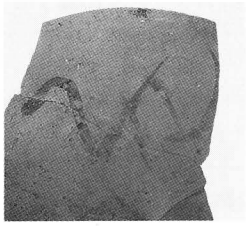
2・3竪-13
坏体部

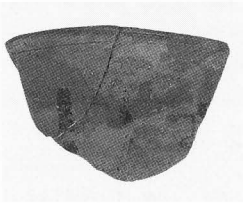
2・3竪-16 坏体部「東」

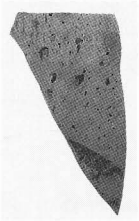
2・3竪-17 坏体部「日奉日」


6竪-1 坏体部「東」

6竪-2 坏体部


6竪-3 坏体部

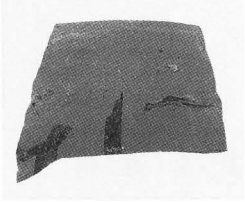

7竪-7 坏体部

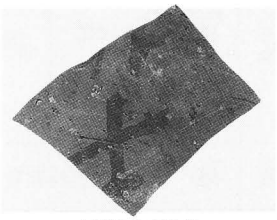

1掘-1 坏体部

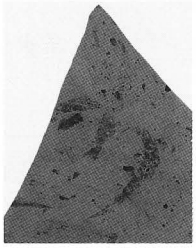
2掘-1 坏底部

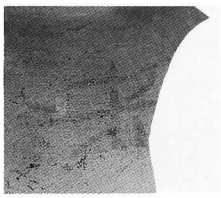
28溝-4 坏体部

15土-1 皿体部「子北」

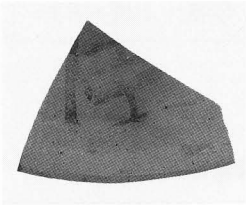

不明2-8 坏体部


不明2-9 坏体部


不明2-10 坏体部

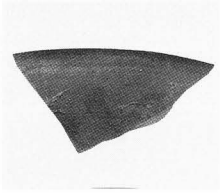

不明2-14 灰釉碗体部

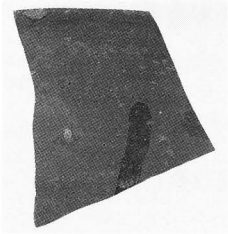
炭1-1 灰釉陶器碗底部

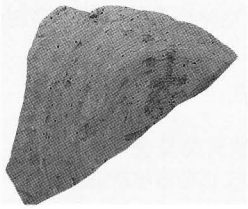

一括-10 坏体部

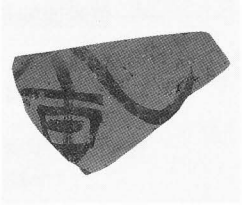
一括-21 坏底部「油大」?

一括-28 坏体部


一括-29 坏体部


一括-35 坏体部


一括-46 坏底部


一括-47 坏体部

試・表-1 坏底部「東大」

写真13　墨書土器一覧

報　告　書　抄　録

ふりがな	ヂクヤいせき
書名	ヂクヤ遺跡
副書名	一般廃棄物最終処分場建設に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	22
編集機関	甲府市教育委員会
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番１号　電話 055(223)7324
発行年月日	平成15年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間 調査面積	調査原因
ヂクヤ遺跡（いせき）	山梨県甲府市（やまなしけんこうふし）蓬沢町（よもぎさわまち）1014番地、西高橋町（にしたかはしちょう）389-1番地ほか	19201	216	35° 38′ 18″	138° 35′ 41″	H13.8.17 ～ H13.12.27 2,200㎡	一般廃棄物最終処分場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ヂクヤ遺跡	集落	古墳時代 古代 中世	溝・掘立柱建物・竪穴建物・方形周溝墓・土坑・井戸	土師器・須恵器・灰釉陶器・土錘・金属製品・炭化米	

甲府市文化財調査報告22

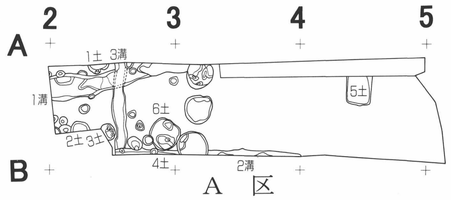
ヂクヤ遺跡

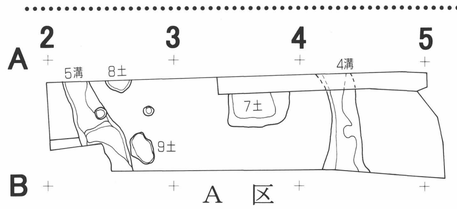
―一般廃棄物最終処分場建設に伴う発掘調査報告書―

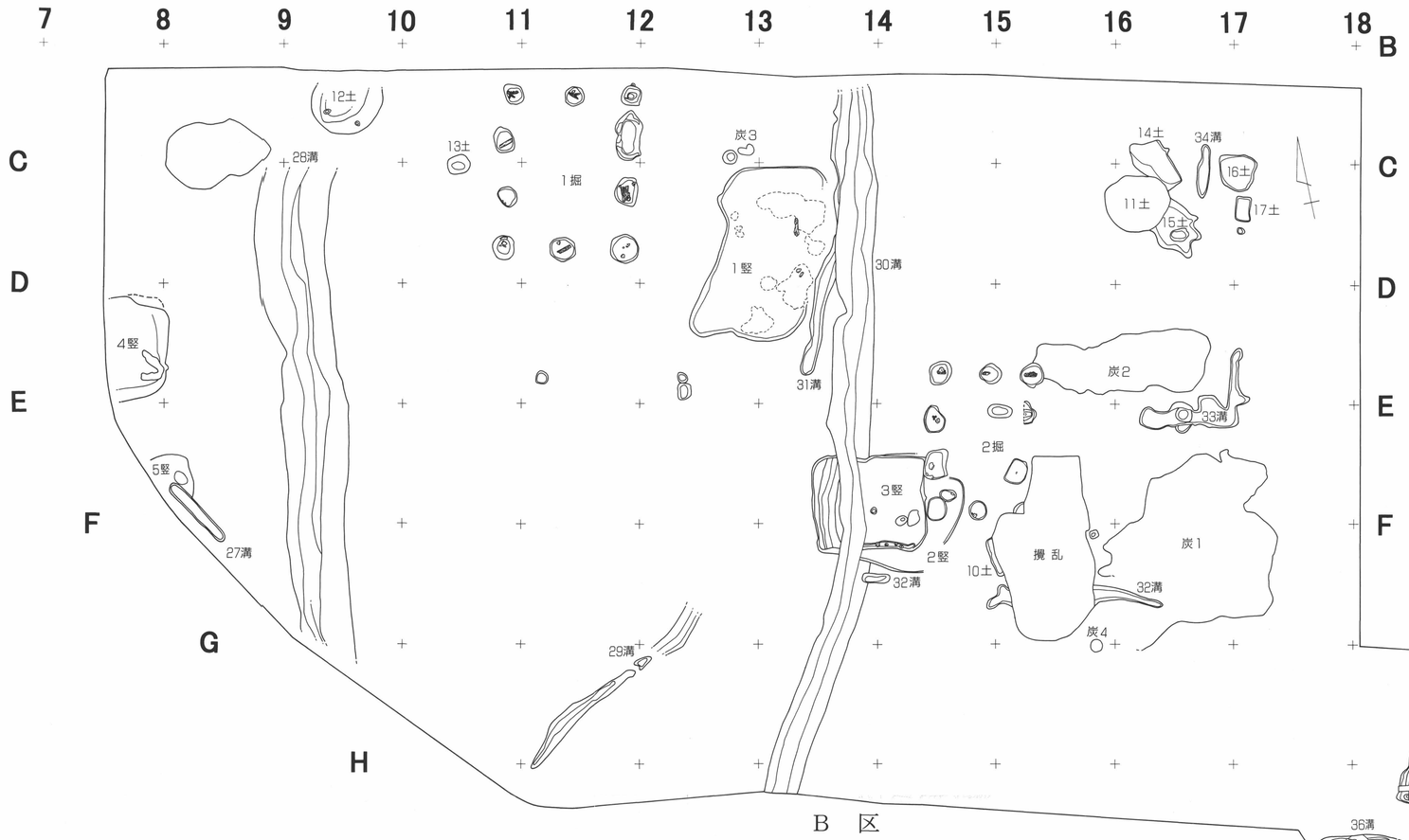
平成15年３月31日

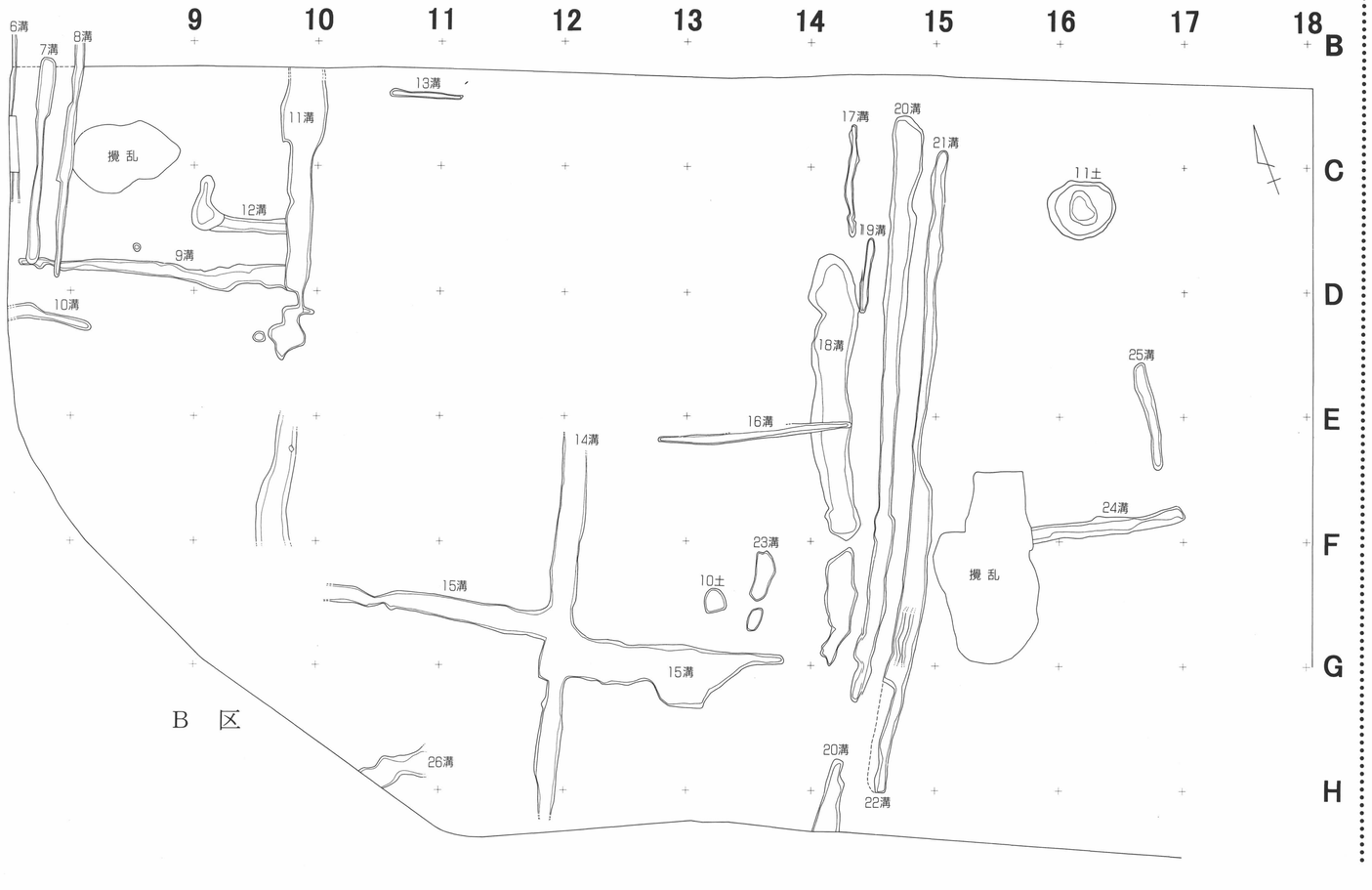
発　行　甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内１丁目18番１号
TEL 055（223）7324
FAX 055（226）4889

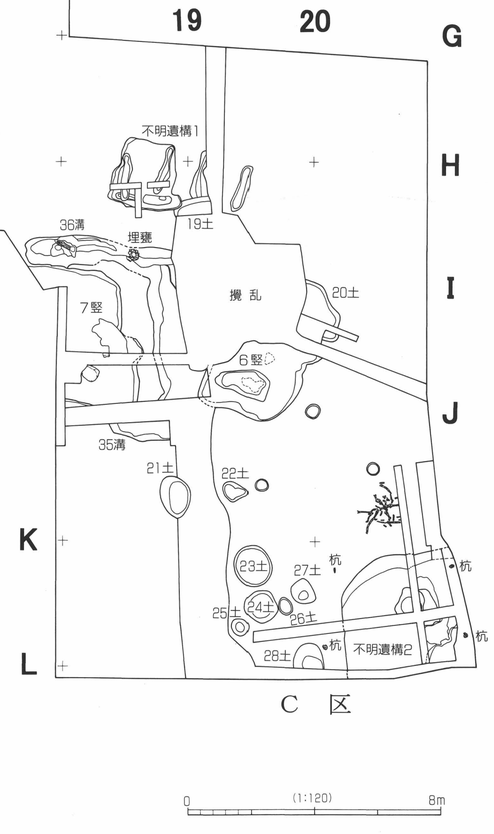
印　刷　㈱内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18











第18図　ヂクヤ遺跡全体図